

文化庁委託事業
「ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業」

業務成果報告書

令和5年3月

株式会社 JR西日本コミュニケーションズ

1. 事業概要

1-1.事業概要	P.3
1-2.実施体制	P.4
1-3.実施スケジュール	P.5
1-4.実施状況	P.6
1-5.参加企業・教育機関一覧	P.7

2. 事業内容

2-1.自主事業で活用した教材・ツール	
①動画教材の開発「遊べるトラベル学べる日本語」	P.9
②「姫路城 V R 映像を活用したオンライン課外学習教材の提供」	P.29
③オンライン教材の提供	P.35
④機材レンタル	P.39
2-2.自主事業で実施した日本語教師研修	P.41
2-3.自主事業で実施した中間報告会/最終報告会	P.52
2-4.（公募事業）日本語教育機関が実施したオンライン教育の実証事業	
①公募事業の全体像	P.68
②実施校及び事業一覧	P.69
③効果検証（アンケート調査）の実施	P.74
④課題と分析	P.91

3. 本事業における成果・課題とオンライン日本語教育普及に向けた提言

3-1.本事業における成果・課題	P.102
3-2.オンライン日本語教育普及に向けた提言	P.104

1. 事業概要

■事業の趣旨

新型コロナウイルス感染拡大による入国制限等の影響により、我が国に入国できない外国人留学生が増加の一途を辿っている。令和3年11月からの水際対策に係る新たな措置により段階的に外国人留学生の受入れが開始されたものの、オミクロン株の影響もあって、外国人の入国制限措置が継続されている状況にある。

コロナ禍でオンライン教育は増えてきているものの、各機関の取り組みは区々であり、質の高い日本語教育をオンライン環境において実現することは必要不可欠と考え、本事業は、入国が困難な外国人留学生への日本語教育環境を構築するため、オンラインを活用した日本語教育を実証することで、ウィズコロナにおける持続的な日本語教育のあり方を検討する。

■事業の目的

- ①日本語教育のインフラを崩壊させないよう、日本語教育機関および教師の支援
- ②待機留学生が日本への留学を諦めないよう、モチベーションを高め維持する
- ③日本の魅力発信・留学モチベーションの訴求により、将来の見込み留学生の開拓

⇒これらの目的を達成できるような「質の高い日本語教育」を、オンラインを活用して実証し、ウィズ/アフターコロナにおける持続的な日本語教育のあり方を検討する。

◆実施業務

- ・事業全体の実施及び報告会の開催
- ・日本語教師研修
- ・オンライン教材の提供
- ・機材レンタルの提供
- ・動画教材の開発
- ・姫路城VR映像を活用したオンライン課外学習教材の提供
- ・日本語教育機関の公募、審査、選定、精算業務



民間団体 (株)JR西日本コミュニケーションズ

グローバルビジネス局

- ◆事業全体統括、進捗管理、予算管理
- ◆文化庁様との連絡調整
- ◆JaLSA様との連携
- ◆有識者との連携
- ◆報告書集約・作成

コミュニケーション
プランニング局

- ◆調査、分析

クリエイティブ局

- ◆動画教材開発

インタラクティブ
コミュニケーション局

- ◆HP関連業務

プロモーション局

- ◆説明会、報告会等の
企画～運営全般

経理グループ

- ◆日本語教育機関等
への支払業務

実証事業事務局

- ◆日本語教育機関からの問い合わせ対応
- ◆申請書・報告書の作成サポート
- ◆自主事業（教材、レンタル機材等）の申込受付・手配
- ◆実証事業の審査・選定
- ◆実証事業費の精算用資料作成・手配

一般社団法人
全国日本語学校連合会様

JaLSA

一般社団法人全国日本語学校連合会

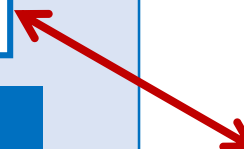
- ◆事業全般監修、指導
- ◆事業連携、公募等の協力

日本語教育有識者

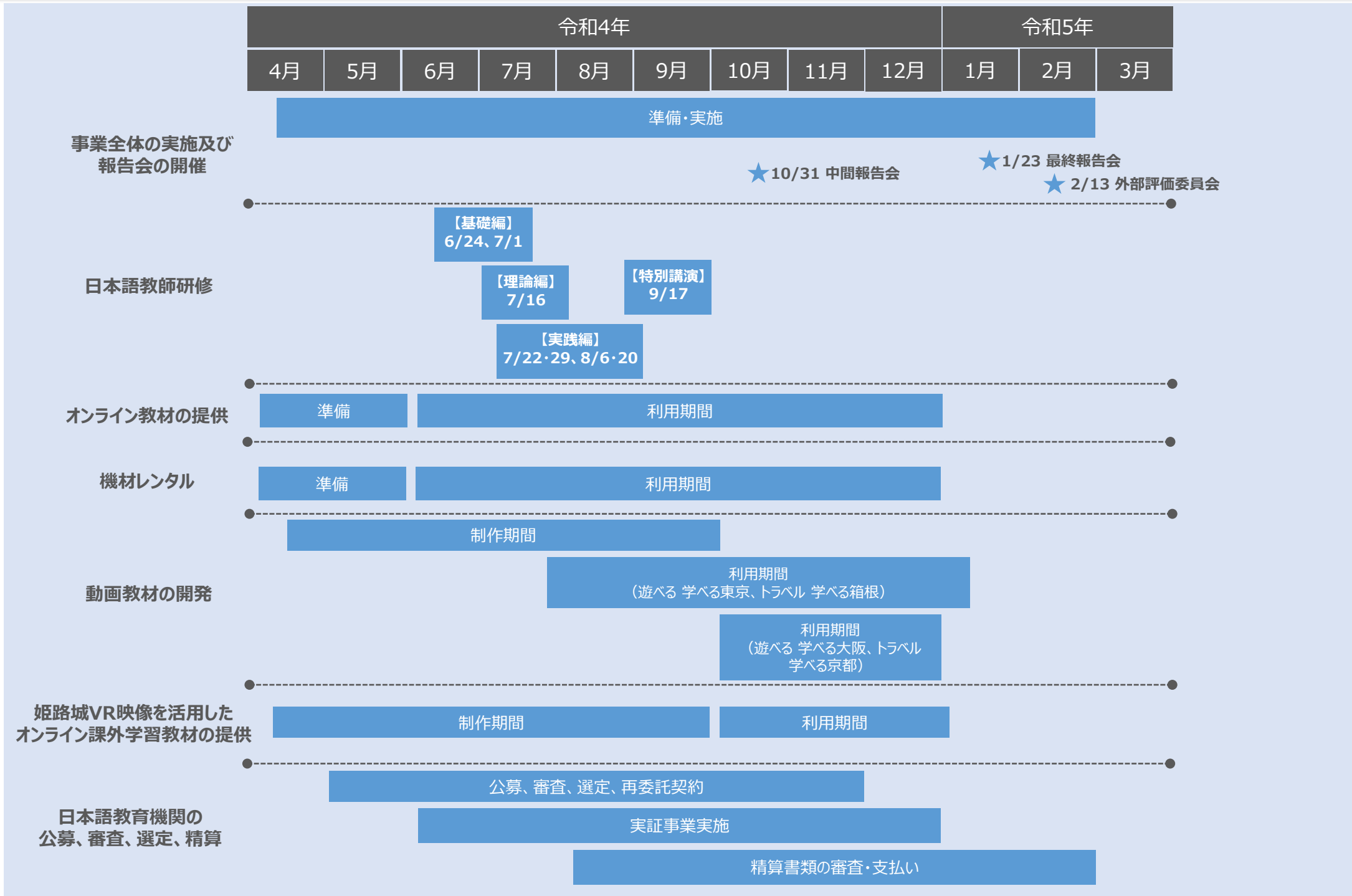
- ◆報告・分析に対するアドバイス

日本語教育機関

- ◆実証事業の実施



1-3. 実施スケジュール



1-4. 実施状況

レベル	言語活動	⑪オンライン（双方向）のみ			⑫ハイブリッド型			⑬オンデマンド型			⑭ハイフレックス型		
		進学	就職	一般	進学	就職	一般	進学	就職	一般	進学	就職	一般
A1	①話す（やりとり）	31	3	5	12	3	5	9	0	14	0	0	3
	②話す（発表）	31	3	5	12	3	5	9	0	14	0	0	3
	③聞く	31	3	5	12	3	5	9	0	14	0	0	3
	④読む	31	3	5	12	3	5	9	0	14	0	0	3
	⑤書く	25	3	5	11	3	5	9	0	13	0	0	2
	⑥日本事情・日本理解	5	1	1	1	0	2	2	0	1	0	0	0
	⑦その他	0	1	0	2	3	1	0	0	10	0	0	1
A2	①話す（やりとり）	19	5	7	12	1	6	5	1	3	0	0	1
	②話す（発表）	19	5	7	12	1	6	5	1	3	0	0	1
	③聞く	19	5	7	12	1	6	5	1	3	0	0	1
	④読む	19	5	7	12	1	6	5	1	3	0	0	1
	⑤書く	16	4	2	12	1	5	5	1	2	0	0	1
	⑥日本事情・日本理解	2	2	3	0	0	2	1	1	1	0	0	0
	⑦その他	1	3	2	2	1	2	0	1	2	0	0	0
B1	①話す（やりとり）	11	4	7	3	1	0	3	0	2	0	0	0
	②話す（発表）	11	4	7	3	1	0	3	0	2	0	0	0
	③聞く	11	3	7	3	1	0	3	0	2	0	0	0
	④読む	11	4	6	3	1	0	3	0	2	0	0	0
	⑤書く	7	3	4	2	0	0	3	0	1	0	0	0
	⑥日本事情・日本理解	4	3	6	3	0	0	0	0	1	0	0	0
	⑦その他	0	3	3	0	1	0	0	0	2	0	0	0
B2	①話す（やりとり）	10	3	5	1	2	1	0	0	1	0	0	0
	②話す（発表）	10	3	5	1	2	1	0	0	1	0	0	0
	③聞く	10	3	4	1	2	1	0	0	1	0	0	0
	④読む	10	3	5	1	2	1	0	0	1	0	0	0
	⑤書く	8	2	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	⑥日本事情・日本理解	5	1	4	1	0	0	0	0	1	0	0	0
	⑦その他	1	0	2	0	2	0	0	0	1	0	0	0
C	①話す（やりとり）	5	1	3	4	1	1	0	0	0	0	0	0
	②話す（発表）	5	1	3	4	1	1	0	0	0	0	0	0
	③聞く	5	1	3	4	1	1	0	0	0	0	0	0
	④読む	5	1	3	4	1	1	0	0	0	0	0	0
	⑤書く	4	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	⑥日本事情・日本理解	3	1	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	⑦その他	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0

1-5. 参加企業・教育機関一覧

学校名			
1	Aoyama Hope Academy	18	行知学園第二付属日本語学校
2	新白河国際教育学院	19	市川日本語学院
3	JCL外国語学院	20	日本語学校 活学書院
4	平成国際アカデミー	21	アジアンインターナショナル
5	JCLI日本語学校	22	早稲田進学館中野校
6	さきたま国際学院	23	河原学園 河原電子ビジネス専門学校
7	名古屋YWCA学院日本語学校	24	フジ学園専門学校ITカレッジ沖縄
8	東京外語教育学院	25	あさひ日本語学校
9	翰林日本語学院	26	学校法人 弘堂国際学園
10	ファーストスタディ日本語学校大阪本校	27	明晴国際学院
11	神戸外語教育学院	28	東京コスモ学園
12	神戸YMCA学院専門学校日本語学科	29	城東日本語学校
13	東京王子外国語学院株式会社	30	東京国際知識学院
14	仙台ランゲージスクール日本語科	31	東大阪みらい日本語学校
15	新日本学院	32	新東方日本語学校東京本校
16	東京日語学院	33	新亜国際語言学院
17	行知学園日本語学校		

2.事業内容

実施背景

待機留学生が日本への留学を諦めないよう、自国でも受けられる授業とは異なるオンライン授業を設定することに加え、将来の日本語教育のバリエーションの拡大を図ることが必要。

概要

これまでの教科書中心の授業とは異なる興味喚起、留学のモチベーションアップ、学習の質向上を図るための動画教材を開発。

特徴

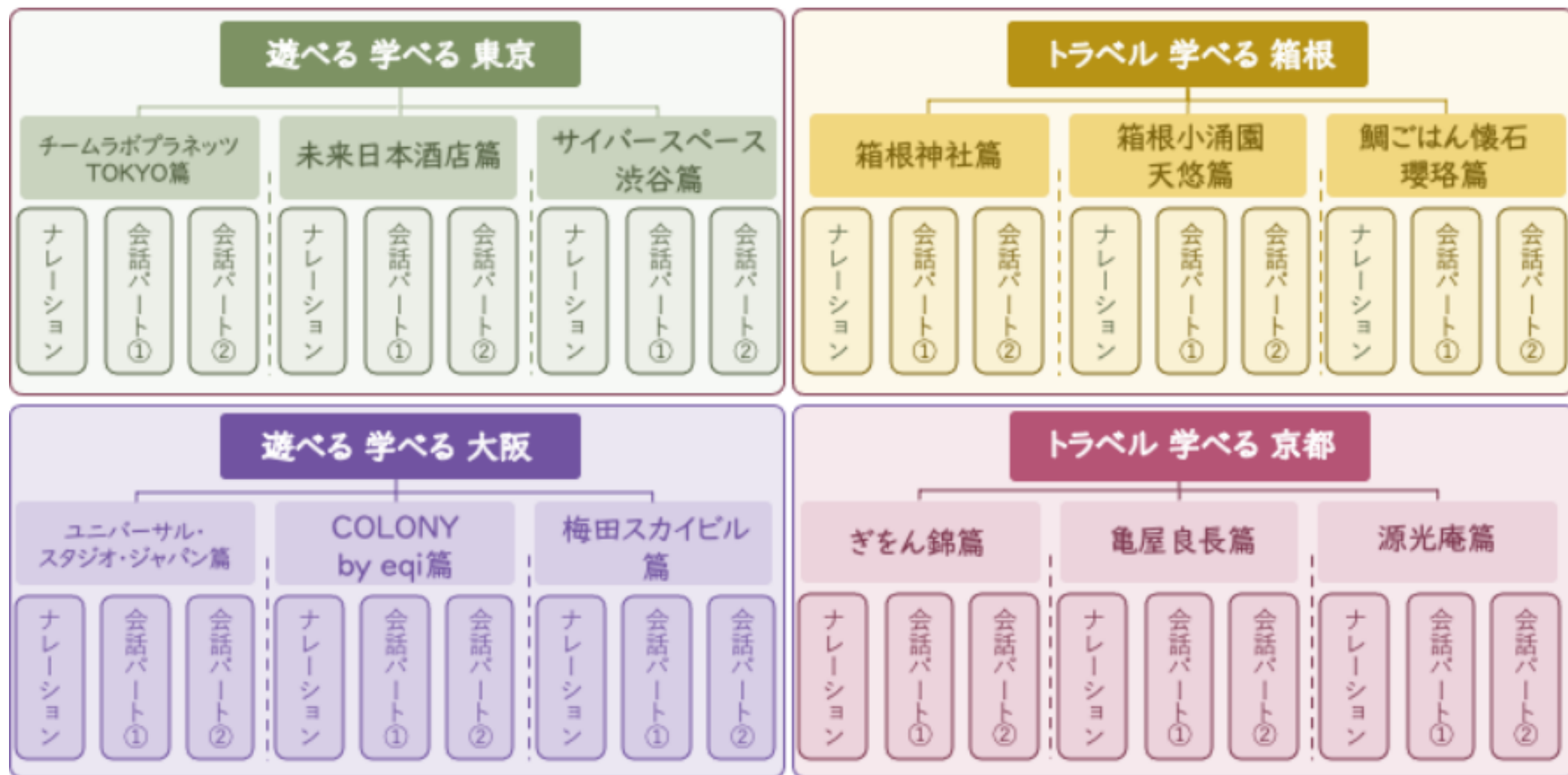
- ①教科書の定型句ではなく、映像を通じた疑似体験を通じて、実際にそこで使われる生きた日本語・日本文化を学べる。
 - ★「最新技術」と「伝統文化」という2つの観点から選ばれた、関東と関西の観光スポットを疑似体験することにより、日本語、日本文化を学ぶことができる。
 - ★観光スポットを巡るのは学習者と同じ世代の留学生なので、学習者は共感をもちながら学習に取り組むことができる。
- ②日本国内の観光スポット巡りを疑似体験することにより、豊かで楽しい日本語学習を目指す。
 - ★観光スポット紹介パートには簡単な日本語解説がついており、日本文化理解や授業の導入素材として利用できる。
 - ★観光スポットで展開するのは、出演者（留学生）がその場で感じたことを感じたままに口に出した自然な日本語であり、そこには従来の日本語教科書にはない、自然な日本語表現が豊かにあらわれる。
- ③留学生が観光スポットで交わした日本語会話を通じて、五つの言語活動を学べるようになっている。
 - ※「五つの言語活動」とは、『日本語教育の参照枠 報告』（文化審議会国語分科会、令和3年10月12日）の中で示された「聞く」「読む」「話す（やり取り）」「話す（発表）」「書く」を指しています。
- ④自然な日本語表現を授業にとりいれるための副教材・教師用指導書が備わっており、教師の授業準備をサポートする内容になっている。

動画教材の構成

「東京」「箱根」「大阪」「京都」のエリアごとに3つのスポットを紹介する動画を制作し、それぞれに「副教材」「教師用指導書」を用意。



動画教材の構成



動画教材の構成

動画



副教材のダウンロードはこちらから



教師用指導書

- ▶ ナレーション音声、会話のテキスト文
- ▶ 学習項目
- ▶ 学習項目に焦点をあてた授業活動例
- ▶ ポイント
- ▶ 五技能に焦点をあてた授業活動例



副教材

- ▶ ナレーション音声、会話のテキスト文スライド
(フリガナ有、フリガナなしの2パターン)

参考資料 翻訳

- ▶ 英語、中国語、ベトナム語、ロシア語

動画教材一覧

遊べる 学べる 東京

チームラボプラネッツTOKYO篇(4:17)



未来日本酒店篇(6:00)



サイバースペース渋谷篇(4:33)

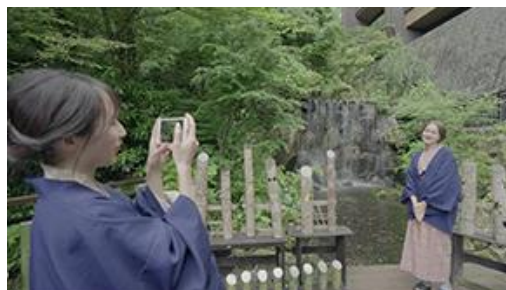


トラベル 学べる 箱根

箱根神社篇(5:16)



箱根小涌園天悠篇(4:45)



ようらく 鯛ごはん懐石 瓊瑠篇(5:06)



遊べる 学べる 大阪

ユニバーサル・スタジオ・ジャパン篇(5:04)



COLONY by eqi篇(4:27)



梅田スカイビル篇(5:09)



トラベル 学べる 京都

ぎをん 錦篇(4:36)



亀屋良長篇(5:14)



源光庵篇(5:11)



動画構成例-トラベル 学べる 箱根 鯛ごはん懐石 ようらく 瓔珞篇-

【時間】4:36

1 分程度のナレーションと二つの日本語の会話パートで構成されている。ナレーションでは、その施設の特徴や背景が、プロのアナウンサーによる音声で説明されている。続く日本語会話は、そのスポットを訪れた留学生や施設の人たちによる会話となっている。

【オープニング】

オープニング

アンナさん はじめまして。アンナです。ロシアから留学して2年です。

チェさん こんにちは。チェです。韓国から留学して2年半です。

アンナさん 私たちは今、箱根に来ています。
箱根には、自然を大切にする日本の伝統文化を感じながら、
心と体が元気になるスポットがたくさんあります。
今日は、その魅力をたくさん伝えていきたいと思います。

チェさん そして、様々なシチュエーションに合わせた日本語の会話も一緒に勉強していきましょう！

それじゃあ、さっそく行ってみよう！

【導入】

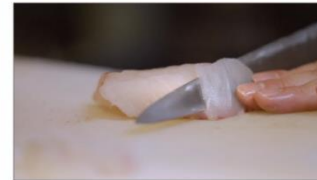


アンナさん はい。
和食懐石「環珞」というお店にやってきました！

日本の和食でも人気のある「懷石」を食べられるお店です。

チェさん また、日本では縁起が良いとされる魚、鯛を使った料理も食べられますよ。

【NA】



ナレーション

日本の伝統的な食文化である「和食」は、
2013年にユネスコの無形文化遺産に登録されました。

無形文化遺産の登録申請にあたっては「和食」の特徴として

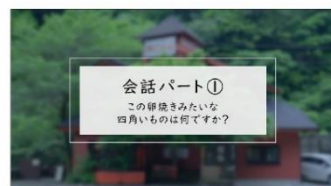
「新鮮で多様な素材を使い、
その持ち味を尊重する工夫が施されていること」
「自然や季節を表現した盛りつけを行うこと」
といった点があげられています。

「和食」には、ふだん家庭のなかで食べる日常的な料理から
儀礼などのための特別な料理まで、幅広いものがあります。

縁起物とされている鯛は、
結婚やお祝いなどのおめでたい席でよく出されます。

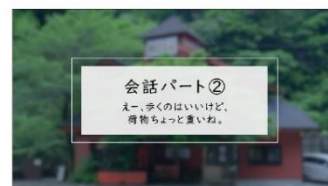
ようらく 動画構成例-トラベル 学べる 箱根 鯛ごはん懐石 瓊瑠篇-

【日本語会話パート①】



- アンナさん** あー、疲れたね。
- チェさん** ねー、疲れたー。歩きすぎたね。
- 2人** うーん。
- アンナさん** お腹が空いたー。
- チェさん** ね、お腹空いたー。アンナちゃん、和食食べたことある？
- アンナさん** あるよ！エリちゃんは？
- チェさん** 私こんな本格的な和食屋さんでは食べたことない。
- アンナさん** 食べたことない？じゃ、楽しみだね！
- チェさん** 楽しみ！ほんとに！
- 2人** あっ、来た来たー。
- 店員さん** お待たせいたしました。
- 2人** わー、すごーい。
- 店員さん** こちらが「瓊瑠」のコースでございます。
- 2人** すごーい。
- 店員さん** では、お料理をご説明をさせていただきます。
こちらが、たけのこの煮物でございます。
こちらは、ホタテの黄身酢がけでございます。
こちらが八寸と申しまして、こちらが鯛ごはんでございます。
- アンナさん** すみません、黄身酢って何ですか？
- 店員さん** 黄身酢は、卵の黄身を使ったお酢の物でして、酸っぱいお味がします。
- チェさん** すみません。この卵焼きみたいな四角いものは何ですか？
- 店員さん** こちらは寄せ鯛の子でございます。鯛の子どもを使った料理ですね。
- 2人** おお。
- アンナさん** あのちょっと、すみません。この緑の葉っぱは食べられますか？
- 店員さん** はい、こちらの葉っぱはめしあがっていただけます。
- アンナさん** 安心しました。
- 2人** ありがとうございます。
- チェさん** じゃあ、食べようか。
- アンナさん** あっ！まずは写真を撮ろうね！
- チェさん** そうだね。写真撮ろう！

【日本語会話パート②】



- アンナさん** デザートもおいしー！
- チェさん** おいしー！デザートは別腹だね！
- アンナさん** でも、お腹がいっぱい。
- チェさん** ね、食べた食べたー。
- アンナさん** え、エリちゃん、時間まだ大丈夫？
- チェさん** 今何時？
- アンナさん** 1時50分。
- チェさん** えー、そろそろ行かなきゃ。
帰りのロマンスカーが2時半のだからー。
- アンナさん** そうそう。
- チェさん** ここから箱根湯本駅まででしょ？
- アンナさん** 違い？
- チェさん** 歩きでもいけるし、バス、あとタクシーもある！
- アンナさん** えー、歩くのはいいけど、荷物ちょっと重いね。
- チェさん** ねー、荷物重いもんね。
ねえアンナちゃん、そしたらタクシーで行かない？
- アンナさん** タクシー高くない？
- チェさん** 歩いて10分くらいだから基本料金でいけるよ。
- アンナさん** あ！じゃあタクシー乗ろう！
- チェさん** そうしよっか。じゃあお店の人にタクシー呼んでもらうね！
- アンナさん** そうしよう。

動画構成例-トラベル 学べる 箱根 鯛ごはん懐石 ようらく 瓊瑠篇-

【感想】



アンナさん 和食は自然の恵みを感じられとてもおいしかったですね！
見た目もきれいで、また食べたいです！



チェさん 鯛のご飯も、とてもおいしかったです！
ぜひ皆さんもおいしい和食を味わってみてね！



【エンディング】

エンディング

アンナさん 箱根の、心と体が元気になるスポットで自然を大切にする
日本の伝統文化をお伝えしてきました！
皆さん、いかがでしたか？

チェさん ぜひ、日本に来たら、今日学んだ日本語を使って、
いろんなところへ行ってみてくださいー。



文部科学省文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

補助資料－教師用指導書（例）－



監修：小林ミナ（早稲田大学大学院日本語教育研究科）
著者：岸根彩子・寺浦久仁香・長田梨菜
作業協力者：金正民・神美妃・竹上順子・陶書原

文化庁委託事業「ウィズコロナにおける日本語教育実証事業」 主催JRR日本コミュニケーションズ	
目次	
この教材をお使いになる先生がたへ	3
箱根神社篇	7
ナレーション	7
会話パート①	8
やり方を教えていただけませんか？	
会話パート②	11
空気もおいしいし、気持ちがいいね。	
学習項目と授業活動例	14
箱根小涌園 天悠篇	20
ナレーション	20
会話パート①	21
荷物なんですけど、	
預かっていただけませんか？	
会話パート②	24
すみません、ちょっとバスの時間なので、	
こちらへんで失礼します。	
学習項目と授業活動例	26
鯛ごはん懐石 瑠璃篇	33
ナレーション	33
会話パート①	34
この卵焼きみたいな四角いものは	
何ですか？	
会話パート②	37
えー、歩くのはいいけど、	
荷物ちょっと重いね。	
学習項目と授業活動例	39

補助資料－教師用指導書（例）－

文化庁委託事業「ウィズコロナにおける日本語教育実証事業」
主催：財団法人日本コミュニケーションズ

この教材をお使いになる先生がたへ

1. はじめに

この日本語教材「遊べるトラベル 学べる 日本語」は、留学生が日本国内の観光スポットを訪れ、そこで交わした日本語会話を通じて、五つの言語活動を学べるようになっています。（なお、ここでいう「五つの言語活動」とは、『日本語教育の発展と報告』（文化審議会国語分科会、令和3年10月12日）の中で示された「聞く」、「読む」、「話す（やり取り）」、「話す（発表）」、「書く」を指しています。）

訪れる観光スポットは、次の六つです。

「遊べる 学べる 東京」
チームラボプラネッツTOKYO
未来日本酒店
サイバースペース渋谷

「トラベル 学べる 箱根」
箱根神社
箱根小涌園 天悠
鶴こはん懐石 環塔

これら六つの観光スポットは、株式会社財団法人日本コミュニケーションズが持つ観光コンテンツから、「伝統文化」と「最新技術」という二つの観点で選ばれたものです。動画によって観光スポット巡りを疑似体験することにより、日本語だけでなく、日本文化についても理解を深め、ひいては、母語や母文化などを再考するようなきっかけとなることを目指しています。

2. 教材の構成

六つの観光スポットには、1分程度のナレーションと二つの日本語の会話パートがあります。ナレーションでは、その施設の特徴や背景が、プロのアナウンサーによる音声で説明されます。続く日本語会話は、そのスポットを訪れた留学生や施設の人たちによる会話です。

3

文化庁委託事業「ウィズコロナにおける日本語教育実証事業」
主催：財団法人日本コミュニケーションズ

3. 教材の特徴

「遊べる トラベル 学べる 日本語」を作成する際、その中心となるコンテンツとなる会話パートを撮影するにあたっては、「あらかじめ準備した台本にしたがって、登場人物に演技してもらう」といった手順をとりませんでした。

そうではなく、登場する留学生には「店員に声をかけて、自分のお酒の味の好みを伝えて、お勧めのお酒を選んでもらってください」（「遊べる 学べる 東京：未来日本酒店篇」）、「湖と鳥居を見下ろしながら、景色について自由に感想を言ってください」（「トラベル 学べる 箱根：箱根神社篇」）といったように、スポットごとに大まかな内容のみを説明し、具体的に何をどのように言うかは、登場人物ご本人の判断、その場の流れにまかせました。各スポットに店員や係員として登場するのは、ほとんどが実際の店員さんであり係員さんですが、その方たちには「実際にそのように尋ねられたら、店員／係員としてどう反応するかを考え、そのようにふるまってほしい」とお願いしました。

そのため、会話に出てくる日本語には次のような特徴があります。

■「教科書的でない表現」があらわれる

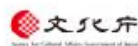
会話に出てくる日本語には、「あったあった」「行こう行こう」といった繰り返しや「カバンさ重いしね」「タクシーさ呼んでもらおうね」といった助詞の脱落などがあらわれます。「そしたらタクシーで行かない？」「あー、うまっ」「じゃ、入ってみようか」「行かなきゃだね」といった、従来の日本語教科書には決して見られないであろう表現もたびたび登場します。音声面では、標準的なアクセントやプロソディではない発話も見られ、二人以上が同時に話し始めたため、聞きづらい箇所もあります。

日本語の教材に、「教科書的でない表現」が取りこまれていることについては、疑問や不安を感じたり、「使いにくい」と思われたりする先生もいらっしゃるかもしれません。たしかにこのような表現は、「言語規範」「狭義の文法」という枠組みからははずれます。しかし、それらも含めて「実際に使われている、活きた日本語」です。たとえ初級レベルの授業であっても、それらを積極的にとり入れるべきであるという教材作成者の理念に基づいています。

また、このように作成された教材であるため、会話に出てくる日本語には、必然的に次のような特徴があります。

4

補助資料－教師用指導書（例）－



文化庁委託事業「ウィズコロナにおける日本語教育実証事業」
主催：JRI 西日本コミュニケーションズ

■日本語レベルの調整がない

ある状況において、それぞれの登場人物が「自分だったらどのように言うか」だけを考え、やりとりされた日本語です。したがって、「初級文型」とか「N3レベルの語彙」「未習／既習」といった調整は、一切されていません。

「遊べるトラベル 学べる 日本語」では、教材にあらわれた日本語表現を、すべての学習者が、すべて身につけることは想定していません。教材にあらわれた日本語表現をすべて取りあげ、聞けて、読めて、書けて、話せるようになるまで練習しようとする、時間が足りなかったり、そもそも無理があったりします。しかし、日本語の教室から一歩外に出れば、そこには学習者にとっての「未習の日本語」があふれています。初級の授業であれば、そのようなことばのなかから、「聞きとれる単語を拾い出してみる」といった簡単な活動を行ったり、日本語会話から一往復のやりとりを取りだし、それを練習してみたりといった使いかたが想定されています。

一方で、従来の日本語教材とはまったく異なるコンセプトだけに、戸惑われる先生がたもいらっしゃると思います。そこで先生がたの授業準備のサポートにも力をいれました。

■「教師用指導書」が付属している

「教科書的でない表現」があらわれ、「日本語レベル」の調整がない「遊べるトラベル 学べる 日本語」を使いこなしていただくために、「教師用指導書」を作成しました。「教師用指導書」では、教材コンテンツの解説だけでなく、さまざまな日本語レベルを想定した「授業活動例」を具体的に示すことに努めました。（なお、ここでいう「日本語レベル」とは、『日本語教育の参照枠報告』（前掲）の中で示された「A1」～「C2」という六つの段階を指しています。）

4. 「教師用指導書」の使い方

この「教師用指導書」は、大きく「テキスト文」と「授業活動例」の二つから構成されています。

「テキスト文」は、各スポットの冒頭にあるナレーション、および、それに続く二つの会話パートについて、その音声をそれぞれ書き起こしたものです。授業準備をする際、何度も動画を再生しなくても、その概要を把握していただく助けにもなります。

二つの会話パートの「テキスト文」には、音声の書き起こしとあわせて、「学習項目」が並記されています。「学習項目」は、会話パートに現れたさまざまな日本語表現について、「それらを使うと何ができるのか」という「言語能力記述文（Can do）」の観点から拾いあげたものです。



文化庁委託事業「ウィズコロナにおける日本語教育実証事業」
主催：JRI 西日本コミュニケーションズ

【授業活動例】には、「学習項目に焦点をあてた授業活動例」と「五技能に焦点をあてた授業活動例」の二種類があります。

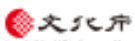
「学習項目に焦点をあてた授業活動例」は、会話パートから拾いあげた「学習項目」を、授業のなかで展開していただくための手がかりです。ここであげた活動例は、「言語能力記述文（Can do）」に注目したもので、学習者によっては、活動を展開する前に「活用形のパターンプラクティス」や「発音に特化したリピートドリル」といったより基本的な、言語的なドリル練習が必要な場合もあります。

「五技能に焦点をあてた授業活動例」は、特定の「学習項目」ではなく、動画教材としての特徴を、五つの技能につなげていただくための手がかりです。レベルによって教師の働きかけをえたり、より発展的な活動につなげたりといった幅広い使い方を想定しています。

5. おわりに

「教師用指導書」の【授業活動例】は、あくまで「例」であり、すべての現場や日本語レベルを網羅しているものではありません。また、ナレーションや会話パートの「テキスト文」にも、さまざまな使い方があはらずです。自由な発想で、ご自身の目の前にいる学習者にとっての「最適な授業」を創っていただければ幸いです。

補助資料－教師用指導書（例）－



文化庁委託事業「ウィズコロナにおける日本語教育実証事業」
主催JRI西日本コミュニケーションズ

0:00:00 0:00:43 0:01:46 0:05:06

ナレーション

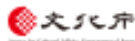
鯛ごはん懐石 瓔珞篇

鯛ごはん懐石 瓔珞篇 ナレーション

ナレーションテキスト文

日本の伝統的な食文化である「和食」は、2013年にユネスコの無形文化遺産に登録されました。無形文化遺産の登録申請にあたっては「和食」の特徴として「新鮮で多様な食材を使い、その持ち味を尊重する工夫が施されていること」「自然や季節を表現した盛り付けを行うこと」といった点があげられています。

「和食」には、ふだん家庭のなかで食べる日常的な料理から儀礼などのための特別な料理まで、幅広いものがあります。縁起物とされている鯛は、結婚やお祝いなどのおめでたい席に良く出されます。



文化庁委託事業「ウィズコロナにおける日本語教育実証事業」
主催JRI西日本コミュニケーションズ

0:00:00 0:01:46 0:03:26 0:05:06

会話パート①

鯛ごはん懐石 瓔珞篇 会話パート① この卵焼きみたいな四角いものは何ですか？

会話のあらすじ

アンナとチェは、「鯛ごはん懐石 瓔珞」という和食の店にきました。2人は注文を終え、会話をしながら料理を待っています。そこへ、女将さんが注文した料理を運んできます。女将さんは、1品ずつ料理の名前を言いながら、皿をおきます。2人は初めて聞く料理の名前や食べ方などについて女将さんに質問し、女将さんはそれに答えます。2人はお礼を言って食事を始めました。

会話のテキスト文

アンナ	「あー、疲れたね。」
チェ	「ねー、疲れたー。歩きすぎたね。」
アンナ	「うーん。」
チェ	「うーん。」
アンナ	「お腹が空いたー。」
チェ	「ね、お腹空いたー。」

学習項目

補助資料－教師用指導書（例）－

文 化 庁	文化庁委託事業「ウイズコロナにおける日本語教育実証事業」 主催：JRI 西日本コミュニケーションズ
会話のテキスト文	学習項目
チェ	「アンナちゃん、和食食べたことある？」
アンナ	「あるよ！エリちゃんは？」
チェ	「私こんな本格的な和食屋さんでは食べたことない。」
アンナ	「食べたことない？じゃ、楽しみだね！」
チェ	「楽しみ！ほんとに！」
アンナ	「あっ、来た来たー。」
チェ	「あっ、来た来たー。」
女将	「お待ちせいたしました。」
アンナ	「わー、すごーい。」
チェ	「わー、すごーい。」
女将	「こちらが「環路」のコースでございます。」
アンナ	「すごーい。」
チェ	「すごーい。」
女将	「では、お料理をご説明させていただきます。」
	「こちらが、たけのこの葉物でございます。」
	「こちらは、ホタテの黄身酢がけてございます。」
	「こちらがハ寸と申しまして、こちらが鯛ごはんでございます。」
アンナ	「すみません、黄身酢って何ですか？」

文がてな
Japan for Global Education Center

文化庁委託事業「ウイズコロナにおける日本語教育実証事業」
主催JRI西日本コミュニケーションズ

会話のテキスト文

学習項目

女将 「黄身酢は、卵の黄身を使ったお酢の物でして、酸っぱい
お味になります。」

アンナ 「ああ。」

チエ 「ああ。」

チエ 「すみません。」

「この卵焼きみたいな四角いものは何ですか？」

女将 「こちらは寄せ鍋の子でございます。」

「鍋の子どもを使った料理ですね。」

アンナ 「おお。」

チエ 「おお。」

アンナ 「あのちょっと、すみません。」

「この緑の葉っぱは食べられますか？」

女将 「はい、こちらの葉っぱはめしあがっていただけます。」

アンナ 「安心しました。ありがとうございます。」

チエ 「じゃあ、食べよっか。」

アンナ 「あっ!まずは写真を撮ろうね!」

チエ 「そうだね。写真撮ろう!」

学習項目3

他のものに例えながら、分
からないものについて尋ね
られるようになる。

36

補助資料－教師用指導書（例）－

文化庁委託事業「ウィズコロナにおける日本語教育実証事業」
主催：JRI 西日本コミュニケーションズ

0:00:00 0:03:26 0:04:27 0:05:06
会話パート②

鯛ごはん懐石 環珞篇 会話パート②
えー、歩くのはいいいけど、荷物ちょっと重いね。

会話のあらすじ

アンナとチェは、デザートを食べながら話をしています。2人はそろそろ帰りの時間であることに気づき、箱根湯本駅までの行き方について相談をします。チェは箱根湯本駅までの行き方には、徒歩・バス・タクシーの選択肢があることを提示します。アンナが荷物が重いので徒歩だと大変ではないかと心配すると、チェはタクシーを提案します。アンナはタクシーは値段が高いのではと心配しますが、チェが基本料金で行ける距離であることを説明するとタクシーの利用に同意します。2人はお店の人にタクシーを呼んでもらうことにしました。

会話のテキスト文	学習項目
アンナ 「デザートもおいしいー!」	
チェ 「おいしいー!」 「デザートは別腹だね!」	
アンナ 「でも、お腹がいっぱい。」	
チェ 「ね、食べた食べたー。」	学習項目1 語の反復を利用して、強調を教えるようになる。
アンナ 「え、エリちゃん、時間まだ大丈夫?」	
チェ 「今何時?」	
アンナ 「1時50分。」	

37

文化庁委託事業「ウィズコロナにおける日本語教育実証事業」
主催：JRI 西日本コミュニケーションズ

会話のテキスト文

チェ 「えー、そろそろ行かなきゃ。」 「帰りのロマンスカーが2時半のだからー。」	
アンナ 「そうそう。」	
チェ 「ここから箱根湯本駅まででしょ?」	
アンナ 「遠い?」	
チェ 「歩きでもいいし、バス、あとタクシーもある!」	
アンナ 「えー、歩くのはいいいけど、荷物ちょっと重いね。」	
チェ 「ねー、荷物重いもんね。」 「ねえアンナちゃん、そしたらタクシーで行かない?」	学習項目4 「そしたら〜ない?」を利用して、相手の意見・感想を踏まえつつ、提案できるようにする。
アンナ 「タクシー高くない?」	学習項目5 「イ形容詞く／ナ形容詞じゃない?」を利用して、相手に同意（共感）を求められるようになる。
チェ 「歩いて10分くらいだから基本料金でいけるよ。」	
アンナ 「あ!じゃあタクシー乗ろう!」	
チェ 「そうしようか。」 「じゃあお店の人にタクシー呼んでもらうね!」	
アンナ 「そうしよう。」	

38

補助資料－教師用指導書（例）－



文化庁委託事業「ウイズコロナにおける日本語教育実証事業」
主催：JRI 西日本コミュニケーションズ

学習項目1

「あつ、来た来たー。」
「ね、食べた食べたー。」

※「東京：チームラボプラネッツTOKYO」学習項目1、「東京：サイバースペース渋谷」学習項目4も同様の学習項目である。

【学習項目のcan-do】

語の反復を利用して、強調を表せるようになる。

【学習項目に焦点をあてた授業活動例】

【A2】
活動例1： 語を反復する練習。教師に示された質問に反復の表現を使用して答える。
キュー → これ食べる？ 例：食べる食べる！
一緒に行こう？
あした、ひま？
うちに来ない？
（「行く行く」となり、「来る来る」とはならないことに注意）

【A2～B1】
活動例2： 反復の表現のほかに気持ちを強く伝えるにはどのような言い方ができるかを考える。
「行きたいという気持ちを「行く行く」や「行こう行こう」のほかに強く伝えるには、どのような言い方がありますか。」と問いかけ、学習者から出ないようなら、教師から例を提示する。
想定される発話例
めっちゃ、いきたい！
ええー、いきたいー。

【ポイント】

反復で強調を表す際には、「買おう買おう」「あるある」のように、ほとんどの場合1語を繰り返す。「ケースを買おうケースを買おう」「ほしいものあるほしいものある」のように2語以上を繰り返すことはない。
また、反復以外にも、「東京：チームラボプラネッツTOKYO」学習項目3、「東京：サイバースペース渋谷」学習項目1のように驚きを表す表現、「東京：サイバースペース渋谷」学習項目2のように程度を表す表現、形容詞や名詞等の末尾のイントネーションによって、強調を表すこともできる。

39



文化庁委託事業「ウイズコロナにおける日本語教育実証事業」
主催：JRI 西日本コミュニケーションズ

学習項目2

「すみません、貴身酔って何ですか？」

【学習項目のcan-do】

初めて聞いた語について、意味を尋ねられるようになる。

【学習項目に焦点をあてた授業活動例】

【A2】
活動例1： 教師や学習者の話を聞き、わからない言葉があったら、聞き返す練習。
練習を通して、聞き返し方にも様々な表現があることを確認する。学習者から出ないようなら、教師側から提示する。

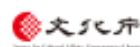
「私が好きな食べ物」「大トロマグロ丼」です。
想定される発話例
え？何と言いましたか。
おおとろま…？
おおとろ…なんですか。
おおとろまぐろどんって何ですか。

【ポイント】

ここでは、アンナが「貴身酔」という語を復唱させたため、「貴身酔って何ですか？」と尋ねることができている。他にも、「貴身酔」の部分的な音しか聞き取れなかった場合には、聞こえた音のみを復唱したり、「え？」といった無限定な質問を使用したり、目の前にある事物を指し示したりして、尋ねることも可能である。質問の形式を固定しないことによって、様々な状況の中で、どのような聞き返しのストラテジーが有効か考えてみることもできる。

40

補助資料—教師用指導書（例）—



文化庁委託事業「ウィズコロナにおける日本語教育実証事業」
主催JR西日本コミュニケーションズ

五技能に焦点をあてた授業活動例

■箱根神社/箱根小涌園 天悠/鯛ごはん懐石 瑠璃

【A2～B1】ナレーション動画を見て、聞きとった単語や表現を確認する。

学習者に「どんな日本語がありましたか」と問いかけ、聞きとった単語や表現を出してもらい、全体で共有しましょう。聞きえた単語や表現そのものだけでなく、意味や使い方、知っていることなどに話を広げることができそうですね。日本語レベルによっては、聞きとった単語や表現の確認で終わってしまうかもしれませんが、流れていく日本語から「単語」や「表現」を切り取って取り出せるというのも、日本語能力の1つです。

【A2～B1】ナレーション動画を見て、印象に残った場面を詳しく描写する。

映像を見て、印象に残った場面を話してもらいましょう。「どんな場面だったか」を詳しく描写できるといいですね。

【A2～C】ナレーション動画を見て、感想を言う。

ナレーション動画を見てどんな風に感じたのか感想を言ってもらいましょう。言いつばなしにならないように、他の学習者の感想に共感を示したり質問をしたりするような活動にしましょう。聞き取れなかったり、難しいと感じたりしても、一つでも聞き取れたことばや、見えた場面などあれば、話を広げてみるというですね。教師も一緒に、感想を言い合ひましょう。

■鯛ごはん懐石 瑠璃

【A2～C】知っている和食について話す。

教師自身で、自分の考える和食とは何かを考えてみましょう。また、学習者が考える和食とは、どのような料理でしょうか。ラーメンやお好み焼きは、和食だと感じますか。すき焼きやしゃぶしゃぶは和食でしょうか。実は、和食と言っても、学習者が捉える和食と教師が捉える和食には、違いがあるのかもしれませんね。例えば、「和食である」「和食でない」と左右（か上下）に線を引いたスライドを準備して、それぞれに該当する料理をあげたり、教師が準備した料理がどちらにあてはまるかを言うなど、目で見えるような工夫があるといいですね。学習者によっては、料理名をあげ、食べたことがあるか美味しかったかなどを話し、盛り上がる場合もあります。また、「和食」のユネスコ無形文化遺産登録について触れ、一緒にWebサイトで確認する活動ができる学習者もいるでしょう。



文化庁委託事業「ウィズコロナにおける日本語教育実証事業」
主催JR西日本コミュニケーションズ

【B1～C】鯛が「縁起がいい」理由を知る。

「鯛ごはん懐石 瑠璃」は、「縁起がいい」とされる鯛を使った料理が食べられるお店です。どうして鯛は「縁起がいい」のかを知るために、調べたり、読んだりする活動です。学習者が調べたことをメールなどで送ってもらってもいいですね。教師は日本語や表現のチェックをして返却しましょう。また、教師が本やインターネットの記事から、学習者のレベルに合わせた読み物を準備して、読む活動にしてもいいでしょう。

【A2～C】私の国のおいしい料理を写真で紹介する。

事前に、「私の国のおいしい料理」について、学習者が画面共有で写真を見せながら、料理について紹介しましょう。料理を作ることが好きな学習者が多ければ、料理の作り方を紹介してもいいですね。Padlet（パドレット）やfacebookなどのツールを使って、学習者の写真を見せ合いながら、それぞれの写真にコメントをつけたりすることもできそうですね。事前学習や授業後に取り組む課題としてもいいでしょう。

【A2～C】育った地域で生まれて世界に広がった食べ物を紹介し、広まった背景を考える。

学習者が育った地域で生まれて、世界に広がった食べ物や料理には、どんなものがあるか考え、知っている知識も紹介してもらいましょう。世界に広がった背景を考え、学習同士で意見を交換すると、他地域から見た視点でも考えることができるかもしれませんね。

【B1～C】「懐石（料理）」とは、どのような料理か、調べて発表する。

「鯛ごはん懐石 瑠璃」は、「懐石（料理）」が食べられるお店でした。世界中で、和食が食べられていますが、中でも動画にあったような「懐石（料理）」とは、どのような料理なのでしょう。学習者が調べて発表しましょう。もし、自分が食べたことがあれば、味や特徴について、例を挙げて説明できるというですね。学習者がパワーポイントで発表資料を作成してもいいでしょう。

【A2～C】それぞれの国や地域のタクシー事情を比較する。

動画では、2人はタクシーに乗ることにしました。タクシーは「高くない？」「基本料金で行けるよ」というやりとりがあったように、日本のタクシーの料金にはシステムがあります。教師が、日本のタクシーのシステムやどのような時に利用するかを紹介し、学習者の国では、タクシーのシステムはどのようなものか、誰がどのような時にどうやって利用するのか、それぞれ比べてみましょう。比べて説明する文章を、適切な構成で書くこともできそうですね。

補助資料ー副教材（例）ー

鯛ごはん懐石 瑠璃篇

日本（にほん）の伝統的（でんとうてき）な食文化（しょくぶんか）である「和食（わしょく）」は、2013年（ねん）にユネスコの無形文化遺産（むけいぶんかいさん）に登録（とうろく）されました。無形文化遺産（むけいぶんかいさん）の登録申請（とうろくしんせい）にあたっては「和食（わしょく）」の特徴（とくちょう）として「新鮮（しんせん）で多様（たよう）な素材（そざい）を使（つか）い、その持ち味（もちあじ）を尊重（そんちょう）する工夫（くふう）が施（ほどこ）されていること」「自然（しぜん）や季節（きせつ）を表現（ひょうげん）した盛（も）りつけを行（おこな）うこと」といった点（てん）があげられています。

「和食（わしょく）」には、ふだん家庭（かてい）のなかで食（た）べる日常的（にちじょうてき）な料理（りょうり）から儀礼（ぎれい）などのための特別（とくべつ）な料理（りょうり）まで、幅広（はばひろ）いものがあります。縁起物（えんぎもの）とされている鯛（たい）は、結婚（けっこん）やお祝（いわ）いなどのおめでたい席（せき）に良（よ）く出（だ）されます。



文化庁委託事業「ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業」主催：JR西日本コミュニケーションズ

鯛ごはん懐石 瑠璃篇 会話パート①この卵焼きみたいな四角いものは何ですか？

- アンナ : あー、疲（つか）れたね。
 チェ : ねー、疲（つか）れたー。歩（ある）きすぎたね。
 アンナ : うーん。
 チェ : うーん。
 アンナ : お腹（なか）が空（す）いたー。
 チェ : ね、お腹（なか）空（す）いたー。アンナちゃん、和食（わしょく）食（た）べたことある？
 アンナ : あるよ！エリちゃんは？
 チェ : 私（わたし）こんな本格的（ほんかくてき）な和食屋（わしょくや）さんでは食（た）べたことない。
 アンナ : 食（た）べたことない？じゃ、楽（たの）しみだね！
 チェ : 楽（たの）しみ！ほんとに！
 アンナ : あっ、来（き）た来（き）たー。
 チェ : あっ、来（き）た来（き）たー。



文化庁委託事業「ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業」主催：JR西日本コミュニケーションズ

鯛ごはん懐石 瑠璃篇

日本の伝統的な食文化である「和食」は、2013年にユネスコの無形文化遺産に登録されました。無形文化遺産の登録申請にあたっては「和食」の特徴として「新鮮で多様な素材を使い、その持ち味を尊重する工夫が施されていること」「自然や季節を表現した盛りつけを行うこと」といった点があげられています。

「和食」には、ふだん家庭のなかで食べる日常的な料理から儀礼などのための特別な料理まで、幅広いものがあります。縁起物とされている鯛は、結婚やお祝いなどのおめでたい席に良く出されます。



文化庁委託事業「ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業」主催：JR西日本コミュニケーションズ

鯛ごはん懐石 瑠璃篇 会話パート①この卵焼きみたいな四角いものは何ですか？

- 女将 : お待（ま）たせいたしました。
 アンナ : わー、すごーい。
 チェ : わー、すごーい。
 女将 : こちらが「瑠璃（ようらく）」のコースでございます。
 アンナ : すごーい。
 チェ : すごーい。
 女将 : では、お料理（りょうり）をご説明（せつめい）させていただきます。こちらが、たけのこの煮物（にもの）でございます。
 女将 : こちらは、ホタテの黄身酢（きみず）がけてでございます。
 女将 : こちらがハ寸（はっすん）と申（もう）しまして、こちらが鯛（たい）ごはんでございます。
 アンナ : すみません、黄身酢（きみず）って何（なん）ですか？
 女将 : 黄身酢（きみず）は、卵（たまご）の黄身（きみ）を使（つか）ったお酢（す）の物（もの）でして、酸（す）っぱいお味（あじ）がします。

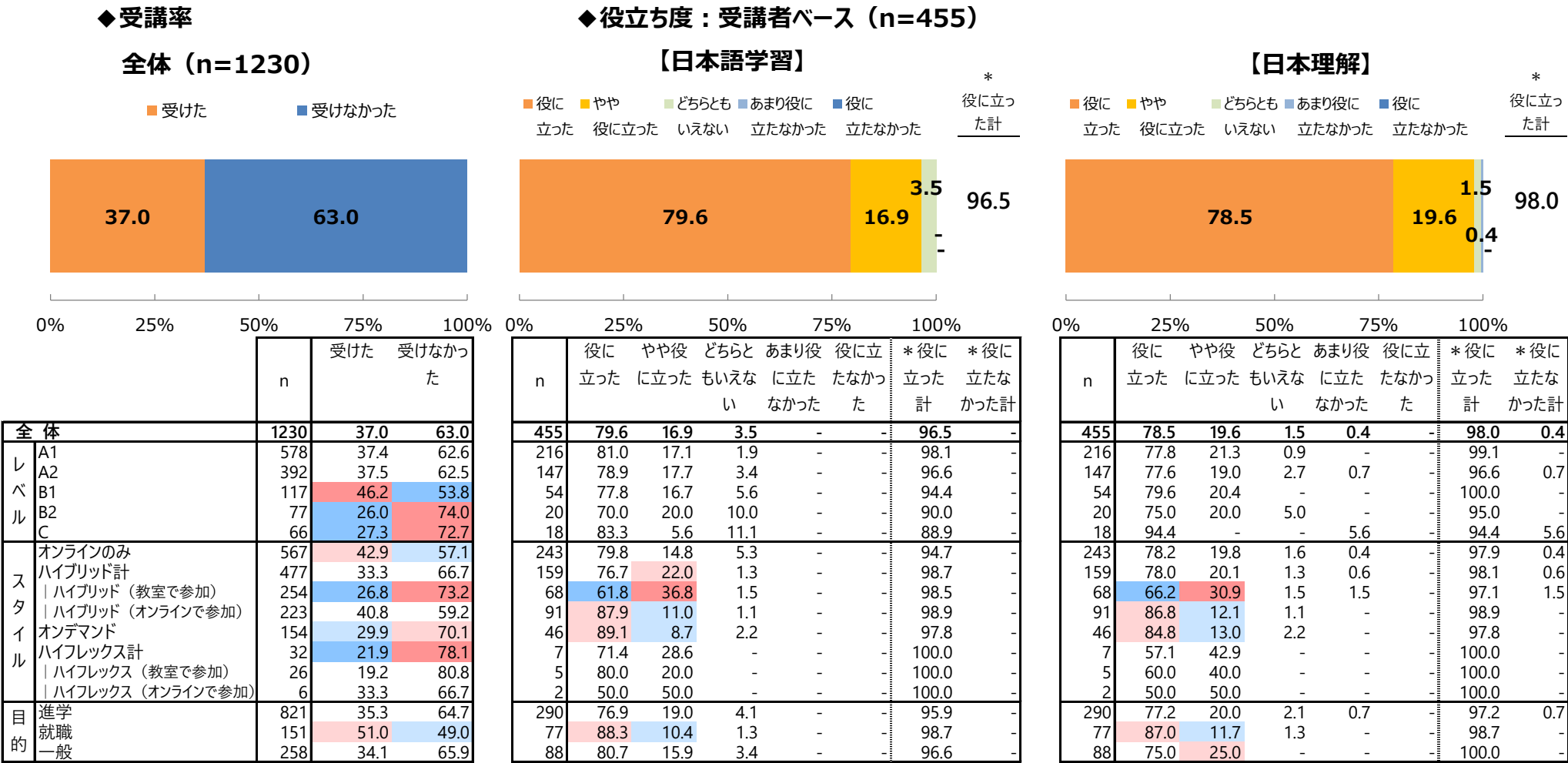


文化庁委託事業「ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業」主催：JR西日本コミュニケーションズ

検証（学習者アンケート）

Q14. 動画教材「遊べる 学べる」を使った授業を受けましたか。
Q15. 前問（Q14）でお答えいただいた動画教材「遊べる 学べる」は「日本語学習」と「日本理解」の役に立ちましたか。「日本語学習」と「日本理解」についてそれぞれお答えください。

- 動画教材『遊べる 学べる』を使った授業の受講率は37.0%。
受講者の役立ち度（役に立った+やや役に立った）は【日本語学習】【日本理解】とも95%を超え、「役にたった」は80%近い。
 - ・ 受講率はB1で高い。
 - ・ 役立ち度は【日本語学習】【日本理解】とも、ハイブリッド（教室で参加）で「やや役に立った」が全体と比較してそれぞれ高い。
 - また、目的では【日本語学習】【日本理解】とも、就職で「役に立った」がやや高い。

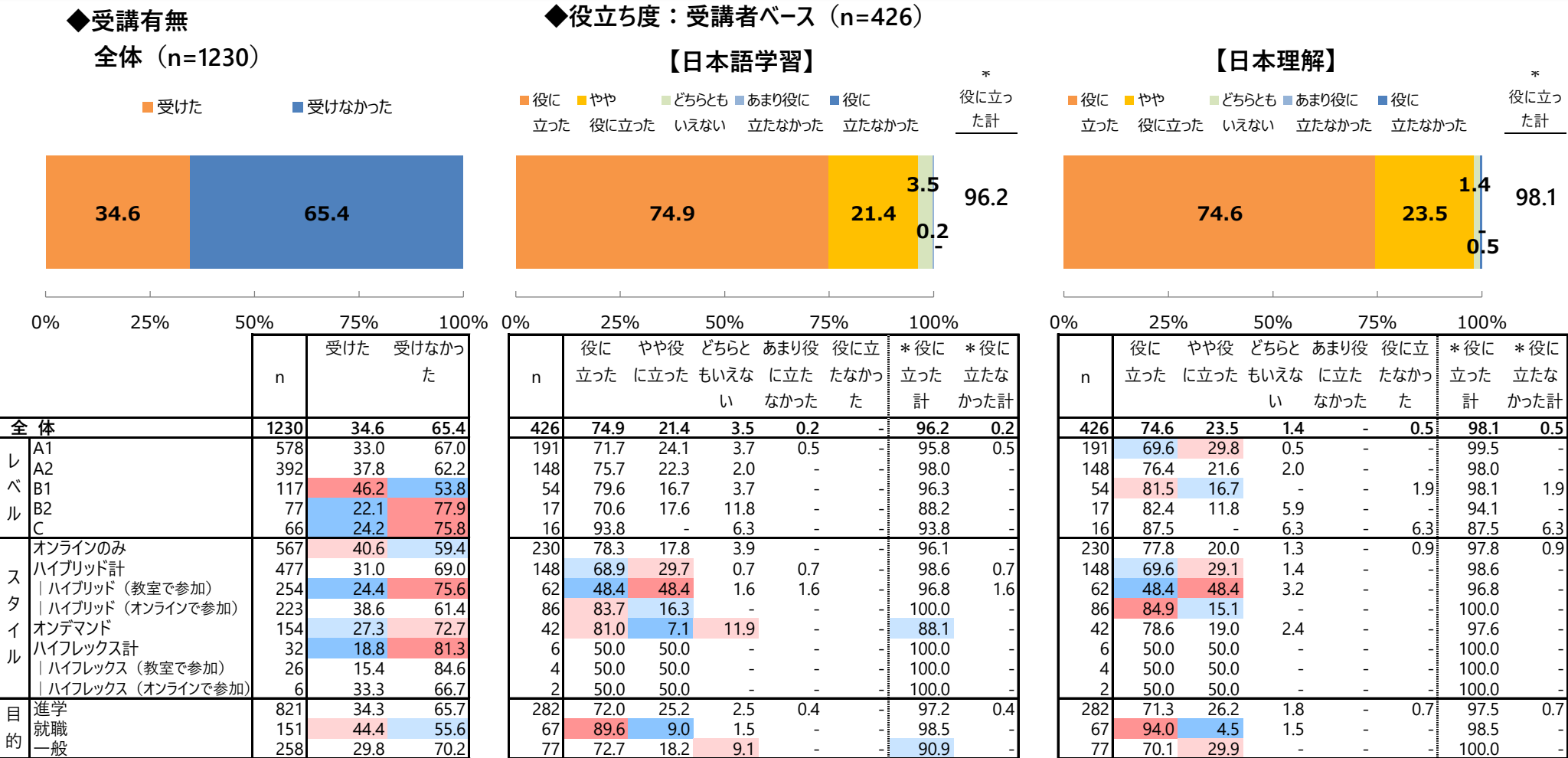


n=30以上について、全体より + 10ポイント、+ 5ポイント、- 5ポイント、- 10ポイント

検証（学習者アンケート）

Q16. 動画教材「トラベル 学べる」を使った授業を受けましたか。
Q17. 前問（Q16）でお答えいただいた動画教材「トラベル！まなべる！編」は「日本語学習」と「日本理解」の役に立ちましたか。「日本語学習」と「日本理解」についてそれぞれお答えください。

- 動画教材『トラベル 学べる』を使った授業の受講率は34.6%。
受講者の役立ち度（役に立った＋やや役に立った）は【日本語学習】【日本理解】とも95%を超え、「役に立った」は75%。
 - ・受講率はB1で高い。
 - ・役立ち度は【日本語学習】【日本理解】とも、ハイブリッド（教室で参加）で「やや役に立った」、【日本理解】についてはハイブリッド（オンラインで参加）で「役に立った」が全体と比較してそれぞれ高い。また、目的では【日本語学習理解】【日本理解】とも、就職で「役に立った」が高い。

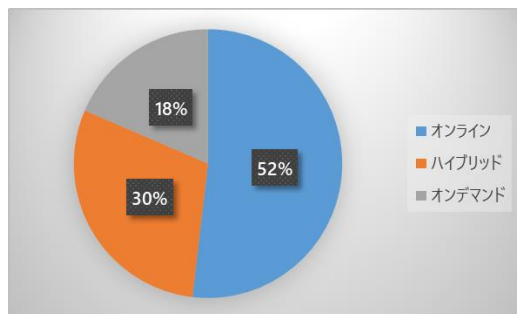


n=30以上について、全体より +10ポイント、+5ポイント、-5ポイント、-10ポイント

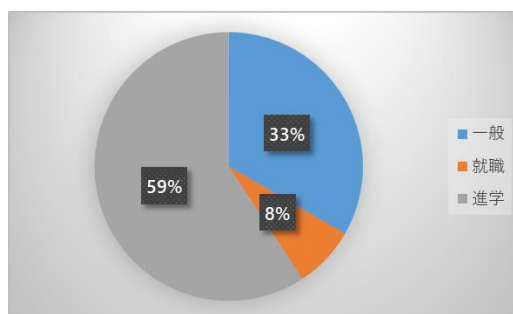
検証（日本語教育機関アンケート）

- 動画教材『遊べる 学べる/トラベル 学べる』を使った学校は11校、27コース。
日本語教育機関の役立ち度（役に立った+やや役に立った）は94%、「役に立った」は70%近い。「役に立たなかった」は無かった。
- ・スタイルではオンラインが半分以上（52%）を占めた。目的別では進学が60%近い。
- ・レベルはA2が半分近く（44%）を占め、A1と合わせると70%を超える。

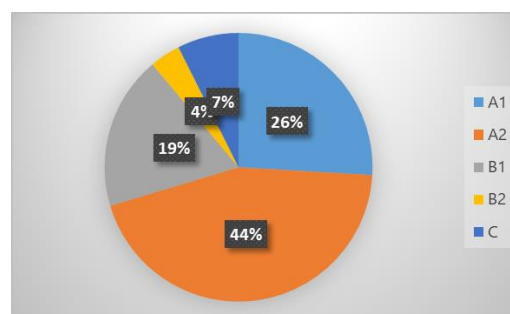
◆スタイル



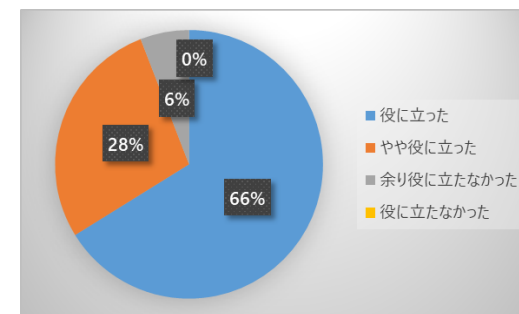
◆目的



◆レベル



◆評価



自由回答（感想・ご意見等） ※一部抜粋

- ・外国人の目線で提示する視覚教材は、あまり多くないので、大変助かった。どの教材も学生の興味をひく内容で、日本文化を学ぶのに大変役立った。
- ・学習者から、「日本への留学のイメージがより明確になり、日本語学習に対するモチベーションが上がった」などの感想があった、「登場人物が留学生なので、親近感を持った」などの感想があった。
- ・Cのレベルのクラスでは動画教材を使用してかなりレベルの高い授業を行った。初級レベルのクラスでは、翻訳版のスクリプトを併用するなど工夫した。

考察

- ・外国人目線に立ち、観光コンテンツを取り入れることにより、日本語を学習することのみならず、日本への留学モチベーションが高まることが考えられる。
- ・工夫をすることにより、学習者の日本語レベルに合わせて、A1からCレベルまで使用することができた。
- ・海外に居ながら日本各地の地域の勉強や日本文化について授業の中で学ぶことができ、日本留学の大きな動機付けとなったと言える。また、留学（来日）後も、郊外学習に行かなくても貴重な文化体験ができると考えられる。これまでのリアルだけの授業では得ることができない、オンラインならではの明らかなメリットであることが実証できた。
- ・今回の動画教材は本実証事業の参加校用に作成したが、実証期間を含めた2年間は利用可能なため、要望があれば個別に対応していきたい。
また、この期間以降の利用は、著作権は弊社にあるが各種権利の関係上、制約または費用が発生する場合もあるが、個別に対応しながら利用していきたい。

2-1. 自主事業で活用した教材・ツール ①動画教材の開発「遊べる学べる日本語」「トラベル学べる日本語」

■有識者のコメント 早稲田大学 小林ミナ教授

・動画教材『トラベル 学べる 日本語』を使った授業について、受講者の「役に立った」という回答は74.9%であり、「やや役に立った」とあわせると96.3%となる。同様に、『遊べる 学べる 日本語』についても、「役に立った」は79.6%であり、「やや役に立った」とあわせると96.5%となっている。ここから、自主事業で開発した動画教材は、学習者にとり有益だったことがうかがえる。

・ただし、この動画教材を使用した授業の受講率は34.6 %である。

・授業で使用した教師側の回答には、肯定的な回答とともに次のような否定的な回答が見られた。

「登場人物が留学生なら受講者は感情移入しやすいのだと思うが、やはり教師としてはアクセントやイントネーションが気になってしまう。」

「A1レベルから使用できるということだが、そのレベルだと会話がほとんど理解できないと思うので、きちんとした翻訳などの副教材が必要。また実施する講師の力量が求められよう。」

「学習目標・項目をもう少し明確にした教材を作成していただけるとありがたいと思います。」

いみじくも「講師の力量」とあるように、従来型の「文型や語彙を導入し、動画の内容をすべて理解する／練習する」といった授業デザインを前提にすると、本動画教材は使いにくいものとなる。講師の力量が求められる所以であろう。また、「教材にあらわれる日本語は、すべて規範的であるべき」という教師の側の言語観、教材観にも発想の転換が求められるのではないだろうか。

・受講率が34.6 %と1/3程度の留まったのは、授業で使用するか否かを判断する段階で、教師が使用を躊躇った可能性がある。先進的な教材を開発、普及するにあたっては、丁寧な教師用ガイドなどの補助資料が必要であるといえる。

実施背景

待機生の日本への留学モチベーションを維持するためには、日本へ行きたいという気持ちを醸成することが必要。

概要

訪日外国人に人気の世界遺産「姫路城」の360度VR動画（当社が観光庁事業にて制作）を利用して姫路城内の観光を疑似体験しながら、日本の歴史や文化を日本語で学べる『オンラインフィールドワーク教材』を提供。オンライン上で課外活動のように姫路城を巡り、教師から姫路城の説明を聞きながら、その場で使える会話を学べる構成となっている。

特徴

- ①動画内では、姫路城での施設を活用した日本語の会話を学べる（日本語レベルA2～B2）**レッスンポイント**と、世界文化遺産・姫路城の紹介を通して、日本文化の知識を深める**ヒストリカルポイント**が用意されている。
- ②姫路城を舞台に観光疑似体験を通して、実際の観光地を訪れた時に近い形で日本語会話を学ぶことができるため、実際に日本へ訪れた際にも使用できる、**生きた日本語**を学ぶことができる。
- ③姫路城内を一通り回れる動画になっており、レッスンポイントとヒストリカルポイントの他にも、姫路城内のさまざまなスポットの説明を用意しているため、**教師が学習者に伝えたい日本文化を伝えることができる**。
- ④姫路城の観光疑似体験を通して、生きた日本語と日本文化を深く学べる本教材を教師に使いこなしていただくために、**「世界文化遺産・姫路城 VR 動画を活用した日本語教育補助資料」**を付属している。

補助資料

■ VR動画・教師用指導書（レッスンポイント例）

世界文化遺産・姫路城VR動画② レッスンポイント1



4秒あたり

目の前にチケット売り場が出てきました。ここでチケットを買って姫路城の中へ入ることができます。では、早速チケット買って中に入ってみましょう！

ロールプレイで練習をしてみましょう。

- ・赤枠で囲んだマークが見えたら、動画を一時停止してください。
- ・赤枠で囲んだマークをクリックしてください。



・アイコンをクリックすると、左の様にポップアップが表示されます。

・ポップアップには、レベルに応じた会話例へのリンクボタンが掲載されています。リンクボタンを押すと、会話例のPDFが表示されるので、学習者と画面を共有して、会話例を見せながら、授業をしていただくことも可能です。

・会話例については、次のページから確認してください。

・授業が終わったら、ポップアップを消してから、再生ボタンを押して、動画を再開してください。

学習項目から学べる内容

A2～B1向け学習項目 入場するためのチケットを購入する

・学習項目から学べる内容

決まった形の質問に対し、必要なものや数を伝え、簡単な受け答えができる

B1～B2向け学習項目 支払方法を決めて、チケットを購入する

・学習項目から学べる内容

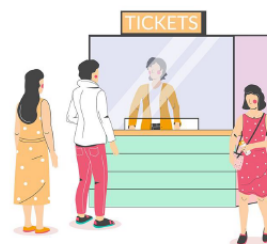
決まった形の質問に対し、必要な情報を伝え、質問したり、選択したりすることができる。

世界文化遺産・姫路城VR動画② レッスンポイント1 A2～B1向け



0:05

レッスン1:入場するためのチケットを購入する



日本語レベル:A2～B1

会話例の設定:
友だちと2人で姫路城を訪れています。姫路城へ入場するためにはチケットが必要です。受付で、必要な枚数を伝えて、チケットを買ってみましょう。

- こんにちは。何名様でしょうか？
- 大人2人です。
- 大人のチケットが2枚で、2,000円です。
- はい。(2,000円を渡す)お願いします。
- はい、こちらがチケットです。

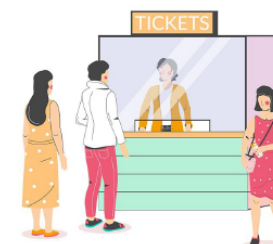
14

世界文化遺産・姫路城VR動画② レッスンポイント1 B1～B2向け



0:05

レッスン1:支払い方法を決めて、チケット購入する



日本語レベル:B1～B2

会話例の設定は、A2～B1と同じ。

- こんにちは。何名様でしょうか？
- 大人2人です。
- 大人のチケットが2枚で、2,000円です。支払い方法はありますか？
- Paypayは使えますか？
- 申し訳ありません。Paypayではお支払いできませんが、交通系ICカードでならお支払いいただけます。
- じゃあ、ICカードをお願いします。

15

補助資料

■ VR動画・教師用指導書（ヒストリカルポイント例）



世界文化遺産・姫路城VR動画④ 城内説明例



0秒あたり
大天守をくぐりながら一周して外へ出ます。



1分10秒あたり ※説明する際は動画を一時停止
右側に階段が見えますか？
これは、窓の位置が高いため、
外の監視ができるようにつけられた階段です。



1分30秒あたり
右奥に見えるのは兵士が隠れることができる場所です。
城に入ってきた敵に見つからずに攻撃することができます。
・赤枠で囲んだマークが見えたら、動画を一時停止してください。
・赤枠で囲んだマークをクリックしてください。

【補助説明例】
天守独特の隠れ部屋で、大天守3階の四隅に
設置されています。ここから天守室内の敵を、
弓矢や鉄砲などで攻撃できます。



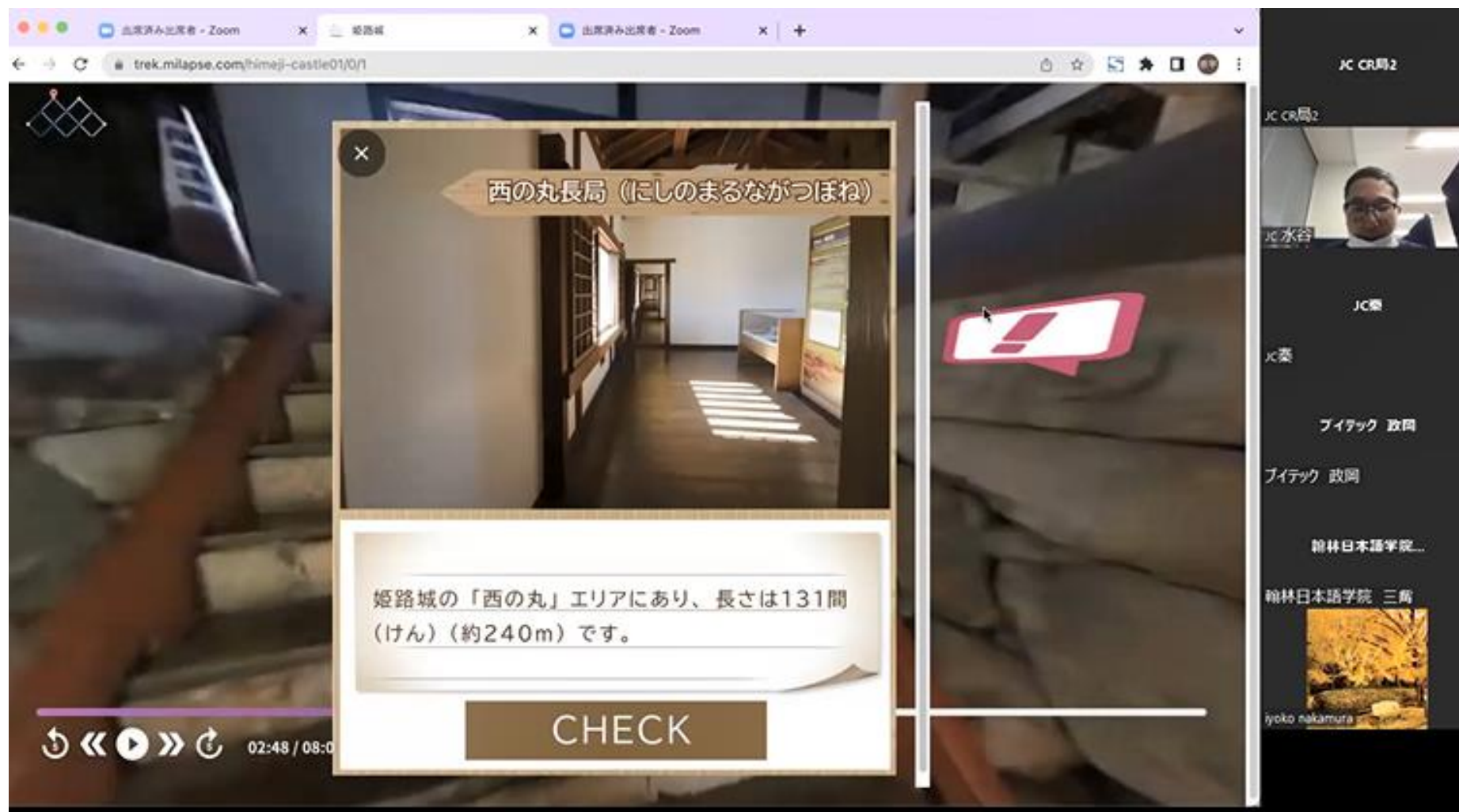
・アイコンをクリックすると、左の様にポップアップが表示されます。
・ポップアップにある、CHECKボタンを押すと
イメージ動画が流れます。
・動画は約20秒あります。
動画を再生せずに授業を進めていただくことも可能です。
・動画を再開するには、ポップアップを消してから、
再生ボタンを押してください。

使用サポート

■教材の使い方レクチャー説明会の開催

10校を上限にVR動画の操作方法・教師用指導書を活用した授業方法例をレクチャーする説明会を2回に分けて開催。

【参加校】9校 【形式】オンライン

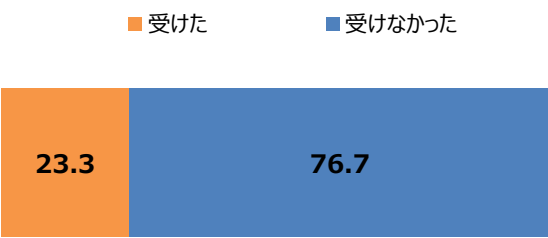


検証（学習者アンケート）

Q18. 画像は「世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク」教材の一コマです。このVR映像のオンラインフィールドワーク教材を使った授業を受けましたか。
Q19. 「世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク」教材は「日本語学習」と「日本理解」の役に立ちましたか。「日本語学習」と「日本理解」についてそれぞれお答えください。

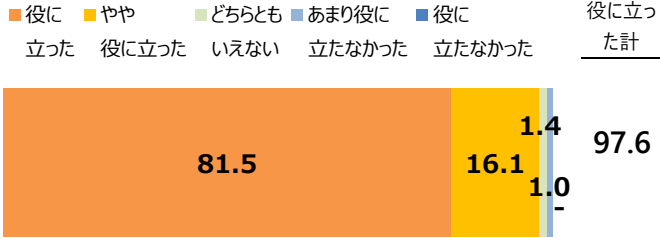
- 『世界遺産姫路城VR映像を活用したオンラインフィールドワーク』を行った授業の受講率は23.3%。
受講者の役立ち度（役に立った+やや役に立った）は【日本語学習】【日本理解】とも95%を超え、「役に立った」は80%を超える。
 - ・受講率はB1でやや高い。また、目的では、就職で高い。
 - ・役立ち度は【日本語学習】【日本理解】とも、ハイブリッド（教室で参加）で「やや役に立った」が全体と比較してそれぞれ高い。また、目的では【日本語学習】【日本理解】とも、就職で「役に立った」が高い。

◆受講有無
全体（n=1230）



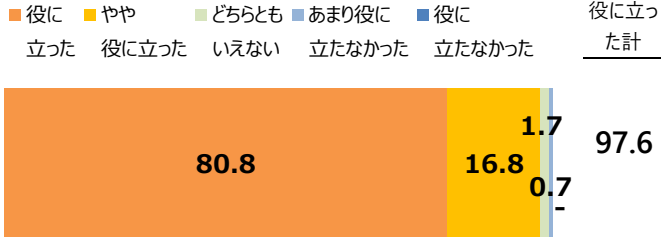
		n	受けた	受けなかつた
全 体		1230	23.3	76.7
レベ ル	A1	578	23.0	77.0
	A2	392	21.9	78.1
	B1	117	31.6	68.4
	B2	77	26.0	74.0
	C	66	15.2	84.8
スタ イル	オンラインのみ	567	28.9	71.1
	ハイブリッド計	477	22.4	77.6
	ハイブリッド（教室で参加）	254	13.4	86.6
	ハイブリッド（オンラインで参加）	223	32.7	67.3
	オンデマンド	154	7.8	92.2
	ハイフレックス計	32	9.4	90.6
	ハイフレックス（教室で参加）	26	3.8	96.2
	ハイフレックス（オンラインで参加）	6	33.3	66.7
目 的	進学	821	20.6	79.4
	就職	151	44.4	55.6
	一般	258	19.4	80.6

◆役立ち度：受講者ベース（n=286）
【日本語学習】



		n	役に 立った	やや 役に 立った	どちらと も いえない	あまり役に 立たなかつた	役に 立たなかつた	*役に 立つた 計	*役に 立たな かつた 計
【日本語学習】		286	81.5	16.1	1.4	1.0	-	97.6	1.0
レベ ル	A1	133	81.2	17.3	0.8	0.8	-	98.5	0.8
	A2	86	81.4	18.6	-	-	-	100.0	-
	B1	37	86.5	13.5	-	-	-	100.0	-
	B2	20	70.0	10.0	15.0	5.0	-	80.0	5.0
	C	10	90.0	-	-	10.0	-	90.0	10.0
スタ イル	オンラインのみ	164	84.1	13.4	1.2	1.2	-	97.6	1.2
	ハイブリッド計	107	78.5	20.6	-	0.9	-	99.1	0.9
	ハイブリッド（教室で参加）	34	61.8	35.3	-	2.9	-	97.1	2.9
	ハイブリッド（オンラインで参加）	73	86.3	13.7	-	-	-	100.0	-
	オンデマンド	12	75.0	8.3	16.7	-	-	83.3	-
	ハイフレックス計	3	66.7	33.3	-	-	-	100.0	-
	ハイフレックス（教室で参加）	1	100.0	-	-	-	-	100.0	-
	ハイフレックス（オンラインで参加）	2	50.0	50.0	-	-	-	100.0	-
目 的	進学	169	78.7	18.3	1.8	1.2	-	97.0	1.2
	就職	67	95.5	3.0	1.5	-	-	98.5	-
	一般	50	72.0	26.0	-	2.0	-	98.0	2.0

【日本理解】



		n	役に 立った	やや 役に 立った	どちらと も いえない	あまり役に 立たなかつた	役に 立たなかつた	*役に 立つた 計	*役に 立たな かつた 計
【日本理解】		286	80.8	16.8	1.7	0.7	-	97.6	0.7
レベ ル	A1	133	77.4	21.1	0.8	0.8	-	98.5	0.8
	A2	86	83.7	15.1	1.2	-	-	98.8	-
	B1	37	83.8	13.5	2.7	-	-	97.3	-
	B2	20	80.0	10.0	10.0	-	-	90.0	-
	C	10	90.0	-	-	10.0	-	90.0	10.0
スタ イル	オンラインのみ	164	82.3	15.9	0.6	1.2	-	98.2	1.2
	ハイブリッド計	107	78.5	19.6	1.9	-	-	98.1	-
	ハイブリッド（教室で参加）	34	58.8	35.3	5.9	-	-	94.1	-
	ハイブリッド（オンラインで参加）	73	87.7	12.3	-	-	-	100.0	-
	オンデマンド	12	75.0	8.3	16.7	-	-	83.3	-
	ハイフレックス計	3	100.0	-	-	-	-	100.0	-
	ハイフレックス（教室で参加）	1	100.0	-	-	-	-	100.0	-
	ハイフレックス（オンラインで参加）	2	100.0	-	-	-	-	100.0	-
目 的	進学	169	77.5	19.5	2.4	0.6	-	97.0	0.6
	就職	67	95.5	3.0	1.5	-	-	98.5	-
	一般	50	72.0	26.0	-	2.0	-	98.0	2.0

n=30以上について、全体より + 10ポイント、+5ポイント、-5ポイント、-10ポイント

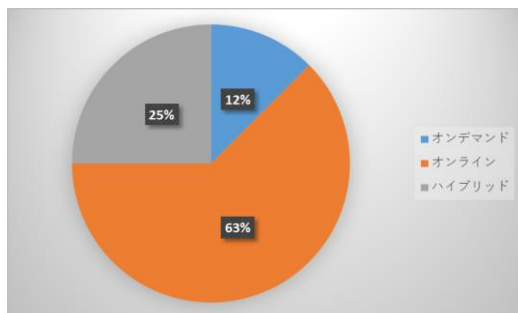
検証（日本語教育機関アンケート）

■『姫路城VR映像を活用したオンライン日本語教材』を使った学校は6校、9コース。

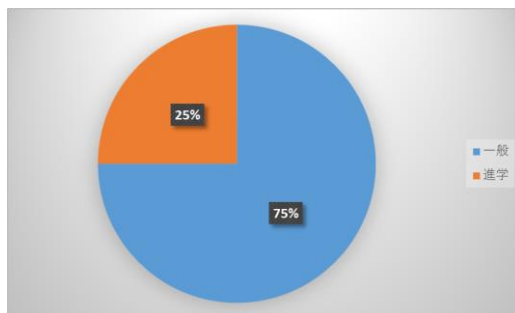
日本語教育機関の役立ち度（役に立った＋やや役に立った）は100%、「あまり役に立たなかった」、「役に立たなかった」は無かった。

- ・スタイルではオンラインが半分以上（63%）を占めた。目的別では一般が75%、進学が25%で、就職は無かった。
- ・レベルでは B 2が約1/3の33%を占め、残りは A 2・B 1がそれぞれ22%、A 1・C がそれぞれ11%と均衡していた。

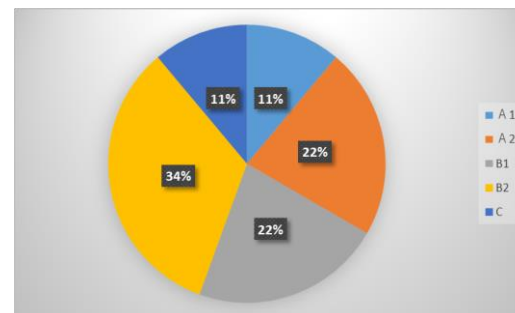
◆スタイル



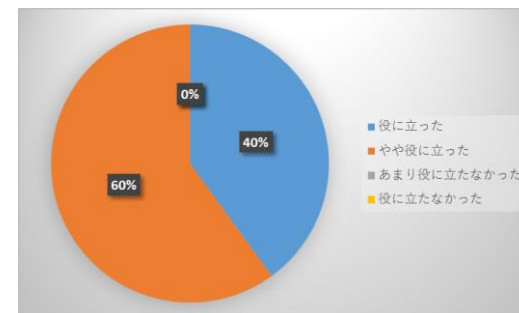
◆目的



◆レベル



◆評価



自由回答（感想・ご意見等） ※一部抜粋

- ・学習者から「臨場感があり、写真や短く編集された動画などとは違う」、「V R でリアルにお城の様子が見られたので、面白かった」などの感想があった。
- ・状況にあった会話例で日本語の自然な会話を紹介できる点が良かった、教師の裁量で映像を止めて自由に使えたので授業がやり易かった。
- ・V R 教材の為、データが重く、通信状況が安定しないことから聞こえにくいなどの問題が生じた。

考察

- ・「役に立った・やや役に立った」が、学習者アンケートでは95%超え、日本語教育機関アンケートでは100%と満足度の高い教材であったと言える。
- ・V R は臨場感があるなど動画とはまた違った教材として位置づけられると思われる。
- ・学習者を飽きさせない、日本に興味を持ってもらうことができる点からも、観光コンテンツ系の V R 映像のニーズはあると考えられる。
- ・オンライン授業における動画教材やVR教材は、学習者側の環境が整備できていない場合、十分に機能しないこともあり、今後の課題である。

実施背景

当社パートナーであるJaLSAが行った調査（2022年1月時点）によると、オンライン授業を実施中は66%、以前は行っていたが今は実施していないが14%、全く実施したことがないが29%となっていた。
「実施していない」と「実施したことがない」学校が43%も存在していたため、まずはオンライン授業実施の障害を取り除くことが必要と考えた。

概要

オンライン授業を実施する際に必須となるオンライン教材を提供することで、日本語学校がスムーズに授業準備をし、多様な日本語教育の実証に取り組めるようサポート。
日本語教育の教科書を制作している大手2社（スリーエーネットワーク、アルク）が開発したオンライン教材を日本語学校へ提供。事業期間に限り各社から使用权を購入し、実証事業期間の12月末まで利用できるように設定した。



教材一覧

■アルク教材

内容	タイトル
メインテキスト	できる日本語初級
メインテキスト	できる日本語初中級
メインテキスト	できる日本語中級

■スリーエーネットワーク教材

内容	タイトル
メインテキスト	みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊
メインテキスト	みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊 ローマ字版
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 翻訳・文法解説 英語版
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 翻訳・文法解説 ローマ字版（英語）
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 翻訳・文法解説 中国語版
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 翻訳・文法解説 韓国語版
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 翻訳・文法解説 スペイン語版
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 翻訳・文法解説 ポルトガル語版
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 翻訳・文法解説 フランス語版
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 翻訳・文法解説 タイ語版
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 翻訳・文法解説 インドネシア語版
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 翻訳・文法解説 ロシア語版（新版）
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 翻訳・文法解説 ドイツ語版
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 翻訳・文法解説 ベトナム語版
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 翻訳・文法解説 イタリア語版
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 翻訳・文法解説 ビルマ語版
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 翻訳・文法解説 シンハラ語版
教師用	みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版 教師用実証事業版
メインテキスト	みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 本冊

サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 翻訳・文法解説 英語版
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 翻訳・文法解説 中国語版
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 翻訳・文法解説 韓国語版
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 翻訳・文法解説 スペイン語版
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 翻訳・文法解説 ポルトガル語版
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 翻訳・文法解説 フランス語版
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 翻訳・文法解説 タイ語版
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 翻訳・文法解説 インドネシア語版
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 翻訳・文法解説 ロシア語版（新版）
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 翻訳・文法解説 ドイツ語版
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 翻訳・文法解説 ベトナム語版
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 翻訳・文法解説 イタリア語版
サブテキスト	みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 翻訳・文法解説 ビルマ語版
教師用	みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版 教師用実証事業版
メインテキスト	中級へ行こう 日本語の文型と表現 5 5 第2版
メインテキスト	中級を学ぼう 日本語の文型と表現 5 6 中級前期 第2版
メインテキスト	留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 聴解 上級
メインテキスト	留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 動画で学ぶ大学の講義

検証（日本語教育機関アンケート）

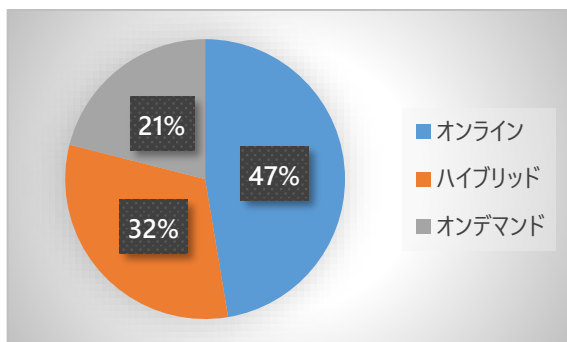
■アルク教材

■『アルク教材』を使った学校は6校、20コース。

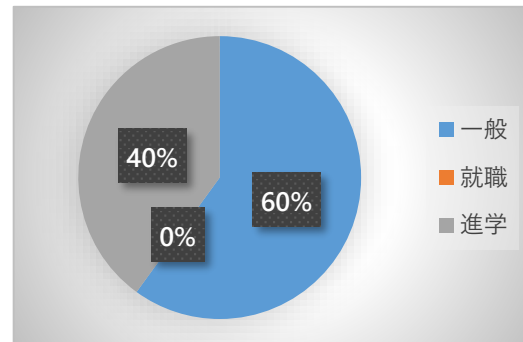
日本語教育機関の役立ち度（役に立った＋やや役に立った）は100%、「あまり役に立たなかった」、「役に立たなかった」は無かった。

- ・スタイルではオンラインが半分近く（47%）を占めた。目的別では一般が60%、進学が40%で、就職は無かった。
- ・レベルではA1が半分の50%を占め、残りはA2・B1がそれぞれ20%、B2が10%、Cは無かった。

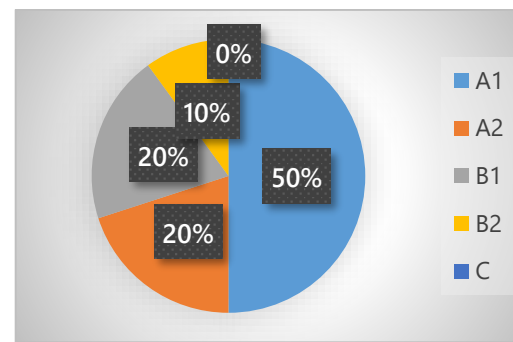
◆スタイル



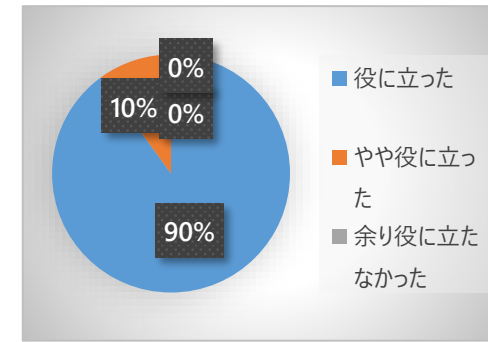
◆目的



◆レベル



◆評価



自由回答（感想・ご意見等） ※一部抜粋

- ・補助教材として使わせていただいたが、場面が分かりやすくて良かった。
 - ・状況イラストを見せ、場面にあった発言を引き出すという授業ではイラストの精度が重要になってくるが、この教材では概ねこちらの意図した通りに学生たちが発言してくれたので、非常にわかりやすい場面設定、魅力的な登場人物で構成されていたように思う。
 - ・導入部の基本的な代入・変換練習が「別冊」にされているが、これを「本冊」との間で行ったり来たりするのはやや面倒だと感じた。
 - ・各課ごとのCAN-DOが明確で、学習者の評価もしやすく、学習者自身も何を学習しているか理解しやすかったように感じる。
- しかし、リスニングの速度が速く、1回で聞き取るのは難しく、特にオンラインでの参加者の場合、音声の遅延などが生じることもあったので、繰り返し再生する必要があった。また、イラストが白黒なので、わかりにくいものがあり、ウェブサイトから画像やイラストの追加を行った。

検証（日本語教育機関アンケート）

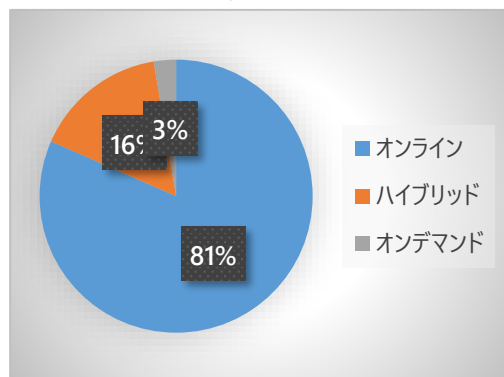
■スリーエーネットワーク教材

■『スリーエーネットワーク教材』を使った学校は10校、45コース。

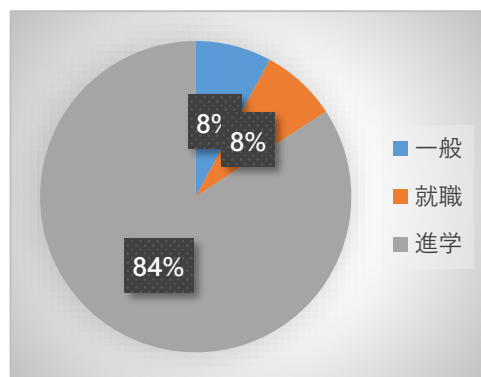
日本語教育機関の役立ち度（役に立った＋やや役に立った）は89%、「あまり役に立たなかった」、「役に立たなかった」は11%。

- ・スタイルではオンラインが81%を占めた。目的別では進学が84%を占め、進学・就職は共に8%。
- ・レベルではA1が半分以上の68%を占め、残りはA2が21%、B1が8%、B2が3%、Cは無かった。

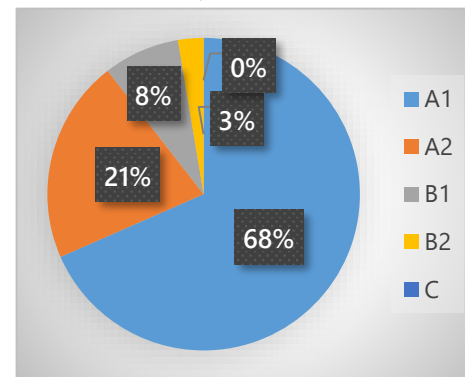
◆スタイル



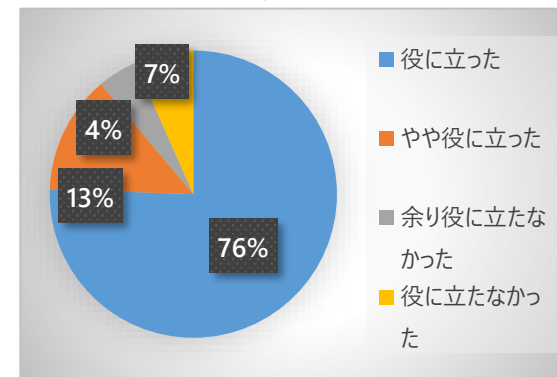
◆目的



◆レベル



◆評価



自由回答（感想・ご意見等） ※一部抜粋

- ・使用する課の語彙がすぐに引っ張り出せる状態で、使いやすかった。ネットの環境があまり良くなかったからか、少し、拡大したりすると、動きが鈍くなることがあったが、利用しやすかった。
- ・使いやすかったです。教科書に書き込めるようになればより良いと思います。スリーエーネットワークのウェブサイトからログインしてから電子版教科書を表示させるまでの手順が煩雑に感じました。コース開始前に受講生の国籍や人数、レベルが把握しきれなかったため、使わない教材も出てしまった。
- ・ズームをしても文字がくっきり見えるので、学生に表示する際、大変便利だった。また、練習Cのイラストもわかりやすかった。
- ・描画ツールをもっと充実して頂きたい。手書き直線、曲線だけでなく、矢印や囲みもあると学習者への指示が示しやすいと思った。
- ・本冊と音声データがリンクされていると、更に使いやすいと思う。例えば、本冊内の音声マークをクリックすることで、音声ファイルが立ち上がると便利。どの教材も非常に役に立ったのですが、教師用実証事業版に文法解説と絵教材も一緒になっていれば、もっと便利だと思った。

実施背景

当社パートナーであるJaLSAが行った調査（2022年1月時点）によると、オンライン授業を実施中は66%、以前は行っていたが今は実施していないが14%、全く実施したことがないが29%となっていた。

ポイントは実施していない学校が43%も存在していたため、まずはオンライン授業実施の障害を取り除くことが必要と考えた。

概要

はじめてオンライン授業を導入する際にネックとなるPC等機器のレンタルを提供し、日本語教育機関が実証に取り組むための環境整備をサポートした。オンライン授業に必須となるカメラ付きノートパソコンと、オプションとしてハイブリッド型・ハイフレックス型の授業用にスピーカーフォンのレンタルを提供した。



機種	HP ProBook 450 G3相当 ※在庫状況により相当のスペックの機材に変更となる可能性あり
OS	Windows 10
CPU	Core i5
メモリ	8GB
HDD	320GB以上
通信	有線LAN/無線LAN
ドライブ	DVD-ROM
画面サイズ	15インチ
その他	Microsoft Office、Webカメラ付き、ウイルスバスター、BlueLED有線マウス

★PC申込時のオプション



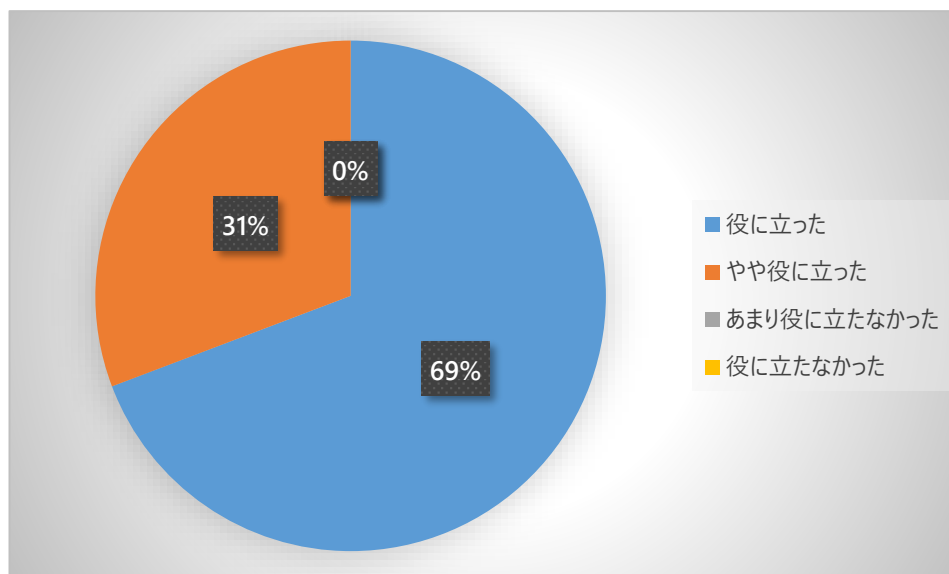
ハイブリッド型、ハイフレックス型の授業を実証いただく学校様限定で、「スピーカーフォン」の貸出を受け付けます。スピーカーとマイクを内蔵しており、教室での大人数の授業に活用いただけます。

検証（日本語教育機関アンケート）

■『機材レンタル』を利用した学校は13校。

日本語教育機関の役立ち度（役に立った＋やや役に立った）は100%、「あまり役に立たなかった」、「役に立たなかった」は無かった。

◆評価



自由回答（感想・ご意見等） ※一部抜粋

- ・スピーカーフォン＝初めて使用しましたが、複数で会話ができて非常に便利な機材だと思った。
- ・ヘッドセットやマイクスピーカーセットなどがあると、授業がやりやすかったと思う。
- ・今回は対面学生が少人数だったこともあり、近くに座っていたのでパソコンからでも音を拾えましたが、人数が増えた際はそれが厳しくなるため、遠くの音が拾える機能がついたスピーカー等があれば、よりハイブリット授業の質が上がるかと思う。

日本語教師研修

目的

- 「日本語教育の参照枠」を理解した上で
- オンライン教育について学び
- 自らの実践を振り返り、より良い実践をめざし
- 仲間とともに成長することができる日本語教師育成を目指す研修

- 「基礎編」は2回連続とし、オンライン授業に初めて取り組む日本語教師も、楽しみながらオンライン授業が始められることを目指す。
- 「理論・実践編」は5回連続講座とし、事例をもとにそれぞれの現場での活用法について考える研修とする。
- 参加者間での「学び合い」を大切にした研修内容とする。
- 学校を越えた「つながり」を重視し、研修会終了後は＜日本語教師ネットワーク＞を作る。

※ただし、さまざまな制約があり、ネットワーキングは個人レベルにとどまった。

日本語教師研修 一覧表

No.			実施日	講師
1	基礎編	オンライン会議ツールを利用した授業に挑戦！ ～あなたのお悩み解決します～	6月24日(金) 19時30分～21時	寺浦久仁香 (イーストウエスト日本語学校)
2		オンライン授業のステップアップをめざす！ ～授業に役立つアイデア探し～	7月 1日(金) 19時30分～21時	
3	理論編	「日本語教育の参照枠」を理解する	7月16日(土) 10時30分～12時	松井孝浩 (文化庁)
4	実践編	「日本語教育の参照枠」を現場に活かす ～カリキュラムの見直し～	7月22日(金) 19時30分～21時	鎌田亜紀子・水井佑美 (友国際文化学院)
5		多様な評価方法を現場で活用する ～学びを支援する評価とは～	7月29日(金) 19時30分～21時	伊東祐郎 (国際教養大学)
6		多様性に対応できる教師力を身につける ～求められる教師の資質・能力とは～	8月 6日(土) 10時30分～12時	嶋田和子 (アクラス日本語教育研究所)
7		オンライン授業の活かし方を考える ～立体的な授業をつくるために～	8月20日(土) 10時30分～12時	伊藤秀明 (筑波大学)
特別講演		オンライン授業「今」始めるべき理由 ～オンライン授業先駆者の知恵とノウハウ～	9月17日(土) 13時30分～15時	金谷俊一郎 (歴史コメンテーター、予備校日本史講師、一般財団法人日本普及機構 代表理事)

基礎編（第1、2回連続講座）

第1回

オンライン会議ツールを利用した授業に挑戦！～あなたのお悩み解決します～

- 開催日：6月24日（金） 19:30～21:00
- 開催方法：オンライン（ZOOM）
- 参加者数：27名
- 講師：寺浦久仁香（イーストウエスト日本語学校）
- 内容

- ・ZOOM、パワーポイントの基本操作の説明動画をチームで作成し、事前に視聴しておくことを「事前課題」とする。
- ・オンライン会議ツール(ZOOM)の活用、ZOOMでの背景の設定、ブレイクアウトルームでの自己紹介、オンラインでのアイスブレイク等、基本的なことを学ぶ。
- ・オンライン授業での課題等に関して参加者間で話し合いを行う。

■特記事項

- ・コロナ禍になって数年経つ現在、オンライン授業未経験者は非常に少ないことが予想された。
- しかし、今後、各日本語学校の「新人研修の担当者になるもの」という位置付けも考えた上で計画した。

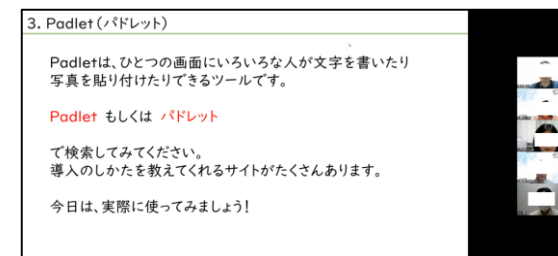


第2回

オンライン授業のステップアップを目指す～授業に役立つアイデア探し～

- 開催日：7月1日（金） 19:30～21:00
- 開催方法：オンライン（ZOOM）
- 参加者数：30名
- 講師：寺浦久仁香（イーストウエスト日本語学校）
- 内容

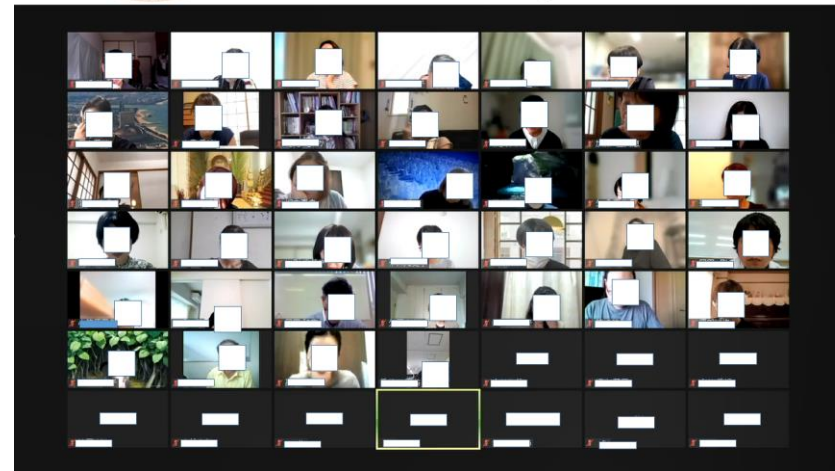
- ・基礎編第1回をもとに、オンライン授業のヒント、ツールの活用など、より良い実践に向けて多角的に学ぶ。
- ・第1回研修アンケートに寄せられた質問への回答、および前回の振り返りを行う。
- ・教育現場で活用されているパドレットを紹介し、実際に体験し、授業での活用について考える。
- ・オンライン授業での課題等に関して参加者間で話し合いを行う。



理論編 (第3回)

「日本語教育の参照枠」を理解する

- 開催日：7月16日（土） 10:30～12:00
- 開催方法：オンライン（ZOOM）
- 参加者数：40名
- 講師：松井孝浩（文化庁）
- 内容
 - ・「日本語教育の参照枠」取りまとめの経緯と背景
 - ・「日本語教育の参照枠」について
 - ・「日本語教育の参照枠：全体的な尺度」各レベルの解説等
 - ・言語能力記述文（Can do）の種類と構造について
 - ・Can doベースのカリキュラムの事例について
 - ・パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価などの評価方法について
 - ・ブレイクアウトルームでの話し合いと発表

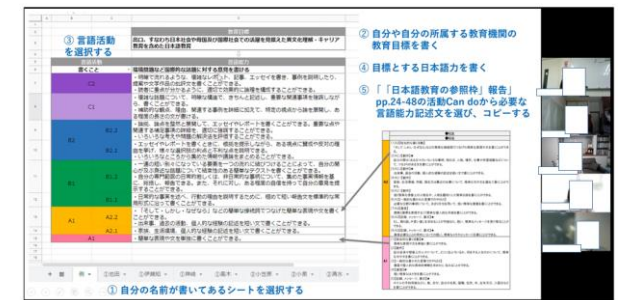


実践編 (第4、5、6、7回連続講座)

第4回

「日本語教育の参照枠」を現場に活かす～カリキュラムの見直し～

- 開催日：7月22（金） 19:30～21:00
- 開催方法：オンライン（ZOOM）
- 参加者数：36名
- 講師：鎌田亜紀子・水井佑美（友国際文化学院）
- 内容
 - ・「日本語教育の参照枠」の日本語学校における活用方法
 - ・実際に「日本語教育の参照枠」を活用し、カリキュラムを見直し、作成した学校（友国際文化学院）の事例紹介
 - ・発表事例を基に各学校にカリキュラム見直しの手順を追体験してもらい、グループ毎にディスカッションし、成果と気づきを共有



実践編 (第4、5、6、7回連続講座)

第5回

多様な評価方法を現場で活用する～学びを支援する評価とは～

- 開催日：7月29日（金） 19:30～21:00
- 開催方法：オンライン（ZOOM）
- 参加者数：35名
- 講師：伊東祐郎（国際教養大学）
- 内容
 - ・学習者に獲得してほしい日本語能力を「行動目標・Can do（～できる）」の形で可視化
 - ・学習者の「日本語能力」を評価する方法について検討
 - ・行動目標を踏まえた、「信頼性」と「妥当性」の高い評価方法を考察し、学習支援につながる評価についての考察

多様な評価方法を
現場で活用する
～学びを支援する評価とは～

伊東祐郎
ITO Sukero
（国際教養大学専門職大学院）
Akita International University

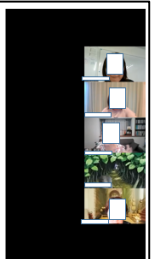
第6回

多様性に対応できる教師力を身につける～求められる教師の資質・能力とは～

- 開催日：8月6（土） 10:30～12:00
- 開催方法：オンライン（ZOOM）
- 参加者数：34名
- 講師：嶋田和子（アクラス日本語教育研究所）
- 内容
 - ・事前課題「OPIって何？」
プロフィシエンシー（熟達度）の理解、パフォーマンス評価例として第5回の復習と第6回の予習を兼ねた事前課題を提示。
 - ・「日本語教師の資質・能力」をみつめ直す
 - ・多様性に対応できる教師力とは
 - ・グループディスカッション
 - * 多様性に対応する教師力という点での課題 * 所属する組織は、「学び続ける組織」と言えるか

本研修の流れ

1. 「日本語教師の資質・能力」をみつめ直す
2. 多様性に対応できる教師力とは
＜ある経験談を……＞
 - * グループ名をメモしておく。
 - * 発表者を決めておく。（但し時間の関係で～～～）
 - * 「仲間づくり」の工夫をする。
3. ブレイクアウトルーム（15分）
4. 全体共有
5. まとめ～次に向けて～
6. 質問タイム ※時間によってはカット（メールでご連絡ください）



実践編 (第4、5、6、7回連続講座)

第7回

オンライン授業の活かし方を考える～立体的な授業をつくるために～

- 開催日：8月20日（土） 10:30～12:00
- 開催方法：オンライン（ZOOM）
- 参加者数：33名
- 講師：伊藤秀明（筑波大学）
- 内容
 - ・従来の日本語教育からの変容～変容のステップの理解
 - ・目の前の学生に合わせたオーダーメイド力を鍛えることの重要性
 - ・学習環境を能動的に選び取り、意味のある経験の創出
 - ・教師のアクティブラーニング
 - ・過度なマニュアル化に対する振り返りの必要性

オンライン授業の活かし方を考える ～立体的な授業をつくるために～

(株)JR 西日本コミュニケーションズ
「ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業」 日本語教師研修
2022年8月20日(土)

伊藤秀明（筑波大学）

有識者からのコメント

アクラス日本語教育研究所 嶋田和子代表理事

【研修のデザイン】

実施回数が事前に決められていたことから難しい面もあったが、結果的に「基礎編 2 回」「理論 1 回 + 実践編 4 回」という形でデザインした。ここで重視したのは「学びのつながり」のある研修会である。

【基礎編における配慮と工夫】

オンライン授業を実施することがない教師への配慮として基礎編を 2 回実施した。参加者の既有知識の多寡といった課題が想定されたことから、事前課題用の動画を 2 本作成したが、非常に効果的であった。また、参加者はほとんどがオンライン授業経験者であり、また教務関係者が多かったことから、「新人研修の際にどのように伝えたらよいか」といった視点も盛り込んだ研修とした。

【理論 + 実践編で目指したこと】

理論編で「日本語教育の参照枠」（以下「参照枠」）の理解を深め、実践編においては螺旋階段を上がるように組み立てていった。研修内容としては、1. 現場での取り組み例、2. 実践に重要な役割を果たす評価の在りかた、3. 新しい教育実践に求められる教師の力、4. 「立体的な授業」を目指したオンライン授業の活かし方の 4 点である。これは、「参照枠」に基づいた実践において、非常に重要なポイントを取り出し進めていったが、実施後の感想として「あと 2 コマ講義がある」ことが望ましいと考える。

【日本語学校の取り組み事例の提示】

実践編の第 1 回で「参照枠」をもとに学内カリキュラムを見直した日本語学校の講師に研修を依頼した。そのことから「参照枠」がより身近なものとなり、「自分達もカリキュラムの見直しを進めたい」といった機運が生まれたことは良かった。

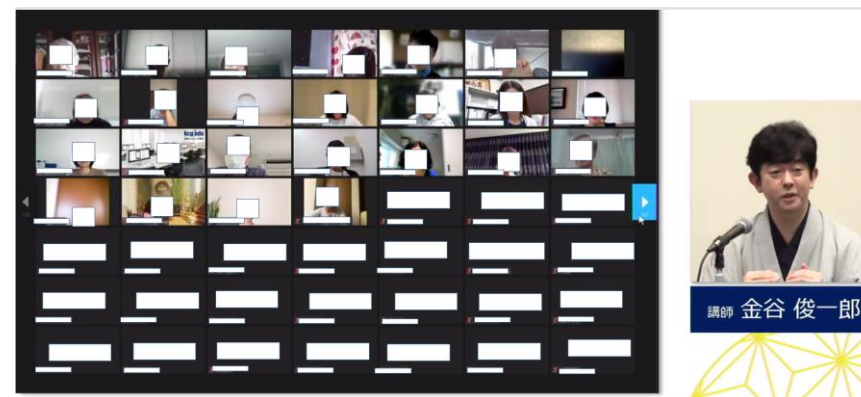
【日本語学校間のつながり】

連続講座としたことによって、参加した日本語学校間の関係性の構築ができたことが成果として挙げられる。ただし、さまざまな事情から「日本語学校教育ネットワーク」づくりにつなげることは出来なかった。しかし、こうした研修デザインの知見が、より広く共有されることによって、日本語学校全体の教育の質の向上につながることを期待したい。

特別講演

オンライン授業「今」始めるべき理由 ～オンライン授業先駆者の知恵とノウハウ～

- 開催日：9月17日（土） 13:30～15:00
- 開催方法：オンライン（ZOOM）
- 参加者数：71名
- 講師：金谷俊一郎
（歴史コメンテーター、予備校日本史講師、一般財団法人日本普及機構 代表理事）
- 内容
 - アフターコロナそれでもオンライン
 - ・オンライン授業の必要性
 - ・教育産業で今、起きていること
 - ・気づいた時には遅かった10年後の業界予想
 - 対面よりつかめる、オンライン授業の極意
 - ・オンライン授業でやらないこと



受講者アンケートからの考察 ※アンケート集計は次ページ以降

研修第1回～7回

- ・オンライン授業の経験者は、96.9%と非常に高いものであった。しかし、「より良い実践をめざす」という切り口にしたことから、経験の有無を問わず満足度の高い研修となったと思われる。
- ・難易度、内容などに関しては、肯定的な意見が多く見られ、各回の設定としては適切であったと考えられる。
- ・限られた研修回数であることから、受講者によっては情報が多く消化するのが難しい点も見られた。今後、事前の課題の提示など工夫が求められる。
- ・現場における評価に関する課題は共通であり、実際にどのように実施していけばよいのかについて知りたいという声も複数寄せられた。（ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価等）
- ・「オンライン授業のみならず、様々なことでの気づきがあった。学校運営、授業運営に生かしていきたい」といったコメントが複数見られることは、大きな成果であった。
- ・BORにおける他校との情報共有が有意義であったという回答が多く見られた。これは、現在あまり学校間でのやり取りがないことが窺え、今後実践共有の場などが必要であることが明白となった。

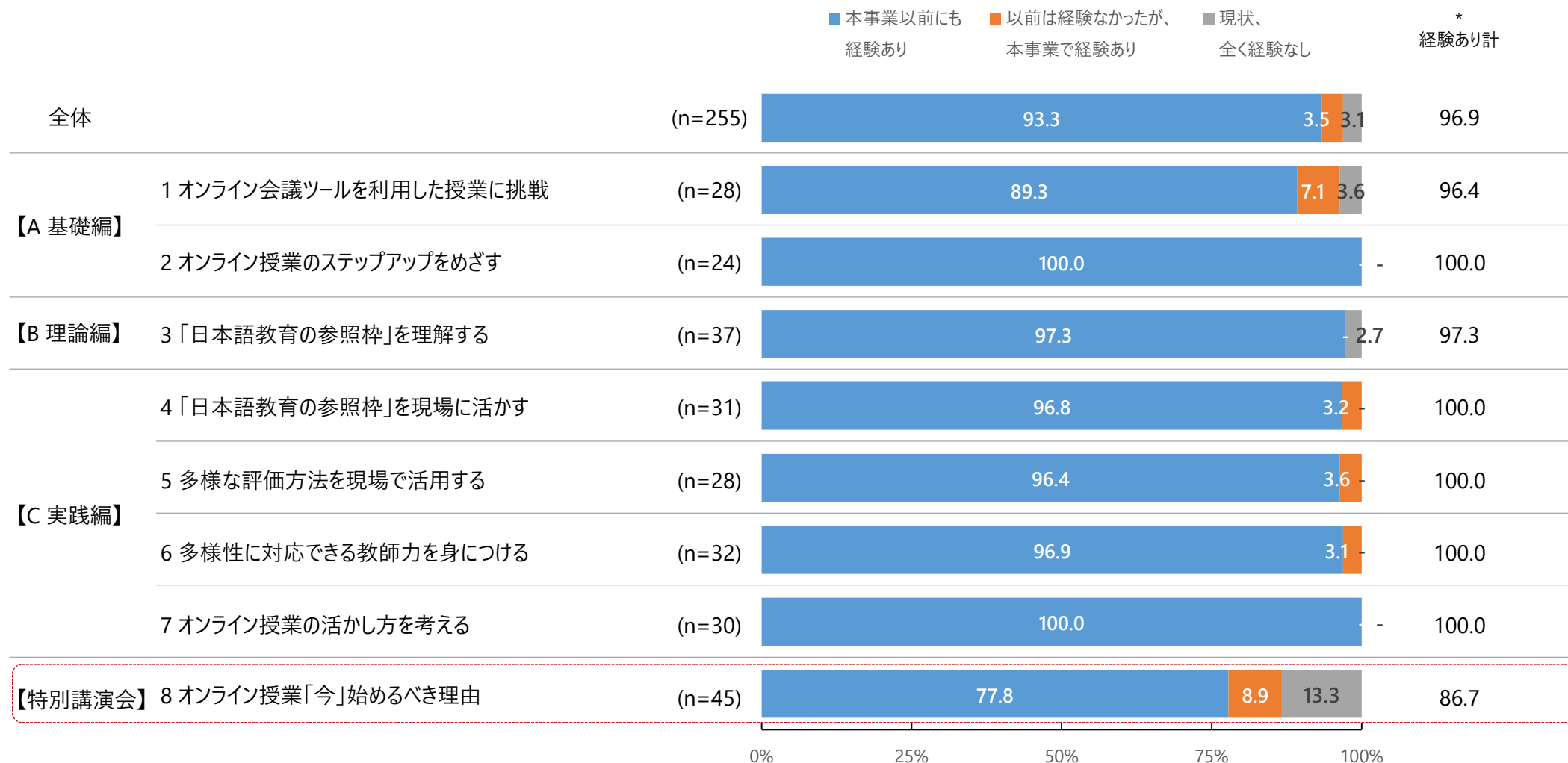
特別講演会

- ・理解度は100%、難易度は「ちょうど良かった」が62%と、参加者にとって非常に分かり易い講演であったと言える。
- ・「日本語教育とは別の分野のプロフェッショナルの話が聞けて良かった」、「オンラインに限らず授業のコツの部分で参考となった」、「日本語教育とジャンルは異なるが、オンライン授業の取り組みに大変参考となった」などの回答があり、異業種の経験や考え方から学べる可能性があるということが考えられる。

2-2. 自主事業で実施した日本語教師研修 アンケート 1.オンライン授業の経験の有無

Q1. オンライン授業はこれまでに経験したことはありますか。※本事業でこれからオンライン授業をされる場合も、今現在まだ経験がない場合は「現状、全く経験なし」を選んでください。

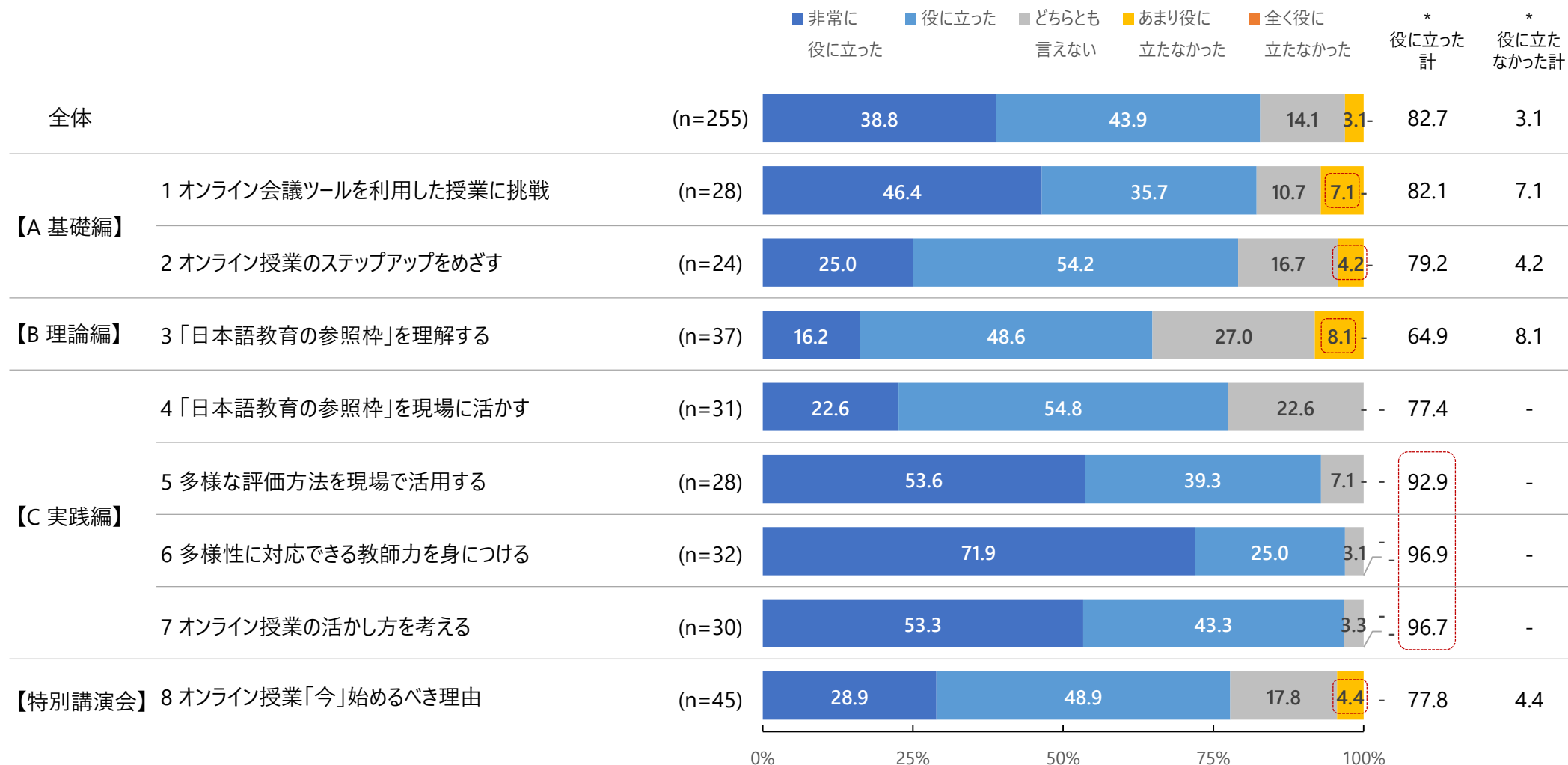
- オンライン授業の経験があったのは、研修会全体の参加者で96.9%、「本事業以前にも経験あり」は93.3%。
- 研修会別でみると、
 - ・【特別講演会】は「本事業以前にも経験あり」77.8%、「以前は経験なかったが、本事業で経験あり」8.9%、「現状、全く経験なし」13.3%となっており、他の授業と比べ、経験の有無を問わず参加している方が多くなっているのが特徴的。



2-2. 自主事業で実施した日本語教師研修 アンケート 2. 研修の評価

Q2. 研修はどの程度役に立ちましたか。

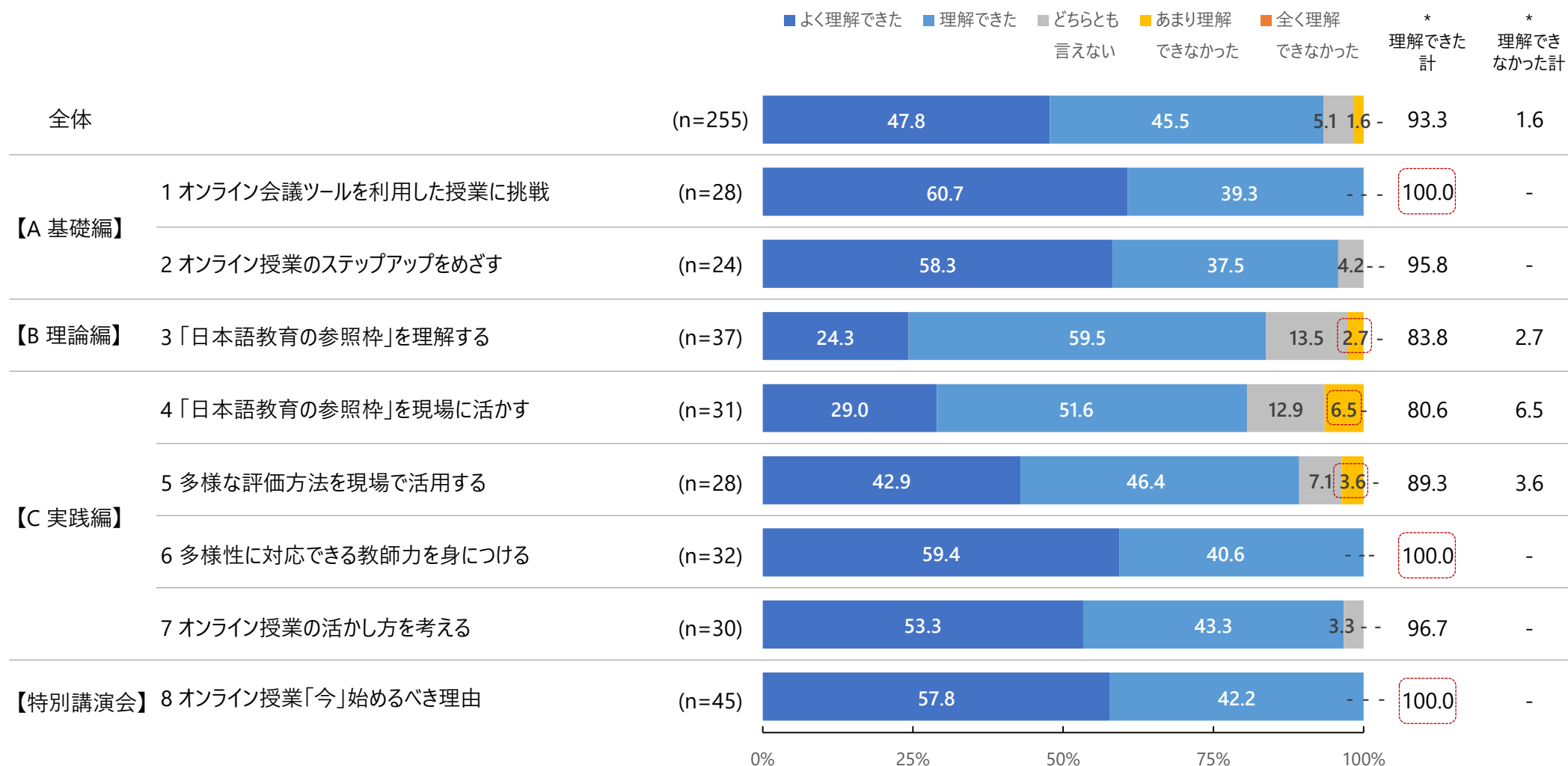
- 研修会全体の役立ち度（役に立った計）は82.7%と高評価となっている。
- 研修会別でみると、
 - ・【C 実践編】多様な評価方法を現場で活用する/多様性に対応できる教師力を身につける/オンライン授業の活かし方を考える で90%を超える役立ち度。
 - ・【A 基礎編】オンライン会議ツールを利用した授業に挑戦/オンライン授業のステップアップをめざす、【B 理論編】「日本語教育の参照枠」を理解する、【特別講演会】では、10%に満たない水準ではあるが、「あまり役に立たなかった」と回答した人がみられた。



2-2. 自主事業で実施した日本語教師研修 アンケート 3. 研修内容の理解度

Q3. 研修内容はどの程度理解できましたか。

- 研修会全体の理解度（理解できた計）は93.3%と非常に高い。
- 研修会別でみると、
 - ・【A 基礎編】オンライン会議ツールを利用した授業に挑戦、【C 実践編】多様性に対応できる教師力を身につける、【特別講演会】で100%の理解度。
 - ・【B 理論編】「日本語教育の参照枠」を理解する、【C 実践編】「日本語教育の参照枠」を現場に活かす/多様な評価方法を現場で活用するで僅か数%程度ではあるが、「あまり理解できなかった」と回答した人がみられる。



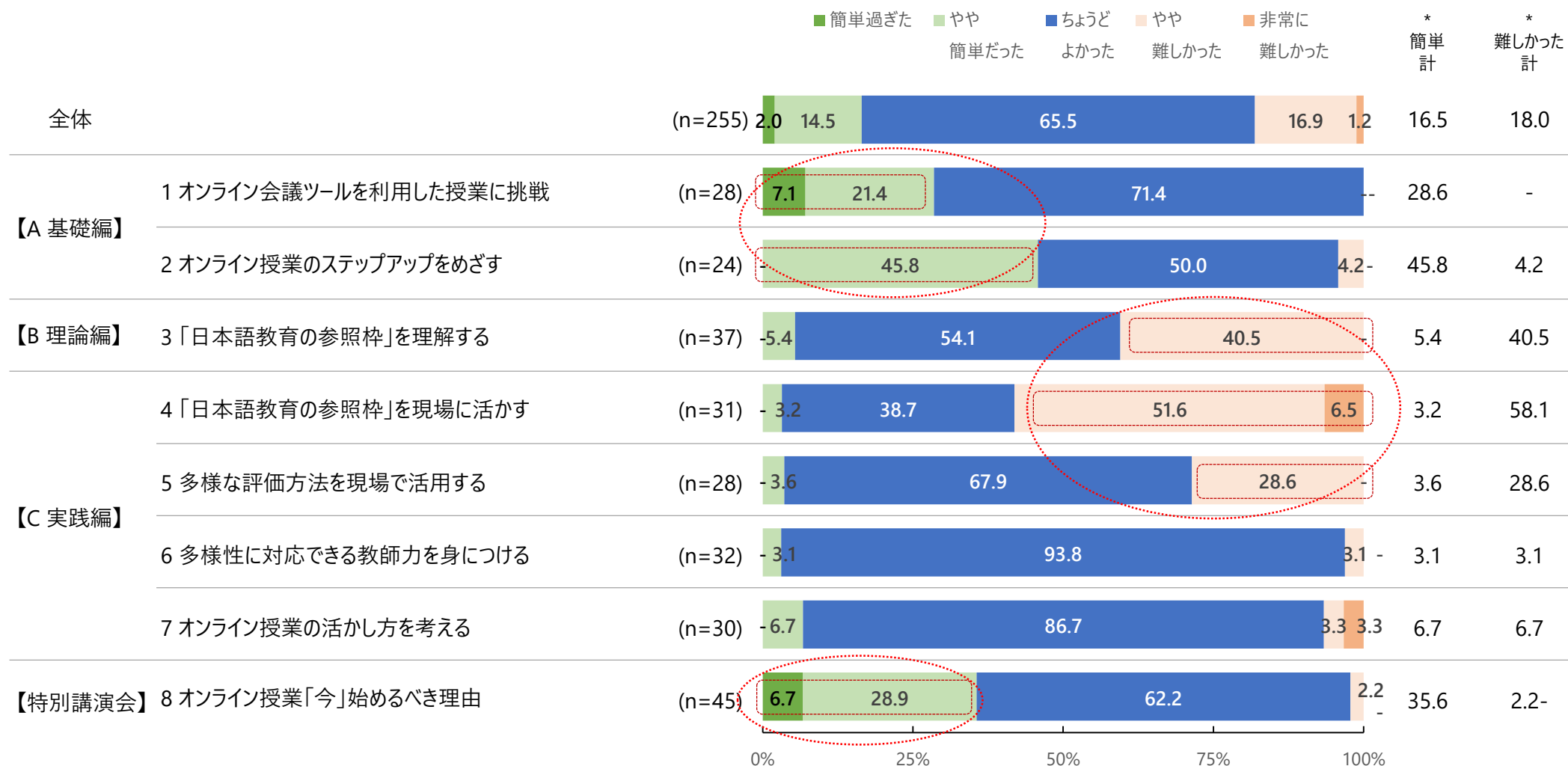
2-2. 自主事業で実施した日本語教師研修 アンケート 4. 研修内容の難易度

Q4. 研修内容はどの程度の難易度でしたか。

●研修会全体の難易度は「ちょうどよかった」65.5%、「簡単計」16.5%、「難しかった計」18.0%。

●研修会別でみると、

- ・【A 基礎編】オンライン会議ツールを利用した授業に挑戦/オンライン授業のステップアップをめざす、【特別講演会】は「簡単」、「B 理論編」「日本語教育の参照枠」を理解する、【C 実践編】「日本語教育の参照枠」を現場に活かす/多様な評価方法を現場で活用するは「難しかった」が全体より高い。



2-3. 自主事業で実施した中間報告会 概要

■開催日：2022年10月31日（月） 15:00～17:00

■開催方法：オンライン（ZOOM）

■参加者：37名 ※実証事業参加校（30校）、有識者、JaLSA

■目的

日本語教育機関の取り組み内容を発表、具体的な事例を共有することにより、11月以降の実証事業に活用するとともに、今後のオンラインを利用した日本語教育の促進、質の向上に繋げる。

■内容

学校から取り組み内容について、事前レポートの提出。事前レポートからオーソドックスタイプ（2校）、ユニークタイプ（3校）の発表校を選定。

（A）オーソドックスタイプ

汎用的なコースデザインであり、他の多くの教育機関でも実施可能な事例と思われるタイプのコース

（B）ユニークタイプ

自校の特徴を活かしたユニークなコースデザインであり、先進的な事例と思われるタイプのコース

■プログラム

・報告会の趣旨及び発表校の選定基準の説明

・実証事業の学校発表

（A）オーソドックスタイプ

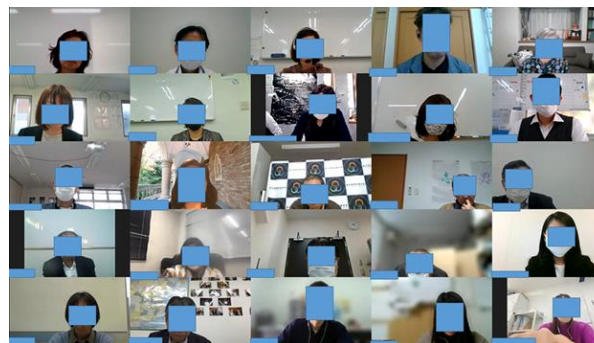
JCLI日本語学校、東京外語教育学院

（B）ユニークタイプ

ファーストスタディ日本語学校大阪本校、神戸YMCA学院専門学校日本語学科、

翰林日本語学院

・自主事業（研修会、動画教材）の概要報告



参加校

- 1 Aoyama Hope Academy
- 2 新白河国際教育学院
- 3 JCL外国語学院
- 4 平成国際アカデミー
- 5 JCLI日本語学校
- 6 さきたま国際学院株式会社
- 7 名古屋YWCA学院日本語学校
- 8 東京外語教育学院
- 9 翰林日本語学院
- 10 ファーストスタディ日本語学校大阪本校
- 11 神戸外語教育学院
- 12 神戸YMCA学院専門学校日本語学科
- 13 東京王子外国語学院
- 14 仙台ランゲージスクール
- 15 新日本学院
- 16 東京日語学院
- 17 行知学園日本語学校
- 18 行知学園第二附属日本語学校
- 19 市川日本語学院
- 20 活学書院
- 21 アジアインターナショナル
- 22 早稲田進学館中野校
- 23 河原電子ビジネス専門
- 24 ITカレッジ沖縄
- 25 あさひ日本語学校
- 26 弘堂国際学園
- 27 明晴国際語学校
- 28 城東日本語学校
- 29 東京国際知識学院
- 30 東京コスモ学園

2-3. 自主事業で実施した中間報告会 学校発表事例～オーソドックスタイプ～

東京外語教育学院

中間報告会発表資料

①このコースを設定した背景

ある程度の経験がある常勤講師だけではなく、オンライン授業が今回初となる非常勤講師の方も参加しやすいようにこのコースを選びました。また、中級を学びたい学生に4技能をバランスよく学べる授業をと思い、設定しました。

②このコースを設定した目的

「中級へ行こう」を使用し、第1～7課まで授業を進めました。基本的な文法や表現（みんなの日本語（初級）I 相当）が身につけている前提で授業を行いました。初級から発展した語彙や表現を身につけてもらうことが目的です。また、平易な文法や表現で自身の意見を述べられることも目指しました。

③コースの全体像

- コース名：進学準備コース
- レベル：B1
- 言語活動：1～6
- スタイル：ハイブリッド
- 目的：進学準備
- 受講者の国籍：中国・タイ
- 人数：14名（オンライン6名、対面8名）
- 時間：36時間

中間報告会発表資料

④主な授業内容

「中級へ行こう」に基づいた学習。

⑤授業で留意した点、工夫した点

パワーポイントでの授業を多くすることで、できるだけわかりやすい授業を行った。カメラをオンにし反応がある学生にはできるだけ話しかけるようにした。画面が切り替わる度に、きちんと表示されているかを確認した。板書は極力避け、問題の答えなどはパワーポイントのスライドに記入するようにした。

中間報告会発表資料

⑥感想・授業の様子

- ・学生はとても真面目で、授業中こちらが質問したこともしっかりと答えてくれた。
- ・B1の学生とは自身の国の文化や、習慣などを日本の文化や習慣と比べてどうかなど様々な意見を聞くことができた。
- ・わからないことがあるとしっかりと日本語で聞いてくれた。
- ・毎週集まるメンバーが固まってくるにつれて、学生同士の交流なども増えた。
- ・学生同士の交流も見受けられた。
- ・ハイブリッドで参加していた学生は、これから勉強していく内容なので興味深そうに授業に参加していた。

中間報告会発表資料

⑥成果

積極的に授業に参加していた学生については、基礎的な日本語力が身につけられており、学生本人も満足そうでした。また、授業の終わりの方では、JR西日本コミュニケーションズ作成の動画を見て、感想や自国の文化などについて簡単な日本語で述べられるようになった学生もいました。

⑦課題

マスクをしていることもあり、発音の矯正が難しかったです。また、無料でオンラインから参加できる日本語授業であったためか、バスや電車などの公共交通機関を利用しながら授業に参加している学生や、カメラを最初から最後までつけてくれない学生など数名いたことです。その他、やはりオンライン授業なので、実際はわかりませんが、問題を解いているとき回答を見ながら解いているなど、こちらからは見えない部分の監視ができないということがもどかしく感じました。



中間報告会発表資料 翰林日本語学院

コースの全体像

- コース名：日本文化紹介
- レベル：B1
- 言語活動：話す（やりとり・発表）聞く・読む・日本事情
- スタイル：オンライン
- 目的：進学（当初の申込が高校生・大学生だったため）
- 受講者の国籍：中国・ロシア
- 人数：10人
- 時間：90分×6回（1か月に1度）

このコースを設定した背景

- 日本文化紹介への取り組み
通常の進学カリキュラムの中では取り組むことが難しい
今まで学内で行ってきた自由参加の校内イベントの経験を生かす
- 新しいことにチャレンジできる良い機会

コースの目的

- 日本の文化紹介を通して、言語能力を伸ばしていく。
- 日本文化を知ることにより日本に対して
興味を持ってもらい、理解を深め、日本語学習の
モチベーションにつながるようにする。

主な授業内容

- 日本の夏・秋・冬のテーマでの文化紹介
- 教員の特技を活かして盆踊り、茶道等

第1回・ 7月：日本の夏

第2回・ 8月：浴衣・お盆・盆踊り

第3回・ 9月：日本の秋

第4回・10月：茶道

第5回・11月：日本の冬

第6回・12月：日本のお正月

授業で留意した点・工夫した点

- 伝統的なものだけでなく、現在日本ではやっているものなども取り入れた。
- 学生が実際に体を動かしたり、学生の家にあるものを使用して活動できるようにした。

第3回目の授業で活用したスライド例

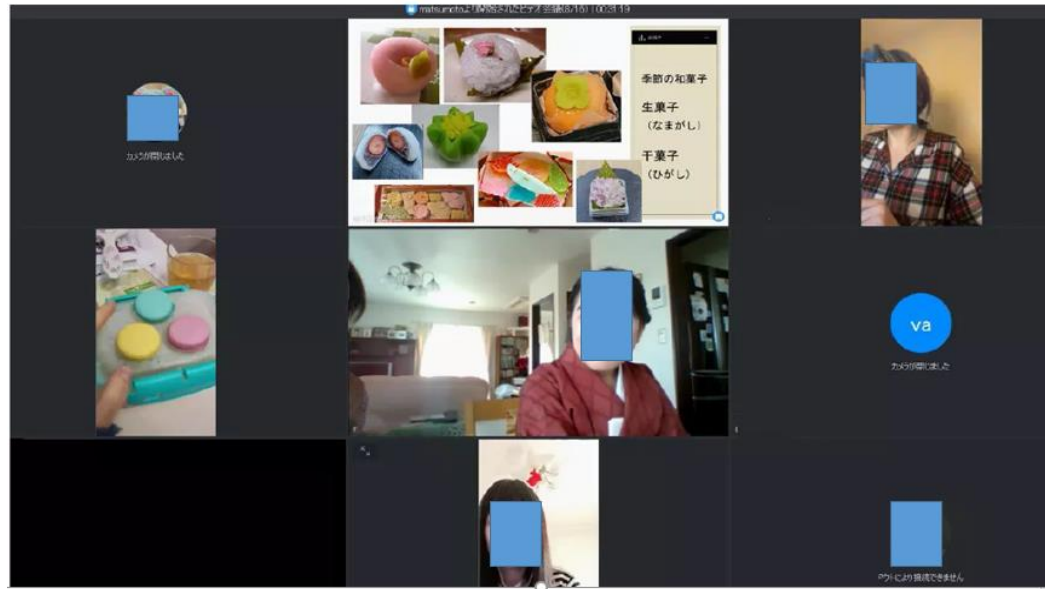
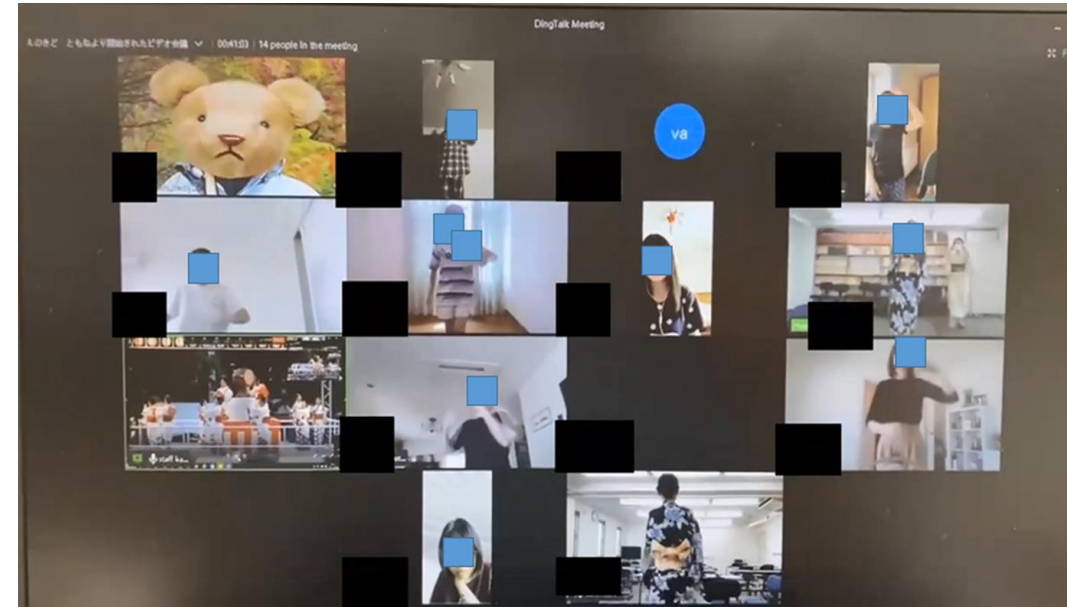
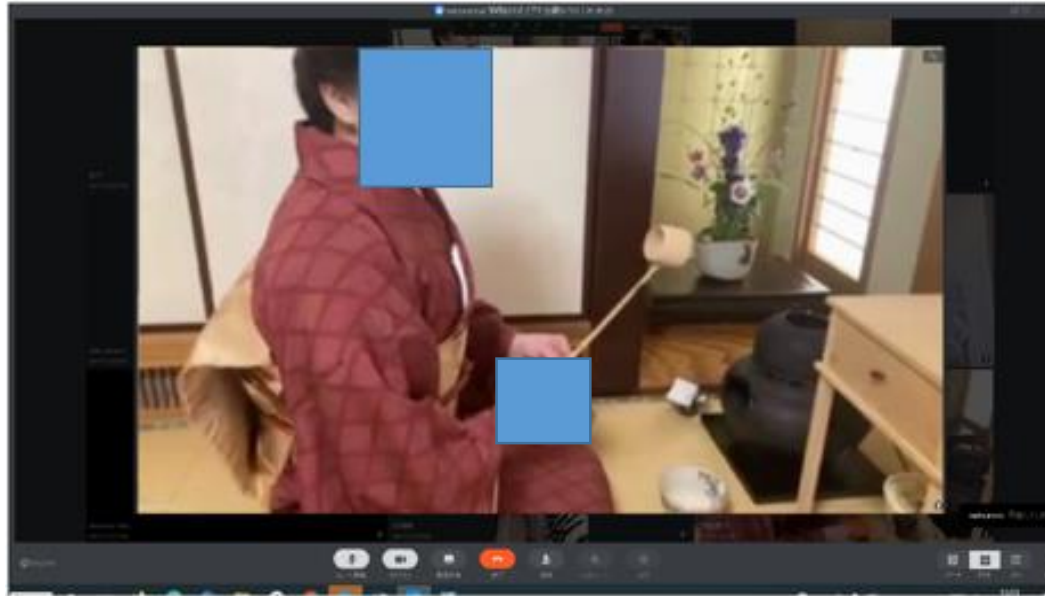
9月の授業 お月見

今年のお月見の日は 9月10日（土）



若い人は。。。。

第3回目の授業で活用したスライド例



日本語学習としての取り組み

「話す（やりとり・発表）」

- 教師との質疑応答など
- テーマに関連することに関して、その場で話したり、事前に発表を準備してもらう。

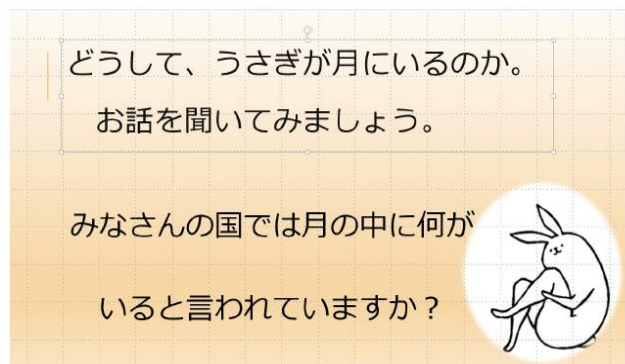
この日は花を飾って、月を見ながら、お団子を食べたり、お酒を飲んだりします。みなさんの国では月を楽しむ習慣がありますか？

第3回目の授業で活用したスライド例

日本語学習としての取り組み

「聞く」

- 準備したスライドを使用しながら、教師の説明や動画などから聞く練習を行う。



成果

- 学習者
「とても楽しかった」
「元気づけられた」
「来月の授業が楽しみ」
- 教師・教育機関
教室外からのライブ配信→授業スタイルの広がりの可能性

課題

- オンラインであるため、できることが限られていること。
- 教師からの一方的な説明になることが多く、学習者のアウトプットが少ないこと。



ご清聴ありがとうございました。

2-3. 自主事業で実施した最終報告会 概要

■開催日：2023年1月23日（月） 10:00～12:00

■開催方法：オンライン（ZOOM）

■参加者：48名 ※実証事業参加校、一般参加者、有識者、JaLSA

■目的

実証事業で得た学びを今後どのように活用していくのか、及び活用していくための課題を討議、発表することにより、取り組み内容の共有、課題の解決を図り、次年度以降のオンラインを利用した日本語教育の促進、質の向上に繋げる。

■内容

学校から実証事業に取り組んだ結果、「今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくのか」、「取り組む上での課題」について、事前レポートを提出。事前レポートは、各学校へ送付して共有。

当日、グループに分かれ、ディスカッションを行い、その後グループ毎に発表し、今後の取り組み、課題を共有。

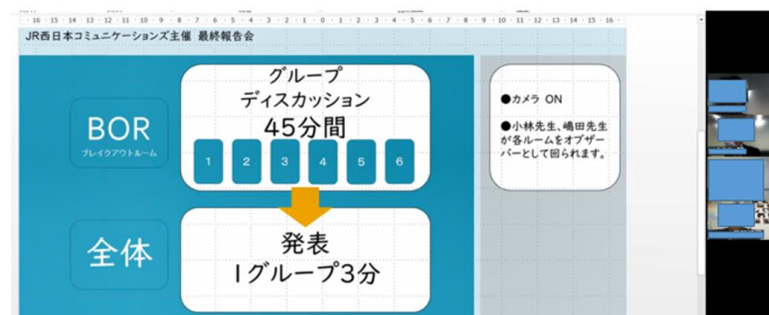
■プログラム

- ・報告会趣旨及びグループ討議、発表の説明
- ・グループ討議（今後の取り組みと課題）
- ・グループ発表
- ・質疑応答



参加者

1 Aoyama Hope Academy	25 あさひ日本語学校
2 新白河国際教育学院	26 弘堂国際学園
3 J C L 外国語学院	27 明晴国際語学院
4 平成国際アカデミー	28 東京コスモ学園
5 JCLI日本語学校	29 城東日本語学校
6 さきたま国際学院	30 東京国際知識学園
7 名古屋YWCA学院日本語学校	31 東大阪みらい日本語学校
8 東京外語教育学院	32 東京板橋日本語学院
9 翰林日本語学院	33 新亜国際語言学院
10 ファーストスタディ日本語学校大阪本校	34 JTB
11 神戸外語教育学院	35 JTB
12 神戸YMCA学院専門学校日本語学科	36 JTB
13 東京王子外国語学院	37 NTTラーニングシステムズ
14 仙台ランゲージスクール日本語科	38 KNT
15 新日本学院	39 KNT
16 東京日語学院	40 KNT
17 行知学園日本語学校	41 KNT
18 行知学園第二附属日本語学校	42 KNT
19 市川日本語学院	43 日本語学校ネットワーク
20 活学書院	44 JaLSA
21 アジアンインターナショナル	45 JaLSA
22 早稲田進学館中野校	46 JaLSA
23 学校法人河原学園 河原電子ビジネス専門学校	47 有識者
24 ITカレッジ沖縄	48 有識者



2-3. 自主事業で実施した最終報告会 事前レポート

N 01

①実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

本校では今後も、細々とでも海外向けのオンライン授業を継続します。
継続のメリットは金銭面には、直接的にはありません。ですが、所属教員の質の向上に大きく寄与すると考えているためです。
質の向上とは、海外で学ぶ学習者の実際に関与し続けることで、教員が国内で行う授業やカリキュラムの質が向上することです。関与することでわかること。それは、本当の意味でのゼロ初級、両親を手伝いながらの学習の実情、独特の教育（訳読に偏重した積み上げほか）、などを知ることにあります。海外での教育に関与することで、教員が日本で行う授業の質が上がります。そして、入国前と入国後の教育を別個のものではなく、連続したものであると意識できれば、入国後教育の質が大きく向上すると確信しています。

②実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

オンライン授業を進める上での課題は、ハード面や教育技術面にも当然あります。
ですが本校にとつての大きな課題は、周囲/社会/非教育関係者が日本語教育を見る視線が変化したことにあると、今は感じています。
感じる視線の変化とは、オンライン授業への過信が中心です。平たく言えば「授業はオンラインで良いんでしょう?」という理解をする非教育者の方が増えている、ということです。例えば、海外教育センターの経営関係者が「オンラインで1日2コマ(1.5H)教えて8か月後にN4相当にしますね。協力をしてください」というオファーをして来る、というようなことです。

N 02

①実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

今後、現地からオンライン授業の要望があれば、開講を検討したい。

②実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

4～5名程度のクラスでは授業は比較的行いやすいが、10名程度になると各学生の授業中の状況を把握するのが困難になる。また発達途上国の場合、デバイス・インターネットの環境にかなり差があり、音声の一部途切れるなど安定的に授業を実施できない場合もあった。また、音声をミュートにするタイミングがこちらの意図・指示通りにはいかないことも多々あり、周囲の騒音が流れて授業がしにくいなどの問題が生じることもあった。また言語活動「書く」では、筆記の様子が見えないことが多く、特に学習初期の学生の指導は容易ではなかった。

N 03

①実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

オンライン授業に出席する学生が少人数であればよいが、多数の学生が出席する授業だと、どうしても学生の集中力が持たないということがある。授業には出席しているが、教師に質問されても聞いていないので、答えられない、授業とは関係ないことをしているということもよくある。そのため、授業内にグループワークやペアワークを実施する時間を設け、講義的な授業ではなく、参加型の授業にしていきたいと思った。
また、オンラインだと、対面授業よりはるかに時間がかかる。点呼だけでもかなりの時間を要するので、授業時間を効率よくするために、事前に考えて来てもらえるものは、課題を与えて、授業時間を実践の場に行きたいと思う。

②実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

オンライン授業では、カメラをオフにする、カメラはついていても、顔を見せない、リピートしないということがよくある。オンラインだと恥ずかしいという声も聞こえるが、やはり語学を勉強するので、顔を見て会話を行ってほしいと思うが、なかなか難しい。
初級のクラスだと、教師の音声聞いて、リピート練習し、発音の指導もしたいが、なかなかマイクをオンにしてくれなかつたりするので、発音指導も難しい。
対面であれば、休憩時間や放課後に学生に声をかけて、コミュニケーションをとったりするが、オンラインだとそれが難しいので、学生との距離感をどうやって縮めるかが課題である。

N 04

①実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

まずは貴重な体験をさせていただきましたこと心より御礼申し上げます。実証事業に取り組み、様々なことを学ぶことができました。この経験を生かし、これからもオンラインを使った日本語教育を続けていくつもりです。無料から有料になることで学生を集めることが難しくなりますが、まずはやれるところから確実に始めていきたいと考えております。はじめに入学決定者に対して日本に来る前の準備などのオリエンテーションをZOOMを使って行ない、学生たちの不安を取り除く。日本へ来るまでの間、学習して欲しいことを示し、入国してからスムーズに授業に入れるようにする。できれば週に1回の授業を行なう。もちろん、授業料は取りません。その際にアンケートを行なって、留学準備の進捗状況なども確認する。このようなサービスから始めることで次の申請申し込み数を増やしていければと思います。また、申請不許可の学生についてもフォローを行ない、再申請をするもの、再申請はしないが、日本語教育を続けていきたいものに満足できる日本語教育を施していきたい。できれば後者は有料とします。そこからはじめて有料でも日本語教育をオンラインで受けたい学生を募り、オンライン授業を実施できればと考えております。

②実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

日本へ行きたい、そのために日本語を勉強したいという目標がある学生については問題はないと思いますが、ただ単に日本語を勉強したいという学生はおもしろくないとか、難しいと感じてしまうとお金がかかっているためにすぐに辞めてしまうケースも考えられる。そのためには、授業内容を充実させることももちろんのこと、語学特有のできるようになると楽しい、そんなカリキュラムを作成できればいいと思っています。そのためには世界中の学生と日本語で話ができる場を設けることも大切だと思います。お金にはならないですが、外国にいる学生が日本語を話す機会を与えて少しでも話すことができ、それによって世界中に友だちができるようになったら日本語を学ぶモチベーションが下がることなく、続けられるのではないかと考えております。そこから、日本へ行きたいという学生を増やすことができたいと思います。ZOOMサロンのようなものが作れたらいいかなと考えています。

N 05

①実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

わが校の場合、実証実験で参加した教師陣は、全て事務局所属の有資格者でした。なぜなら、入国が既に開始されており、対面のクラス授業を優先する教務部所属の教師は担当する余地が無かったからです。

今回の実証実験でもたらされた大きな利点は、日本語学校告示校における入国前のオンライン日本語指導も、留学ビザ申請の日本語学習要件に認められるようになった点です。これまで不透明な部分もあった入国前の基礎日本語学習という領域に踏み込む事ができたのは大きな成果であると考えます。

今後、留学生の日本への誘致が厳しさを迎えると予測される中で、このシステムで日本留学へのコースデザインが入国前後で一貫して行えることは素晴らしい進歩であると考えます。

しかしながら、上記の観点はあくまでも「告示校が」「留学ビザで来日する外国人のため」であって、日本語学習を必要とする幅広い層のわずか一部であるに過ぎないという重大な欠点も併せ持ちます。

この点を考慮した上で、日本語学校が在外のみならず国内の日本語学習者も有機的に取り込んでオンラインによる日本語教育を推進できる取組を考えたいです。

②実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

①で述べた内容について、日本語学校告示校がオンライン授業を進めていくために営業の観点からの問題を以下に挙げます。

1. 入国前の150時間学習が日本語学校で終結してしまうと、現状の日本語学校の営業スタイルでは送り出し側から大きな反発があるだろうこと。

2. ゼロ学習者に対する学習は現地の日本語教師との協働が望ましいが、そのためのミーティングや教授法の確立、教授分野の分担などの踏み込んだ策定を要する。また、その対象となる送り出しとの契約内容をどこまで詳細にするかも考慮する必要がある。

3. 時差を考えると、日本語学校では欧米圏での実施が困難。深夜帯等を設定してまでオンライン枠を作ることは厳しい。よって対象国籍の偏りに繋がる。

4. オンラインクラスの営業をする際に細かい運営方法の知識が必要になるので、営業担当者にも日本語教師の有資格者が担当する方がよい。

5. 入学後のカリキュラムと連携した教材の策定が必要。入国前と入国後のテキストの検証をすることで、入国前後で同じ教材を使用することによるモチベーションの低下を避けられる。告示校では、学習者の入国前使用教材が教員レベルまで共有されていないことが多いことからエラーも少なからずあるように感じるので、その改善となる。

6. オンラインで指導する教材はまだまだ限られており、オンラインから対面授業へという長期スパンで考えるコースデザインについてはまだまだ研究の余地が大いに残されている。

N 06

①実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

全世界と瞬時に繋がることのできるオンライン授業はこのコロナ禍を終えた後であっても尚存在感を示していくことが考えられる。テクノロジーの進化は日進月歩であり、これから新たな技術に対応していけるよう学校全体として研鑽に努めていきたいと考えている。

②実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

海外に向けてオンライン授業を展開していくといっても実際問題として現地で用意される機器の性能やその国々におけるネット回線の強度などハードウェアによる障害は依然として立ちばだかっている。学生側にとってもスマートフォンの小さな画面を見続けることによるストレスや疲れ、ネット遅延によるタイムラグがあり会話にならないなど、対面授業に比べてはまだネットワーク関連の技術革新が必要である。

N 07

①実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

日本語の勉強を全くしたことのない学生に対しても、オンラインでの導入が可能であることがわかったので、留学後の学習がスムーズになるようなコースを用意する。

現行のクラスのオンライン化ではなく、オンラインならではの、目的を絞ったコース作りを考えたい。

②実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

学生、教師共にアプリに慣れる期間が必要。

特に初級レベルにおいて、紙媒体無しでいかに定着をはかるか。

学生の状況をどのように把握するか。

日本にいればわかることも、来日経験のない学生には全くわからないので、細かい配慮が必要。

対面だったその場で指導できることができない。

N 08

①実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

海外にあり、入国が困難である学生に対してはもちろんのことですが、国内在住でも学校から自宅まで距離があり通学が厳しい学生に対しても、必要に応じてオンライン授業を行っていこうと思いました。また今後は、オンライン上で使用することで授業内容や学生の理解が向上するアプリケーションやWebページなどを利用し、より充実した授業にしていける所存です。

②実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

学生の反応がなかったりした際に、機器の不備なのか、本人の意思の問題なのかを確かめる術がないまま終わってしまったので、その点が特に大きな課題だと感じました。他の学校の方がしていたように、送り出し機関にバックアップしてもらいながらということも考えられますが、広告を見て個人で申し込んでくださった学生も少なくないので、なかなか難しい問題だと思います。

2-3. 自主事業で実施した最終報告会 事前レポート

N 09

①実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

海外にいる日本語学習者に対するオンライン日本語コースの提供を考えたい。

- 様々な理由で日本へ来ることができない日本語学習者への学習支援を継続的に行っていく。
- 来日前の入学予定者に対するオンライン授業を行う。現地の日本語教育機関と連携も行う。

②実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

大きく二つの課題が考えられる。

- コース開発や授業にかかる費用の問題と、募集の難しさ。

コース開発や授業にかかる費用、また現地の日本語教育機関負担の費用があるため、オンラインコースは有料となる。今回は無料だったが、今後有料のコースとなった場合に学習者が集まるかどうか。また、入学予定者以外では、どのようにして学習者を募集するかも大きな課題となる。

- コース運営上の課題。

オンラインでのコースにおいては、学習者それぞれのニーズ・レベル等をきちんと把握してしっかりとカリキュラムを作成することが、大変難しい。また、コースを行う上では、出欠席の管理・提出された課題のチェック・フィードバック・進捗の確認・評価などに大変手間がかかる。慢性的な人手不足が考えられる。

N 010

①実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

来日前の準備講座を開講します。弊校の留学面接に合格した学生に対して主にN5、N4レベルの教育を実施します。期間は約3カ月週2回程度。準備講座の出席率や成績で事前に学生の能力やモチベーションを見極める。短期間なので成果よりも見極めを重きにおいて来日後のミスマッチを防ぎたい。(しっかりと日本で勉学に励むことができるかどうかを事前に見極める)

②実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

受講する学生のインターネット環境が悪い時の対処法が確立されていない。仕事をしている学生と仕事をしていない学生のタイムスケジュールが異なるのでカリキュラムを組みにくい。様々な国や地域から募集予定も時差による授業時間の調整が難しい。

N 011

①実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

現在のところ、オンライン講座の事業をする予定はありませんが、今後オンライン講座を開講する際は留学生としての来日が難しい学生、日本への留学を目指している学生、手軽に本格的な日本語授業を受けたいといった目的の学生にオンライン講座を提供したいと思います。また、学校内で感染症対策としてのオンライン授業は継続していく予定です。今回のオンライン実証事業の経験から使用ツールはZoom、1クラス単位は10人程度、評価は出席率と提出物でやっていきたいと思います。また開講時間に頭を悩ませなくていいように、できる限り時差が出ないやり方、受講者募集対象国籍を絞るなどのやり方を取っていききたいと思います。またオンライン授業では対面授業で行っていた内容を時間通り消化できない(オンラインは対面より授業に時間がかかる)ことがわかったので、その点を考慮したカリキュラム作成、コースデザインをしていきたいと思います。教材については、日本語教育教材は既製品の電子教材の種類が非常に少ないので、学校独自のオリジナル教材を開発していきたいと思う。

②実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

授業中においては、学生の授業態度の把握、理解度の把握、進捗の把握、筆記成果物のフィードバックが課題である。

また学校における授業科目においては、オンライン上では体験学習ができないので、日本文化の学習や実践活動・フィールドワークを通じた言語活動のアウトプットが難しい部分をどう埋めるかが課題だ。コースを考える場合には、今回のように国外から様々な国籍の学生が参加してくる際、講座の開講時間をどうするかが、最大の課題である。授業についてこれなくなってしまう学生へのフォローをどうしていくかも課題である。対面授業においては、学生同士でフォローする、教師が学生をフォローするなどの手段である程度カバーできるが、オンライン授業では好き勝手に会話できる機会もなければ、学生の授業理解の把握もしにくい。今後どのように学生の学習フォローをするのか、現状対策がわからない。

N 012

①実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

対面での授業が可能になったが、今後さらにオンライン授業の需要は増えると考える。対面、オンラインそれぞれの良さを生かし、2段階構えでの授業展開が望まれる。

また、今までゼロ初級のオンライン授業、ハイブリッド授業は難しいと考えていたが、実証事業を行うことでゼロ初級からの授業の可能性を感じることができた。
レベルや授業の種類（会話、表記、試験対策等）を問わず、オンライン授業に臨みたい。

また、実証事業では行うことができなかったアプリ等を活用したオンデマンド授業にも挑戦できればと思う。

②実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

- ・聴解等の音声に対面と同様聞きやすくすること
- ・ネット環境の安定（学校、受講者ともに）
- ・特に個人で申し込んだ場合、途中で連絡が取れなくなる可能性があること
- ・教材の取り扱い、著作権についての教師間の共有周知
- ・教材入手（海外の学習者）の問題 国によっては、入手困難、もしくは時間がかかる場合もある
- ・オンライン授業（コース・クラス）でのルール作り

2-3. 自主事業で実施した最終報告会 事前レポート

N O 13

① 実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

コロナ禍は結果的にオンライン授業の可能性と利便性をわたしたちに知らせるものでもあった。2020年当初は追われるように始めたオンライン授業であったが、長引くにつれて、いろんな課題や改善点が見えてきた。その短い期間での集大成ではあるが、本実証事業で試すことができたのは非常に有意義であった。今後の取り組みとして具体的に2点ある。まずはZOOMアプリの画面共有ツールについて、この2,3年の間でも、受講生側のスキルが上がったと感じられる。教室授業では受講生のデバイスの画面を即座に共有することはまだ現実的ではないが、この機能を有用すれば、アウトプットの方が彩られ、モチベーションにも良い影響が期待できる。同様に自宅にあるものをすぐに画面越しに見せることができるのが、教室ではできないことであった。昔の写真や思い出の物、料理の実演や楽器の演奏、ペットの紹介などネタは尽きない。これは講師側にも当てはまり、通信環境が整えば、繁華街の様子、レストランでの応対やビジネス会話の実演を容易に映し出すことができる。教室授業の代替という意識から脱却して、教室でできないことを意識的に進めていきたい。もう1点は、本実証で繰り返し再生できるという点に着目した。ただ教室レッスンを録画しただけよりは、ビデオ教材として編集されているマテリアルの方が当然だが繰り返し見るに耐える。そこで、品詞の活用場面など、暗記が求められる内容をビデオ教材化することによって、受講者に繰り返し見ようと思えるように工夫した。その教材とオンラインレッスンを組み合わせて実証をおこなった。課題は残るが、双方のメリットを意識することが大事だと考えている。

② 実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

上記した点を踏まえて、実証をおこなったところ、主に3点課題が見つかった。まずは受講生の授業参加の意欲というものが、教室に比べ緩みやすいことが判明した。通学であれば休みづらいものを、オンラインでは休みやすく、また本実証では出席要件がほとんどなかったため、留学生の出席管理に比べると縛りづらかった。教室とは違う方法で1回のレッスンに出席しないことに対する損失をうまく感じさせる工夫が必要である。視点を変えて、受講生を固定せずに流動的にすることも考えている。課題としてはカリキュラムも同様に流動性が求められることだろうか。次に、繰り返し見るビデオ教材の再生方法としてYouTubeのプラットフォームを利用したが、国によっては視聴できなかったり、他社のプラットフォームでは限定公開ができず、公開すると、一般にも広がるメリットと、ネット上に溢れ返っている動画のような安っぽさが滲むデメリットが否めなかった。最後に受講者側の通信環境とデバイスにレッスンの主軸が左右しやすい。通信環境は良いに越したことはないが、デバイスについて例を挙げると、タブレットとペンシルがあれば、筆順の確認や特定の文字の伝達が容易に行える。これは漢字のレッスンでは非常に有効であるが、とくにペンシルの普及は未だ遅く、本実証では講師側がペンシルを用いての書きの実演にとどめた。

N O 14

① 実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

○渡日前学生の日本語力を図る。
例1)
母国で、母語で学んだことを元に、授業を受けている学生がいる。日本語を聞いて理解している訳ではないので、自国で学んだ知識を使い果たすと、急に勉強が出来なくなり、伸び悩む。そのような学生を、事前に知ることが出来るのではないかな。
例2)
来日後のプレースメントテストでは、点数という面で見ることが出来ないが、渡日前オンライン授業を行う事で、入学予定者の実力、人となり、興味関心が何かを知ることが出来る。来日後も、お互いに親近感を持って授業を始めることが出来る。
○法定伝染病などで行動制限がある学生、療養が必要な学生への授業として活用できる。
例)
法定伝染病で病院内から出られない者、学校やアルバイトなど複数人の中に入る事が出来ず、家に居るしかない者がいる。体調不良は見られない。そのような学生に、安心感や所属意識を伝えることが出来ると思う。実際、今年度、そのような学生が出て、繋がっている感じが皆と学べる喜びを感じている事がわかった。
○留学したいと考えている学生の「お試し」として利用できる。
例)
長期留学が出来るかどうか、夏休み等を利用して来日し、試してみる学生がいる。渡日前にオンライン授業をする事で、日本国の授業の雰囲気をつかむことが出来るのではないだろうか。今回の実証事業でも、2023年1月期に入学を予定している学生が多数参加しており、意欲的に学ぶことが出来た。早々に来日した学生と対面した時は、お互いに嬉しさを感じることが出来た。
○どうやって留学したらよいか分からない欧米人に、留学情報を提供できる。
例)
完全帰国した学生のプログを見て、日本国への留学を決めたという新入生がいた。アジアでは留学センターが発達しているが、ヨーロッパでは、それほど発達していない。留学経験者のプログを見たり、身近な者の話を聞いて事を進めていく。日本語学習が向いているのか「お試し」をしたり、留学の手順を紹介することが出来るのではないかな。オンラインで繋がり、学校の情報を受け取ることが出来るのではないかなと思う。

② 実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

○どうやって学習者を集めるか。
不特定多数の人を集める方法があるだろうか。今回のように、入学待機している学生から参加者を募れば簡単だが、継続していく場合、どのような方法で学習者を集めたらよいのだろうか。
○オンライン授業の開講時期を定めるべきか、常に発信し続けているべきか。
○時差にどう対応したら良いか。
○日本国、日本語を広く世界に知らせたい。何を活用していけばよいか。
オンデマンドであれば、広く、多くの人に見てもらえる事が出来る。そこから、オンライン授業に繋げる事が出来るだろうか。料金が取れるわけではなく、勉強が進めば、オンライン授業で終わるはずが無いと思う。日本人が多くいる所に出かけて行き、実力を試したいと考えるだろう。生のやり取りが興味を掻き立て、面白さが増すのではないかなと思う。無料で実力をつけたとしても、親日家として活躍したり、日本国へ人を呼ぶことになるのではないかな。そのためにも、ホームページだけで紹介するのではなく、何かプラットフォーム的なものが有れば良いのではないかなと考える。

N O 15

① 実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

- ・在留申請の前や入国前に選抜面接を行っていたが、後はそれをなくし、現地大学、日本語センターなどと提携し、オンライン授業を提供しようと考えている。こちらも学生の様子がわかり、個々の志願者にどのような学習が必要かアドバイスできる。
- ・就労している外国人に対する日本語教育
- ・お子さんや家庭の事情、遠方等の理由で登校できない外国人への日本語教育

② 実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

- ・機材等、オンライン授業専用のものが整備されていない。教師の私物のパソコンで行っている場合が多い。
- ・著作権の問題で、対面とは違う出費や制限が出てくる。
- ・対面授業とオンライン授業は効果的な教え方が違うため、教師もそれを分けて考えなければいけない。
- ・現地と授業をする場合は、どうしても天候等の影響でスムーズに授業ができなかったり、授業そのものが中止になることもある。

N O 16

① 実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

オンライン授業でも環境が整っていれば、日本語教育をすることができるとわかったので、必要に応じてオンライン授業をしていく。

② 実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

オンライン授業に必要な設備や、オンラインで使用する教材などが十分ではない。
文字の指導や、テスト、又細かいチェックなどができない。
長時間の指導も難しいことが課題。

2-3. 自主事業で実施した最終報告会 事前レポート

N O 17

①実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

中国国内での日本語教育の質のばらつきが大きく、基礎が弱い学生が増加している。在留申請をするため、N 5 相当又は 1 5 0 時間以上の日本語力が必要であるが、特に新型コロナの影響で後者を選び、その中でもオンライン教育の割合の高さが顕著である。

その影響で、来日後の学生の日本語力の低下問題が既に現場の課題になっている。

当校では、入学予定の学生について、できれば入国する前に日本語の授業を提供したい。日本語学校から提供される初級日本語教育の授業を行ってきたい。

今回、実証事業では、中国在住の留学をひかえた学習者にオンライン授業を行った。今後もこの事業の結果をふまえて、入国前のオンライン授業に取り組んでいきたい。

②実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

まず、学生への連絡方法、授業の時間の調整、通信設備、教材の選択、宿題の提出方法が課題であると思慮する。

授業内容もオンラインの特徴を活かし、動画や画像などをふんだんに使用したインタラクティブな授業展開が課題である。

N O 18

①実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

新型コロナの収束が見えない現状、日本語教育においてもオンライン授業を受け入れざるを得ないという消極的な気持だったことは否めない。しかし今回の実証事業で初級レベルのオンライン授業を担当したことにより、新たな課題と可能性が見いだせたことは、教師としての大きな収穫であった。

受講者の目的により、オンライン授業に期待できる効果も異なると思うが、『目的別授業研究と効果測定』にも興味を湧いた。時間があれば、オンライン授業の研究会や研修に参加し、スキルアップを目指したいと思う。

②実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

まずは、オンライン授業を効果的に利用できる環境の整備。

これは教える側にも受講する側にも共通の最重要事項である。

ソフト面では、教材の準備が授業を左右することを、改めて実感した。

特に、今回は初級の学習者が対象だったため、聴解力には期待できず、教師の問いかけを理解するための絵教材や文字教材、発話を促すための工夫が必須だった。

汎用性のあるオンライン用教材が見つからず、ほぼオリジナルの教材を使用した。今後、オンライン授業を進めていくなら、オンライン用の教材研究は最も重要な課題であると考える。

N O 19

①実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

本校で実施したコースの中に N 5 文法コースがあるが、このようなコースを入国前の留学予定者に行いたいと思った。入国前に N 5 文法をマスターしておけば、日本に来てからは N 4 から勉強をスタートすることができ、日本語学校卒業時の日本語のレベルが高くなり、その結果よりレベルの高い大学に合格できたり、日本での就職がスムーズにいくと予想されるからだ。

②実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

参加希望者のレベルがコースに合っていないことが多く（例：A 2レベルのコースに A 1レベルに満たない学習者が参加）、事前に希望者のレベルとコースのレベルをある程度合わせておくことが大切だと思った。レベルに合っていない学習者は途中脱落することも多かった。また、オンライン授業で当日学習する項目を提示しても、定着度が低く、事前にある程度その日に学習する項目を伝えておくといったと思った。

N O 20

①実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

- ・出席の確定→カリキュラム作成の意味がない
- ・現地の環境を整える→せめてタブレット使用を求める
- ・現地祝祭日の確認と日本の祝祭日の確認→すり合わせ
- ・学校側（日本）の通信環境を整える→できれば簡易スタジオの設置
- ・現地日本語学校と時間帯がバッティング→すり合わせ

②実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

- ・継続性に欠ける（参加者の出入りが頻繁で確定しなし）
- ・現地通信状態の状況（受講環境の整備）
- ・祝祭日（長期）や現地学校の授業スケジュールの確認
- ・ビデオoffが多く、画面上で名前と顔の確認が取れない
- ・返答に窮する場合は音声および画像をオフにする
- ・授業の出席に対する拘束力がない（モチベーション把握が困難）
- ・日本側も現地側も設備が十分でない
- ・学生の環境はスマホなので画面が小さく、授業内容（PPT等）の画像確認が不便。
- ・継続性がないので前日の続き授業ができない
- ・来日する学生の素性が分かるように工夫をする
- ・休憩をはさむと次の授業への参加率が悪い
- ・時差の勘案

2-3. 自主事業で実施した最終報告会 事前レポート

N O21

①実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

実証事業の結果、海外から参加した学生については、発音の矯正に併せて、会話能力の向上が見られた。日本語母語話者とオンライン授業を通して接することで入国前教育としては十分な学習効果が得られると考える。しかしながら、その一方で記述能力の向上については判定が難しく、十分な学習効果が得られたとは言えない。このような状況にあり、本学では発話を中心とした教材並びにカリキュラムを組み、入国前の学生に対し、段階的にオンライン授業を実施することを検討している。

②実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

海外から参加する学生の本国のインターネット回線が悪い為、音声の遅延、ノイズが生じることがあった。日本側が快適な授業環境を整備することができたとしても、受ける側の環境が整備できていない場合は十分なパフォーマンスが望めるとは言い難い。このような状況にあり、現地の通信環境に改善を求めることが難しいため、教材にかかる通信負荷をできる限り軽減できるよう努めたい。この点が今後最大の課題となる。受ける側の環境が国によって大きく異なることもあり、公平な授業を受けることができるかどうかも課題となる。

また、漢字の読み書きについても、スマートフォンを使用している学生は、画面に表示される文字が小さいため字の判別が困難となることがあった。書き取りについても机間巡視ができないため、対面の授業と比べ、学習効果が得られるまで指導に時間を要する。書き取りの指導に関してはホワイトボード機能に併せてスタイラスペンの活用等、今後の改善が求められる。

N O22

①実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

今回の実証事業で「オンデマンド」と「ハイレックス」形式の授業に初めて取り組んだ。ともに事前に撮影した動画の中で、新出語量の導入と当日の授業で扱う文法の説明を行った。学生からのアンケートの内容はこちらでは確認はできないが、日本語学校に在籍している学生からの直接の聞きとりからは概ね好評であることがわかった。特に学習習慣があまり身につけていない学生にとって自ら予習に取り組むことはハードルが高いが、動画教材があれば気軽にそれを視聴して予習することができたことがその一因であろう。

今後は、まず日本語学校に在籍して対面授業を受けている学生向けに予習動画を配信することから始め、特に自宅学習の習慣のない学習者へのサポートを行いたい。

②実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

予習動画を制作するにあたりクオリティーの高いものを作るためには、より性能の良い撮影機器を買いそろえることはもちろん、動画や音声の撮影や編集技術のスキル向上も必要である。お金の問題や、現状では多忙な教員にそこまでのスキルを要求することができないのが大きな課題である。更に、予習動画を取り入れることによるカリキュラム改訂等まで含めると、小さな一歩のように見えてかなりの労力を要する作業となりそうである。

N O23

①実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

今後、本校のオンライン授業の取り組み

1. 入学予定者を対象に実施。
2. 学生募集の際、無料のオンライン授業を実施する。
3. 海外の提携校に通う学生を対象にオンライン授業を実施し、在校生も交え交流を深める。

②実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

1. オンライン授業を実施する時間の確保。（常勤が中心で行う予定の為、通常の授業とのバランス）
2. 教材の開発。
3. オンライン授業のカリキュラムの整備。
4. 到達目標の明確化。（終了証書が留学の際、使用できるなど。）

N O24

①実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

- ・IpadのGoodnoteが非常に便利で、授業スタイルとしては対面と変わらないクオリティで行うことができたため、今後来日前の留學生向けに入学前レッスンの提供ができると実証できたのではないかと感じました。入学前にレッスンをすることで、講師との関係構築もできているため、入学後の学習がよりスムーズになり早い段階で初級レベルを定着させることも可能だと思います。
- ・通常授業では必要ないかと思う。ただ、コロナのような状況がまたあり、オンラインでしか授業ができない場合は、取り組んでいきたい。
- ・ついて来れない学生が出ないよう、フォローアップする体制を作る。

②実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

- ・視覚情報がオンライン画面しかないため、対面の学生に合わせたりテンポをあげると、追いつかなくなるため、受講の様子を確認しながら進める必要がある。様子を把握するためにも、カメラオンを徹底させる必要がある。
- ・ハイブリッドで学生数が多い場合、オンラインの学生はもちろん、対面の学生の習得度を細かく把握したり、授業態度の指導をするのが難しい。
- ・オンラインの学生と対面の学生の交流が難しく、ペアワークもできない。
- ・欠席して身についていないところを、対面であれば急速課題を用意するなどして対応できるが、オンラインの学生にはその準備に時間がかかる上、一人ひとりの定着を確認するのも大変であり、ついて来れない学生を出さないようにするのは大変である。
- ・オンライン授業で一番の課題は、学生が書く作業が見れないという点。講師側は、PC、IPAD2台を駆使し、授業を行っていて、IPADのペンで書いたものが学生には見えている。だが、学生は小さいスマートホン1つで授業を受けている学生が多い。学生のオンライン環境を改善しないと、対面と同等の書く作業は難しいのではないか。

2-3. 自主事業で実施した最終報告会 事前レポート

N 025

① 実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

- ・入学予定者の入国前のオリエンテーションを含めた日本語能力向上のためのコース運営

② 実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

- ・正確なニーズ調査、レディネス調査
- ・安定した通信環境
- ・時差の問題

N 026

① 実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

- ・ハイブリッドによる授業は、大人数では大変困難であった。そのため、オンラインに特化した授業、または少人数によるハイブリッドの授業で、よりメリットのある授業を行う
- ・読解授業では、事前に学生達に問題を送り、手元に印刷したものを準備してもらう
- ・パソコンを使った講習会などで、教師のzoomなどのスキルアップを目指す
- ・オンライン授業で使える教材を増やす
- ・渡日前の学生には、教室内の座学だけでなく、町の様子を見せたり、物価がわかるようにスーパーを見せるなど（要撮影許可）をして、現実、現在の日本を知ってもらい、日本により一層興味を持ってもらう

② 実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

- ・ハイブリッドの場合、どちらかの集中力が欠けないようにする工夫が必要である
- ・「書く」勉強の際には、その場で書いたものを確認するのが難しい

N 027

① 実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

- ・在留申請の前や入国前に選抜面接を行っていたが、今後はそれをなくし、現地大学、日本語センターなどと提携し、オンライン授業を提供しようと考えている。こちらも学生の様子がわかり、個々の志願者にどのような学習が必要かアドバイスできる。
- ・就労している外国人に対する日本語教育
- ・お子さんや家庭の事情、遠方等の理由で登校できない外国人への日本語教育

② 実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

- ・機材等、オンライン授業専用のものが整備されていない。教師の私物のパソコンで行っている場合が多い。
- ・著作権の問題で、対面とは違う出費や制限が出てくる。
- ・対面授業とオンライン授業は効果的な教え方が違うため、教師もそれを分けて考えなければいけない。
- ・現地と授業をする場合は、どうしても天候等の影響でスムーズに授業ができなかったり、授業そのものが中止になることもある。

N 028

① 実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

オンライン授業は、ある面では慣れであると思うので、回数を重ねるごとに、操作上の問題はなくなる。ニーズがあれば行うが、レベルがある程度ないと意味がないと思う。

② 実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

0初級の学習者に対して、教科書を利用したオンライン授業は難しい。文字の学習のためのツールがあるといいと思った。

2-3. 自主事業で実施した最終報告会 事前レポート

N 0 29

① 実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

実証事業を通して、潜在的な学習者がいることを再認識した。今後も、オンライン授業を活用して、学生募集のためだけでなく、国にいながら、質の高い日本語授業の提供（有料）システムを目指したい。

② 実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

①各学習者のネット環境の差は仕方がない部分もあるが、PCで視聴する学生、スマホで視聴する学生等、媒体が様々なので、見やすい画面の提供を心がけたい。②日本語の4技能をバランスよく授業に取り入れるのが難しい。また、クラス内のレベルも様々なので、一人が発言することが多く、その調整もオンライン上では難しい。③今回は無償ということもあり、学習者の出席率にばらつきがあった。将来は有料にし、それに見合う授業の提供をしていきたい。

N 0 30

① 実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

- ・授業時間の設定が全体的に短かったため、本年も1月から引き続き学習者が日本に入学するまでオンライン授業を継続する予定。
- ・特にアルジェリア人の学習者に漢字を指導する時間が取れなかった。改善策として、漢字の書き順を示したパワーポイントを作成し、それを授業で使用する。
- ・教材は、「いろどり」というオンライン教材を使用し、簡単な日本語の会話ができるようになってきている。教材は適切だった。

② 実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

- ・日本と時差があるため、すぐに連絡がとれないことがあった。

N 0 31

① 実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

入学前の事前学習として、オンライン授業を継続していきたいと考えている。

② 実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

学習者の日本語能力レベルがバラバラな状況に対して、どのように対応していくか。
（日本語能力別にクラス分けして授業を実施することで一定の解決は図れるかもしれないが、人員不足、予算不足等の問題が出てくる）
また通信環境（Wifi等）が無い（あっても通信状況が悪い）学生へのアプローチをどうするか。
音声のみの参加者と画面共有（教材共有）できない場合は、授業のやり方も変えないといけない。

N 0 32

① 実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

オンライン授業の「授業」自体は各先生方問題なく行えました。
しかし、事前準備の段階で「学生のニーズの把握」と「テキストの準備」に至らない点がありました。
また、スライドや画面共有のみならず、「Quizizz」などのアプリを使用し、学生が受け身にならないように教師一人一人が研鑽して行く必要があると感じました。
今後は上記の点を踏まえて、オンライン授業に取り組んで行きたいと思います。

② 実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

- 学生のニーズの把握
→各先生方から学生のニーズについての質問を受けました。
先生方それぞれで学生の知りたいポイントが異なっていたので、事前のすり合わせをどのようにまたどこまでしていくかが今後の課題だと感じました。

2-3. 自主事業で実施した最終報告会 事前レポート

N O 33

① 実証事業の結果、今後、オンライン授業にどのように取り組んでいくか

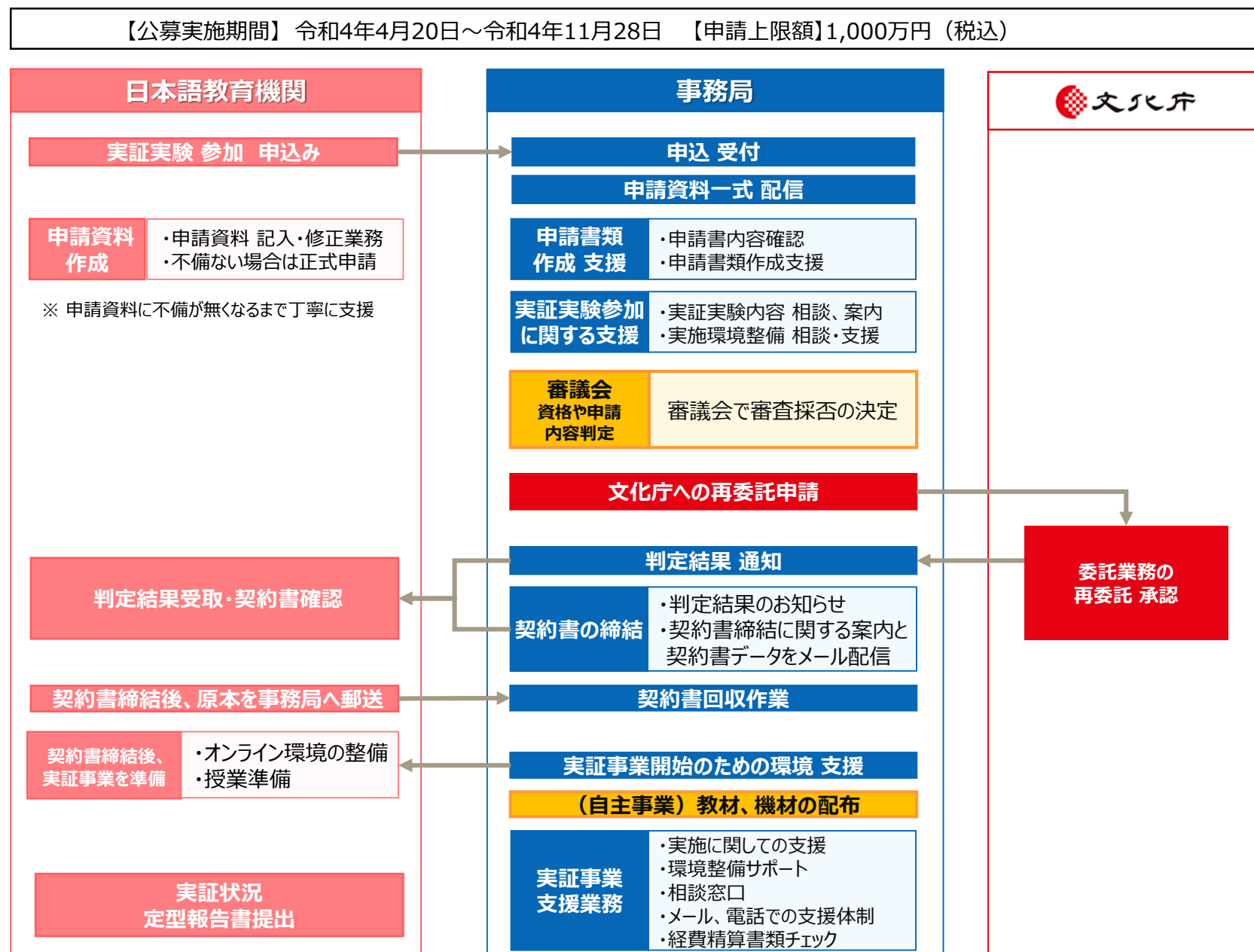
現状すぐにオンライン授業に取り組むのは難しい。本校教員の中でもさまざまな意見があるが、総意と言えるのはオンライン授業は教員1名に対して少数でないと学習効果に期待できないという点だ。特に初級の学生は少数でオンライン授業を受けたほうがよい。今後の入学前教育としてのオンライン授業は慎重に協議を重ねながら取り組んでいくべきである。

② 実証事業の結果、今後、オンライン授業を進めていく上での課題

本校へ入学する学生はアジア圏の学生であり、特に東アジアの郊外出身者はインターネット環境を確保するのが難しい。そのため、入学予定の全学生へのオンライン授業の実施はできない。
また、本校教職員は急増した留学生の対応に追われているため、オンライン授業に人員を割くのは容易ではない。
以上が本校におけるオンライン授業の課題である。

※事前レポートについては、外部評価委員会での議論のための資料（エビデンス）として使用したため、加工等せずにそのまま掲載しています。

「できるだけ多様なスタイル、レベル、種類の授業設定と1クラスの受講生の拡大」を目的に、当社ではカリキュラムや教材のパッケージは用意せず、各日本語教育機関様が自由度高くコース作成できるよう、事務局専従スタッフによるサポート体制（問い合わせ対応、申請書・精算書類・報告書等の書類作成サポート等）に注力した。



2-4.（公募事業）日本語教育機関が実施したオンライン教育の実証事業 ②実施校及び事業一覧

学校名	コース名	レベル	スタイル	目的	学習者数	言語活動						
						①話す (やりとり)	②話す (発表)	③聞く	④読む	⑤書く	⑥「日本事情・ 日本理解」目標	⑦その他
①Aoyama Hope Academy	進学コース、留学準備研修、初級	A2	オンライン	進学	3	○	○	○	○	○		
	進学コース、留学準備研修、介護体験コース1	A2	オンライン	就職	3	○	○	○	○			○
	進学1.5年コース、留学準備研修、初級1A	A1	オンライン	進学	10	○	○	○	○	○		
	進学1.5年コース、留学準備研修、初級1B	A1	ハイブリッド	進学	3	○	○	○	○	○		
	進学1.5年コース、留学準備研修、初級2	A2	オンライン	進学	3	○	○	○	○	○		
	進学1.5年コース、留学準備研修、日本事情	A2	オンライン	進学	3	○	○	○	○		○	
	進学コース、留学準備研修、介護体験コース2	B1	オンライン	就職	3	○	○	○	○			○
	進学コース、留学準備研修、初中級	B1	オンライン	進学	3	○	○	○	○	○		
	進学コース、留学準備研修、初中級、日本事情	B1	オンライン	進学	1	○	○	○	○	○	○	
	進学コース、大学留学準備研修、上級	C	オンライン	進学	2	○	○	○	○			○
	留学準備研修、中級	B2	オンライン	進学	2	○	○	○	○	○		
②新白河国際教育学院	11.留学準備研修、初級1	A1	オンライン	進学	5	○	○	○	○	○		
	ハイブリッド進学A2コース	A2	ハイブリッド	進学	5	○	○	○	○	○		
	ハイブリッド進学A1コース	A1	ハイブリッド	進学	6	○	○	○	○	○		
	ハイブリッド一般A1	A1	ハイブリッド	一般	6	○	○	○	○	○		
	ハイブリッド一般A2コース	A2	ハイブリッド	一般	10	○	○	○	○	○		
	オンライン進学A1コース	A1	オンライン	進学	4	○	○	○	○	○		
	オンライン進学A2コース	A2	オンライン	進学	7	○	○	○	○	○		
	オンデマンド一般A1コース	A1	オンデマンド	一般	12	○	○	○	○	○		
	オンデマンド進学A1コース	A1	オンデマンド	進学	5	○	○	○	○	○		
	オンデマンド一般A2コース	A2	オンデマンド	一般	4	○	○	○	○	○		
	オンデマンド進学A2コース	A2	オンデマンド	進学	5	○	○	○	○	○		
	ハイフレックス一般A1コース	A1	ハイフレックス	一般	5	○	○	○	○	○		
	ハイフレックス一般A2コース	A2	ハイフレックス	一般	10	○	○	○	○	○		
③JCL外国語学院	初級から中級へコース	B2	オンライン	進学	5	○	○	○	○	○	○	
	日本語能力試験1級コース	C	ハイブリッド	進学	5	○	○	○	○	○		
	日本語能力試験2級コース	C	ハイブリッド	進学	3	○	○	○	○	○		
④平成国際アカデミー	N4ステップアップコースオンデマンドクラス	A2	オンデマンド	進学	5	○	○	○	○	○		
	N4ステップアップコースオンラインクラス	A2	オンライン	進学	1	○	○	○	○	○		
	N3基本コース オンデマンドクラス	B1	オンデマンド	進学	2	○	○	○	○	○		
	N3基本コースオンラインクラス	B1	オンライン	進学	6	○	○	○	○	○		
	N3基本コースオンラインクラス	B1	オンライン	進学	2	○	○	○	○	○		
	N3基本コースオンラインオンデマンドクラス	B1	オンデマンド	進学	5	○	○	○	○	○		
	N4ステップアップコースオンデマンドクラス	A2	オンデマンド	進学	10	○	○	○	○	○		
	N4ステップアップコースオンラインクラス	A2	オンライン	進学	3	○	○	○	○	○		
	N4ステップアップコースオンラインクラス	A2	オンライン	進学	3	○	○	○	○	○		
	N3基本コースオンラインクラス	B1	オンライン	進学	4	○	○	○	○	○		
	N3基本コースオンデマンドクラス	B1	オンデマンド	進学	5	○	○	○	○	○		○
	N4ステップアップコースオンデマンドクラス	A2	オンデマンド	進学	4	○	○	○	○	○		
⑤JCLI日本語学校	基礎日本語	A2	オンデマンド	進学	1	○	○	○	○	○	○	
	入学準備コース	A1	オンライン	進学	20	○	○	○	○	○	○	

2-4.（公募事業）日本語教育機関が実施したオンライン教育の実証事業 ②実施校及び事業一覧

学校名	コース名	レベル	スタイル	目的	学習者数	言語活動						
						①話す (やりとり)	②話す (発表)	③聞く	④読む	⑤書く	⑥「日本事情・ 日本理解」目標	⑦その他
⑥さきたま国際学院株式会社	進学準備コース【N4】A	A2	ハイブリッド	進学	20	○	○	○	○	○		○
	進学準備コース【N4】B	A2	ハイブリッド	就職	15	○	○	○	○	○		○
	進学準備コース【N5】C	A1	ハイブリッド	就職	15	○	○	○	○	○		○
	進学準備コース【N5】D	A1	ハイブリッド	就職	15	○	○	○	○	○		○
	進学準備コース【N5】E	A1	ハイブリッド	就職	4	○	○	○	○	○		○
⑦名古屋YWCA学院日本語学校	First Step japanese1	A1	オンデマンド	一般	5	○	○	○	○	○		
	First Step japanese2	A1	オンデマンド	一般	5	○	○	○	○	○		
	First Step japanese3+名古屋を知ろう	A1	オンデマンド	一般	6	○	○	○	○	○		○
	初級日本語1+名古屋を歩こう	A1	オンデマンド	一般	5	○	○	○	○	○		
	初級日本語2+名古屋で遊ぼう	A1	オンデマンド	一般	5	○	○	○	○	○		○
	初級日本語3+日本語の発音	A1	オンデマンド	一般	5	○	○	○	○	○		○
	初級日本語4+まんがでオモトペ①	A1	オンデマンド	一般	5	○	○	○	○	○		○
	初級日本語5+日本語の発音②	A1	オンデマンド	一般	3	○	○	○	○	○		○
	初級日本語6+マンガでオモトペ②	A1	オンデマンド	一般	5	○	○	○	○	○		○
	初級日本語7+日本語でチャット	A1	オンデマンド	一般	43	○	○	○	○	○		○
⑧東京外語教育学院	進学コース（初級）	A1	ハイブリッド	進学	14	○	○	○	○	○		
	進学コース（中級）	B1	ハイブリッド	進学	3	○	○	○	○	○	○	
	進学コース（中級）	B2	オンライン	進学	19	○	○	○	○	○	○	
	進学コース（初級）	A2	ハイブリッド	進学	10	○	○	○	○	○		
	進学コース（初級）	A1	ハイブリッド	進学	12	○	○	○	○	○		
	進学コース（初級）	A2	ハイブリッド	進学	4	○	○	○	○	○		
	進学コース（中級）	B1	ハイブリッド	進学	2	○	○	○	○	○	○	
	進学コース（中級）	B2	オンライン	進学	4	○	○	○	○	○	○	
⑨翰林日本語学院	上級一般コース	C	オンライン	一般	4	○	○	○	○	○	○	
	アカデミック・ジャパニーズ聴解コース1	B1	ハイブリッド	進学	3	○	○	○	○		○	
	上級語彙コース	B2	ハイブリッド	一般	5	○	○	○	○			
	初級授業体験コースウクライナ向け（初級）	A1	オンライン	一般	3	○	○	○	○	○		
	初級授業体験コース（初中級）	A2	オンライン	就職	10	○	○	○	○	○		
	入国前準備コーススリランカ向け（入門2）	A1	オンデマンド	進学	3	○	○	○	○	○		
	アカデミックライティングコース	B2	オンライン	進学	10	○	○	○	○	○		
	初級授業体験コース中国向け（入門）	A2	オンライン	進学	11	○	○	○	○	○		
	初級授業体験コース中国向け（初級）	A2	オンライン	進学	6	○	○	○	○	○		
	動画で学ぶ日本語会話最新スポット紹介「東京・箱根」	C	オンライン	進学	1	○	○	○	○	○	○	
	美術大学院作品制作コース	B2	オンライン	進学	12	○	○	○	○			○
	大学院進学準備コース	C	オンライン	進学	7	○	○	○	○	○		
	就職活動準備コース	C	ハイブリッド	就職	5	○	○	○	○			
	入国前準備コース 中国向け(初級)	A1	オンライン	進学	4	○	○	○	○	○		
	初級授業・美術体験コース中国向け（初級）	A1	オンライン	進学	5	○	○	○	○	○		
	初級授業体験コース インドネシア向け	A2	オンライン	就職	5	○	○	○	○	○		
	初級授業体験コースウクライナ向け（入門）	A1	オンライン	一般	10	○	○	○	○	○		
	入国前準備コーススリランカ向け（入門1）	A1	オンデマンド	進学	13	○	○	○	○	○		
	大学院研究計画書コース	C	ハイブリッド	進学	7	○	○	○	○	○		
	初級授業体験コース ロシア中心向け	A2	オンライン	進学	4	○	○	○	○	○		
	JLPTN2直前対策	B2	ハイブリッド	一般	7	○	○	○	○			○
	JLPTN3直前対策	B1	ハイブリッド	一般	10	○	○	○	○			○
	N4 JLPT直前対策	A2	ハイブリッド	一般	3	○	○	○	○			○
	JLPTN5直前対策	A1	ハイフレックス	一般	6	○	○	○	○			○
	JLPTN1直前対策	B2	ハイブリッド	一般	10	○	○	○	○			○
	日本文化紹介	B1	オンライン	進学	1	○	○	○	○		○	
	入国前EJU記述対策コース	B2	オンライン	進学	5	○	○	○	○	○		
	初級会話コース入国前学生向け	A1	ハイブリッド	進学	2	○	○	○	○			
	初級授業体験コース 入国前学生向け	A2	オンライン	進学	13	○	○	○	○	○		
	入国前準備コーススリランカ向け入門4	A1	オンデマンド	進学	3	○	○	○	○	○		
	発音基礎	B2	オンライン	進学	7	○	○	○	○			
	初級授業体験コースロシア向け（初級）	A1	オンライン	就職	3	○	○	○	○	○		
	初級授業体験コース ロシア向け（入門）	A1	オンライン	就職	4	○	○	○	○	○		
	アカデミックジャパニーズ聴解コース2	B2	ハイブリッド	進学	2	○	○	○	○		○	
	ビジネスコース	C	オンライン	就職	6	○	○	○	○		○	
	ビジネス日本語コース	C	ハイブリッド	就職	11	○	○	○	○		○	
	初級会話コース中国向け(初級)	A1	オンライン	進学	5	○	○	○	○			
	初級会話コース中国向け(初中級)	A2	オンライン	進学	5	○	○	○	○			
	東京・神奈川の名所を日本語で廻ろう	B2	オンライン	一般	17	○	○	○	○		○	
	入学前準備コーススリランカ向け入門3	A1	オンデマンド	進学	6	○	○	○	○	○		
	動画で学ぶ日本語 大阪・京都	C	オンライン	進学	11	○	○	○	○	○	○	

2-4.（公募事業）日本語教育機関が実施したオンライン教育の実証事業 ②実施校及び事業一覧

学校名	コース名	レベル	スタイル	目的	学習者数	言語活動						
						①話す (やりとり)	②話す (発表)	③聞く	④読む	⑤書く	⑥「日本事情・ 日本理解」目標	⑦その他
⑩ファーストスタディ日本語学校大阪 本校	ハイブリッド一般A1コース	A1	ハイブリッド	一般	10	○	○	○	○	○	○	○
	オンデマンド一般A2	A2	オンデマンド	一般	8	○	○	○	○	○	○	○
	オンデマンド一般A1コース	A1	オンデマンド	一般	12	○	○	○	○	○	○	○
	ハイブリッド一般A2コース	A2	ハイブリッド	一般	8	○	○	○	○	○	○	○
	オンデマンド一般B1コース	B1	オンデマンド	一般	10	○	○	○	○	○	○	○
	オンライン一般B1コース	B1	オンライン	一般	5	○	○	○	○	○	○	○
	オンデマンド一般B2コース	B2	オンデマンド	一般	6	○	○	○	○	○	○	○
	オンライン一般B2コース	B2	オンライン	一般	20	○	○	○	○	○	○	○
⑪神戸外語教育学院	進学準備コース	A1	オンライン	進学	9	○	○	○	○	○		
	進学準備コース	A2	オンライン	進学	13	○	○	○	○	○	○	
⑫神戸YMCA学院専門学校日本 語学科	夏期集中コース（初級Ⅰ）	A1	ハイブリッド	一般	11	○	○	○	○	○		
	夏期集中コース（初級Ⅱ）	A2	ハイブリッド	一般	10	○	○	○	○	○		
	夏期集中コース（観光）	A2	ハイブリッド	一般	10	○	○	○	○	○	○	
	日本語能力試験N1対策クラス	B2	オンライン	一般	3	○	○	○	○	○		
	日本語能力試験N2対策クラス	B1	オンライン	一般	10	○	○	○	○	○		
	日本語能力試験N3対策クラス	A2	ハイブリッド	一般	10	○	○	○	○	○		
	オンライン初級クラス	A1	オンライン	一般	6	○	○	○	○	○		
⑬東京王子外国語学院	進学準備コース	B2	オンライン	進学	6	○	○	○	○	○	○	
	進学準備コース	C	オンライン	進学	7	○	○	○	○	○	○	
	進学準備コース	B1	オンライン	進学	20	○	○	○	○	○		
	日本語入門コース	A1	オンデマンド	一般	2	○	○	○	○	○		
⑭仙台ランゲージスクール	中国一般コース	B1	オンライン	一般	5	○	○	○	○		○	
	ネパール一般コース	A1	オンライン	一般	4	○	○	○	○	○		
	ベトナム一般コース	A2	オンライン	一般	3	○	○	○	○			
	中国進学コース	B1	オンライン	進学	5	○	○	○	○		○	
	ネパール進学コース	A1	オンライン	進学	3	○	○	○	○	○		
	中国一般コース	B1	オンライン	一般	6	○	○	○	○		○	
	ネパール一般コース(2回目)	A1	オンライン	一般	5	○	○	○	○	○		
	ベトナム進学コース	A2	オンライン	進学	6	○	○	○	○			
	オンデマンド一般コース(A1)	A1	オンデマンド	一般	4	○	○	○	○			○
	オンデマンド一般コース(B1)	B1	オンデマンド	一般	5	○	○	○	○			○
	ベトナム一般コース②	A2	オンライン	一般	2	○	○	○	○			
	オンデマンド一般コース(A2)	A2	オンデマンド	一般	5	○	○	○	○			○

2-4（公募事業）日本語教育機関が実施したオンライン教育の実証事業 ②実施校及び事業一覧

学校名	コース名	レベル	スタイル	目的	学習者数	言語活動						
						①話す (やりとり)	②話す (発表)	③聞く	④読む	⑤書く	⑥「日本事情・ 日本理解」目標	⑦その他
⑮新日本学院	来日準備コース	A1	オンライン	就職	2	○	○	○	○	○	○	○
	介護特定技能対策	B1	オンライン	就職	1	○	○	○	○	○	○	○
	日本で働こう	A2	オンデマンド	就職	2	○	○	○	○	○	○	○
	JLPT N2対策	B1	オンライン	進学	1	○	○	○	○	○		
	自信を持って話せるようになろう	B1	オンライン	一般	1	○	○	○	○	○	○	○
	今の日本語をさらにブラッシュアップ	C	オンライン	一般	1	○	○	○	○	○	○	○
	初級の日本語	A1	オンライン	進学	2	○	○	○	○	○		
	JLPT N1対策	B2	オンライン	就職	1	○	○	○	○	○		
	会話（初中級）	A2	オンライン	一般	2	○	○	○	○	○	○	○
	日本の看護師になるために	A2	オンライン	就職	5	○	○	○	○	○	○	○
⑯東京日本語学院	初級文法の整理	A2	オンライン	進学	6	○	○	○	○	○		
	オンデマンド進学A1コース	A1	オンデマンド	進学	8	○	○	○	○	○	○	
⑰行知学園日本語学校	オンライン進学A1コース	A1	オンライン	進学	10	○	○	○	○	○	○	
	進学準備コース	A1	オンライン	進学	10	○	○	○	○			
⑱行知学園第二附属日本語学校	進学準備コース	A1	オンライン	進学	7	○	○	○	○		○	
⑲市川日本語学院	ひらがな・カタカナ②（10月）	A1	オンライン	一般	34	○	○	○	○	○	○	
	ひらがな・カタカナ①（9月）	A1	ハイブリッド	一般	13	○	○	○	○	○	○	
	N 5 文法①（10月）	A2	オンライン	一般	4	○	○	○	○			
	N 5 文法②（11月）	A2	オンライン	一般	6	○	○	○	○			
	中級会話	B1	オンライン	一般	5	○	○	○	○		○	
	N5文法③（12月）	A2	オンライン	一般	16	○	○	○	○			
⑳日本語学校 活学書院	進学準備初級J1【第1期】	A1	オンライン	進学	20	○	○	○	○	○		
	進学準備初級J2【第1期】	A1	ハイブリッド	進学	20	○	○	○	○	○		
	進学準備初級J3【第1期】	A2	ハイブリッド	進学	10	○	○	○	○	○		
	進学準備初級 J4	A2	ハイブリッド	進学	14	○	○	○	○	○		
	進学準備初級 J5	A1	ハイブリッド	進学	14	○	○	○	○	○		
	進学準備初級 J6	A1	オンライン	進学	7	○	○	○	○	○		
㉑アジアインターナショナル	ハイブリッド進学A1コース	A1	ハイブリッド	進学	9	○	○	○	○	○		
	ハイブリッド進学A2コース	A2	ハイブリッド	進学	10	○	○	○	○	○		
	ハイブリッド進学A1コース	A1	ハイブリッド	進学	6	○	○	○	○	○		
	ハイブリッド進学A2コース	A2	ハイブリッド	進学	8	○	○	○	○	○		
㉒早稲田進学館中野校	遊べる学べる日本（初級）	A2	オンライン	一般	6	○	○	○	○		○	
	遊べる学べる日本（中級）	B1	オンライン	一般	4	○	○	○	○		○	
	みんなの日本語 オンデマンドA 1 コース	A1	オンデマンド	進学	5	○	○	○	○	○	○	
	会話練習 ハイフレックス A 1 コース	A1	ハイフレックス	一般	5	○	○	○	○	○		
	上級聴解オンラインB2コース	B2	オンライン	進学	7	○	○	○	○	○	○	
	進学準備 ハイブリッドA2コース	A2	ハイブリッド	進学	5	○	○	○	○	○		
㉓河原電子ビジネス専門	進学準備A1オンライン漢字圏コース	A1	オンライン	進学	5	○	○	○	○	○		
	進学準備A1オンデマンド漢字圏コース	A1	オンデマンド	進学	3	○	○	○	○	○		
	進学準備A1オンライン非漢字圏コース	A1	オンライン	進学	3	○	○	○	○	○		
	進学準備A1オンデマンド非漢字圏コース	A1	オンデマンド	進学	21	○	○	○	○	○		
	進学準備A2ハイブリッド漢字圏コース	A2	ハイブリッド	進学	21	○	○	○	○	○		
	進学準備A2ハイブリッド非漢字圏コース	A2	ハイブリッド	進学	1	○	○	○	○	○		

2-4.（公募事業）日本語教育機関が実施したオンライン教育の実証事業 ②実施校及び事業一覧

学校名	コース名	レベル	スタイル	目的	学習者数	言語活動						
						①話す (やりとり)	②話す (発表)	③聞く	④読む	⑤書く	⑥「日本事情・ 日本理解」目標	⑦その他
②④ITカレッジ沖縄	就職コース	B2	オンライン	就職	4	○	○	○	○		○	
	進学Bコース	A2	オンライン	進学	8	○	○	○	○	○		○
	一般コース	A1	ハイブリッド	一般	1	○	○	○	○	○		
	進学Aコース	A1	オンライン	進学	9	○	○	○	○	○		
②⑤あさひ日本語学校	進学2年コースの入国前研修	A1	オンライン	進学	3	○	○	○	○	○		
	進学1年半コースの入国前研修	A2	オンライン	進学	37	○	○	○	○	○		
②⑥学校法人 弘堂国際学園	進学準備コース（雲）	A2	ハイブリッド	進学	31	○	○	○	○	○		○
	進学準備コース（海）	A1	ハイブリッド	進学	30	○	○	○	○	○		○
	進学準備コース（風）	A1	ハイブリッド	進学	1	○	○	○	○	○		○
	介護の日本語	B1	オンライン	就職	3	○	○	○	○	○	○	○
②⑦明晴国際語学校	入国前準備コース	A2	オンライン	進学	1	○	○	○	○	○		
	働きたい人の日本語	A2	オンライン	就職	1	○	○	○	○	○	○	○
	JLPT N1聴解	B2	オンライン	就職	1	○	○	○	○	○		
	初級から学ぶ日本語	A1	オンライン	進学	1	○	○	○	○	○		
	日本事情と会話を学ぼう	C	オンライン	一般	1	○	○	○	○	○	○	○
	ビジネスマナー	C	オンライン	就職	1	○	○	○	○	○	○	○
	1対1会話コース	B1	オンライン	一般	1	○	○	○	○	○	○	○
	JLPT N2聴解	B1	オンライン	進学	4	○	○	○	○	○		
	会話【初中級】	A2	オンライン	一般	1	○	○	○	○	○	○	○
	会話【中級】	B2	オンライン	一般	1	○	○	○	○	○	○	○
②⑧東京コスモ学園	入学準備コースA	A1	オンライン	進学	1	○	○	○	○	○		
	入学準備コースB	A1	オンライン	進学	1	○	○	○	○	○		
	入学準備コースC	A1	オンライン	進学	1	○	○	○	○	○		
	入学準備コースD	A1	オンライン	進学	1	○	○	○	○	○		
	入学準備コースE	A1	オンライン	進学	10	○	○	○	○	○		
②⑨城東日本語学校	進学準備コース	A1	ハイブリッド	進学	2	○	○	○	○	○	○	
③⑩東京国際知識学院	入国前準備Aコース	A1	オンライン	進学	2	○	○	○	○	○		
	入国前準備Bコース	A1	オンライン	進学	20	○	○	○	○	○		
③⑪東大阪みらい日本語学校	進学準備（グループ）コース	A1	オンライン	進学	1	○	○	○	○		○	
	進学準備（プライベートA）コース	A1	オンライン	進学	1	○	○	○	○		○	
	進学準備（プライベートB）コース	A1	オンライン	進学	1	○	○	○	○		○	
③⑫新東方日本語学校東京本校	就職基礎コース A	B1	オンライン	就職	1	○	○		○	○	○	
	進学学生コース A	A1	オンライン	進学	1	○	○	○	○	○		
	就職基礎コース B	B2	オンライン	一般	1	○	○	○	○	○	○	
	進学学生コース B	A2	オンライン	進学	3	○	○	○	○	○		
③⑬新亜国際語言学院	進学準備コース	B1	オンライン	進学		○	○	○	○			

2-4. (公募事業) 日本語教育機関が実施したオンライン教育の実証事業 ③効果検証 (アンケート調査の実施)

本事業の効果検証のため、①学習者 ②担当教師 ③学校の3者を対象にアンケート調査を実施した。

コースごとに報告・評価

① 各コースの学習者への アンケート

- ・各コース終了時点で**学習者**にアンケートを実施
- ・オンライン実証授業についての評価をしてもらう

② 各コースの実施内容の 報告・評価

- ・各コース終了時点で**日本語教師**から実施内容を報告
※担当教師が複数名いる場合が想定されるため、意見を集約して代表者1名に回答していただく。
- ・同時に、オンライン実証授業についても評価

最終の報告・評価

③ 全体実施内容の 報告・評価

- ・全てのコース（実証事業）が終了した時点で、**日本語教育機関責任者**が全体での実施内容の報告を行う
- ・同時に、事業についても評価

全参加校の報告・評価をとりまとめ
オンライン実証授業についての分析を行う

全参加校からの報告をとりまとめ
事業全体（全校）の報告

1. 学習者へのアンケート ① アンケート票

* Q20.

オンライン日本語教育プログラムを受けて日本留学の動機が高まりましたか。

Did the online Japanese language education program increase your motivation to study in Japan?

在听讲完网上日语教育课程后, 您的日本留学动机是否有所提高?

- ☐ 高まった
increased
提高了
- ☐ 少し高まった
slightly increased
略有提高
- ☐ 変わらない
No change
没变化
- ☐ 高まらなかった
Didn't increase
没提高

* Q21.

オンライン日本語教育プログラムを受けて日本語能力は向上しましたか。
言語活動別にお答えください。

※受講したコース内容に「書く」がない場合は、「分からない」を選んでください。

Did your Japanese ability improve after taking part in the online Japanese language education program?

Please answer by language activity.

*If there was no "writing" in the course you took, select "I don't know".

在听讲完网上日语教育课程后, 您的日语能力是否有所提高?

请针对各语言活动回答。

※如果您听讲的课程中没有“写作”, 请选择“不知道”。



	向上した Improved 提高了	やや向上した Slightly improved 略有提高	変わらない No change 没变化	分からない I don't know 不知道
話す(やりとり) speaking (interaction) 口語(交流)	☐	☐	☐	☐
話す(発表) speaking (presentation) 口語(表达)	☐	☐	☐	☐
聞く listening 听力	☐	☐	☐	☐
読む reading 阅读	☐	☐	☐	☐
書く writing 写作	☐	☐	☐	☐

* Q21.

継続してオンライン日本語教育プログラムを受講してみたいですか。

Would you like to continue taking the online Japanese language education program?

您想继续听讲网上日语教育课程吗?

- ☐ ぜひ続けたい
I definitely want to continue
非常想
- ☐ 続けてみたい
I would like to continue
有点想
- ☐ 続けたくない
I don't want to continue
不想
- ☐ 対面のほうがいい
Face-to-face is better
更想面对面听课

* Q22.

継続して日本語を勉強したいと思いますか。

Do you want to continue studying Japanese?

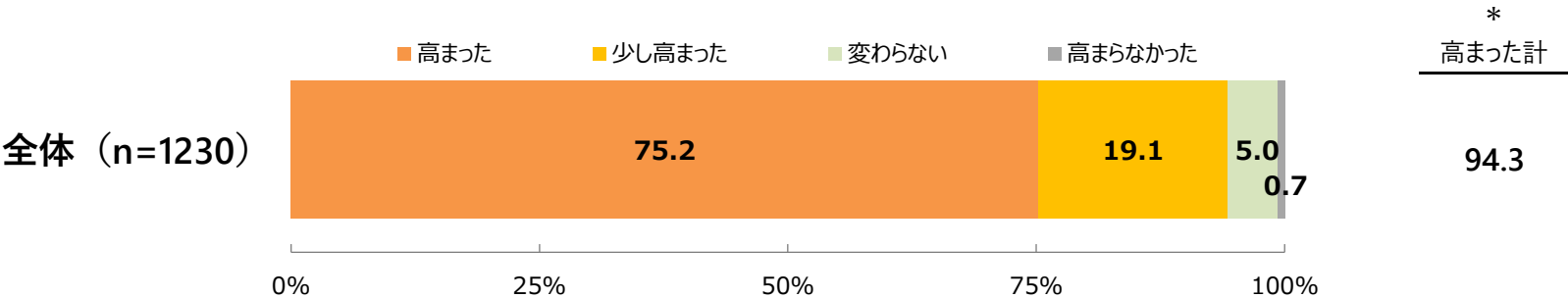
您想继续学习日语吗?

- ☐ ぜひ続けたい
I definitely want to continue
非常想
- ☐ 続けると思う
I think I will continue
应该能继续
- ☐ 続けたくない
I don't want to continue
不想
- ☐ 分からない
I don't know
不知道

1. 学習者へのアンケート ② アンケート結果 1

オンライン日本語教育プログラムを受けて日本留学の動機が高まったか。

- オンライン日本語教育プログラムを受けて、日本留学の動機が「高まった」と回答したのは75.2%で、全体の3/4。「高まった計」(高まった+少し高まった)は94.3%。
 - ・レベルではA1で「高まった」が高く、B2、Cで「変わらない」が全体と比較して高い。
 - ・スタイルではオンデマンド、ハイフレックスで「高まった」が全体と比較して高い。
 - ・目的では就職で「高まった」が全体と比較して高く、90%を超える。



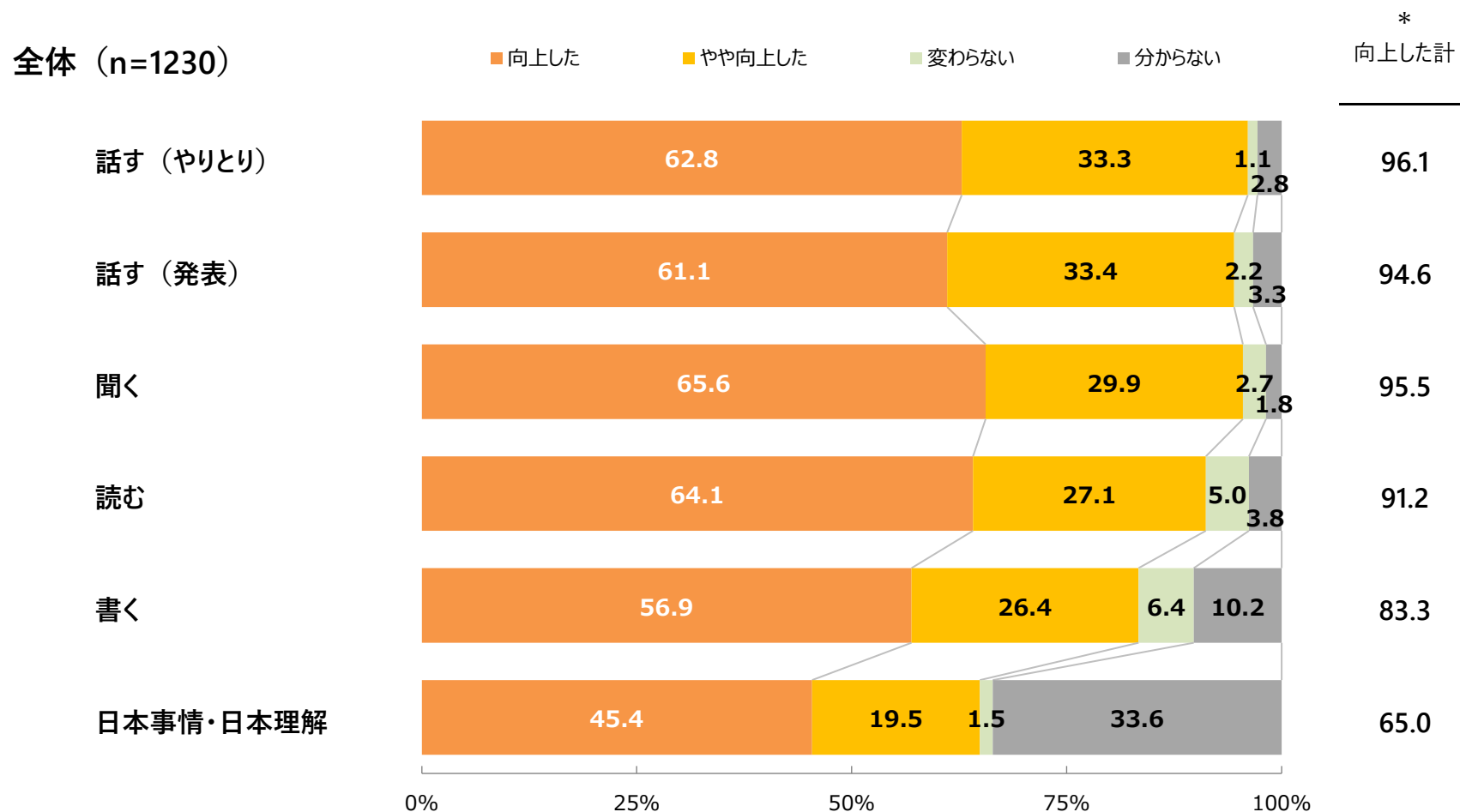
		n	高まった	少し高まった	変わらない	高まらなかった	* 高まった計
全 体		1230	75.2	19.1	5.0	0.7	94.3
レベル	A1	578	80.6	15.6	3.3	0.5	96.2
	A2	392	74.5	23.0	1.5	1.0	97.4
	B1	117	69.2	21.4	8.5	0.9	90.6
	B2	77	62.3	19.5	18.2	-	81.8
	C	66	57.6	22.7	18.2	1.5	80.3
スタイル	オンラインのみ	567	71.8	20.6	7.2	0.4	92.4
	ハイブリッド計	477	74.8	19.9	4.0	1.3	94.8
	ハイブリッド (教室で参加)	254	71.3	24.8	3.1	0.8	96.1
	ハイブリッド (オンラインで参加)	223	78.9	14.3	4.9	1.8	93.3
	オンデマンド	154	87.7	12.3	-	-	100.0
	ハイフレックス計	32	81.3	12.5	3.1	3.1	93.8
	ハイフレックス (教室で参加)	26	80.8	11.5	3.8	3.8	92.3
	ハイフレックス (オンラインで参加)	6	83.3	16.7	-	-	100.0
目的	進学	821	73.2	21.6	4.4	0.9	94.8
	就職	151	91.4	6.6	2.0	-	98.0
	一般	258	72.1	18.6	8.5	0.8	90.7

n=30以上について、全体より +10ポイント、+5ポイント、-5ポイント、-10ポイント

1. 学習者へのアンケート ② アンケート結果 2

オンライン日本語教育プログラムを受けて日本語能力が向上したか。

- オンライン日本語教育プログラムを受けて日本語能力が「向上した」と回答したのは、【話す（やりとり）】【話す（発表）】【聞く】【読む】がそれぞれ60%を超え、「やや向上した」を加えた「向上した計」では90%を超える。
【書く】（56.9%）【日本事情・日本理解】（45.4%）は「向上した」は60%には満たなかった。（「知らない」には「受講していない」方も含まれることに留意）



1. 学習者へのアンケート ② アンケート結果 2

オンライン日本語教育プログラムを受けて日本語能力が向上したか。

- 【話す（やりとり）】スタイルでは、「向上した」をみると、オンデマンドが全体と比較して高い、レベルではCで低い。
 - 【話す（発表）】話す（やりとり）と同様の傾向がみられる。
- 以下、データは次ページ参照
- 【聞く】目的では就職で「向上した」が全体と比較して高い。
 - 【読む】レベルではB2、Cで、「向上した計」が全体と比較して低い。スタイルでは、オンデマンドとハイフレックス計で「向上した」が全体より高めとなっている。
 - 【書く】レベルではB2、Cで「向上した計」が低い。スタイルでは、ハイブリッド、オンデマンドで「向上した」が全体より高い。
 - 【日本事情・日本理解】レベルではB1、B2、Cで「向上した」、「やや向上した」を加えた「向上した計」で全体より高い。スタイルでは、オンラインのみが「向上した計」が全体と比較して高く、逆に、ハイブリッド計、オンデマンドで低くなっている。
 - 全ての言語活動において、就職目的で「向上した」が全体と比較して高い。

n	向上した	やや向上した	変わらない	分からない	* 向上した計
---	------	--------	-------	-------	------------

【話す（やりとり）】

全 体		1230	62.8	33.3	1.1	2.8	96.1
レベル	A1	578	67.3	28.9	0.9	2.9	96.2
	A2	392	59.9	38.0	0.8	1.3	98.0
	B1	117	63.2	34.2	-	2.6	97.4
	B2	77	53.2	40.3	3.9	2.6	93.5
	C	66	51.5	33.3	3.0	12.1	84.8
スタイル	オンラインのみ	567	57.5	37.9	1.2	3.4	95.4
	ハイブリッド計	477	65.2	30.4	1.3	3.1	95.6
	ハイブリッド（教室で参加）	254	65.7	33.5	0.4	0.4	99.2
	ハイブリッド（オンラインで参加）	223	64.6	26.9	2.2	6.3	91.5
	オンデマンド	154	76.0	24.0	-	-	100.0
	ハイフレックス計	32	59.4	37.5	-	3.1	96.9
	ハイフレックス（教室で参加）	26	57.7	42.3	-	-	100.0
	ハイフレックス（オンラインで参加）	6	66.7	16.7	-	16.7	83.3
目的	進学	821	59.1	36.9	0.9	3.2	96.0
	就職	151	82.1	15.9	0.7	1.3	98.0
	一般	258	63.6	31.8	1.9	2.7	95.3

n	向上した	やや向上した	変わらない	分からない	* 向上した計
---	------	--------	-------	-------	------------

【話す（発表）】

全 体		1230	61.1	33.4	2.2	3.3	94.6
レベル	A1	578	61.6	32.4	1.4	4.7	93.9
	A2	392	62.8	33.9	1.3	2.0	96.7
	B1	117	64.1	33.3	1.7	0.9	97.4
	B2	77	53.2	39.0	7.8	-	92.2
	C	66	51.5	33.3	9.1	6.1	84.8
スタイル	オンラインのみ	567	58.2	35.3	3.0	3.5	93.5
	ハイブリッド計	477	62.3	32.9	2.1	2.7	95.2
	ハイブリッド（教室で参加）	254	61.4	37.4	0.4	0.8	98.8
	ハイブリッド（オンラインで参加）	223	63.2	27.8	4.0	4.9	91.0
	オンデマンド	154	68.8	27.3	-	3.9	96.1
	ハイフレックス計	32	59.4	37.5	-	3.1	96.9
	ハイフレックス（教室で参加）	26	57.7	42.3	-	-	100.0
	ハイフレックス（オンラインで参加）	6	66.7	16.7	-	16.7	83.3
目的	進学	821	60.0	35.3	1.7	2.9	95.4
	就職	151	79.5	17.2	2.0	1.3	96.7
	一般	258	53.9	36.8	3.9	5.4	90.7

n=30以上について、全体より +10ポイント、+5ポイント、-5ポイント、-10ポイント

2-4. (公募事業) 日本語教育機関が実施したオンライン教育の実証事業 ③効果検証 (アンケート調査の実施)

1. 学習者へのアンケート ② アンケート結果 2

オンライン日本語教育プログラムを受けて日本語能力が向上したか。

n	向上した	やや向上した	変わらない	分からない	* 向上した計
---	------	--------	-------	-------	------------

【聞く】

全 体		1230	65.6	29.9	2.7	1.8	95.5
レベル	A1	578	64.9	30.8	2.8	1.6	95.7
	A2	392	66.8	29.1	1.5	2.6	95.9
	B1	117	68.4	29.1	2.6	-	97.4
	B2	77	63.6	28.6	7.8	-	92.2
	C	66	62.1	30.3	3.0	4.5	92.4
スタイル	オンラインのみ	567	62.8	31.6	3.0	2.6	94.4
	ハイブリッド計	477	68.1	27.9	2.5	1.5	96.0
	ハイブリッド (教室で参加)	254	66.9	30.3	2.0	0.8	97.2
	ハイブリッド (オンラインで参加)	223	69.5	25.1	3.1	2.2	94.6
	オンデマンド	154	68.2	29.2	2.6	-	97.4
	ハイフレックス計	32	65.6	34.4	-	-	100.0
	ハイフレックス (教室で参加)	26	65.4	34.6	-	-	100.0
	ハイフレックス (オンラインで参加)	6	66.7	33.3	-	-	100.0
目的	進学	821	63.3	32.4	2.2	2.1	95.7
	就職	151	82.8	15.2	1.3	0.7	98.0
	一般	258	62.8	30.6	5.0	1.6	93.4

【書く】

全 体		1230	56.9	26.4	6.4	10.2	83.3
レベル	A1	578	60.6	23.0	6.2	10.2	83.6
	A2	392	60.7	26.0	5.6	7.7	86.7
	B1	117	52.1	33.3	6.8	7.7	85.5
	B2	77	23.4	48.1	9.1	19.5	71.4
	C	66	50.0	21.2	9.1	19.7	71.2
スタイル	オンラインのみ	567	46.2	30.5	8.1	15.2	76.7
	ハイブリッド計	477	65.8	22.2	4.8	7.1	88.1
	ハイブリッド (教室で参加)	254	68.1	24.8	3.1	3.9	92.9
	ハイブリッド (オンラインで参加)	223	63.2	19.3	6.7	10.8	82.5
	オンデマンド	154	70.1	24.0	3.2	2.6	94.2
	ハイフレックス計	32	50.0	28.1	15.6	6.3	78.1
	ハイフレックス (教室で参加)	26	42.3	30.8	19.2	7.7	73.1
	ハイフレックス (オンラインで参加)	6	83.3	16.7	-	-	100.0
目的	進学	821	56.8	26.4	6.5	10.4	83.2
	就職	151	72.8	13.9	5.3	7.9	86.8
	一般	258	48.1	33.7	7.0	11.2	81.8

n	向上した	やや向上した	変わらない	分からない	* 向上した計
---	------	--------	-------	-------	------------

【読む】

全 体		1230	64.1	27.1	5.0	3.8	91.2
レベル	A1	578	65.6	25.8	3.8	4.8	91.3
	A2	392	67.1	26.3	3.8	2.8	93.4
	B1	117	66.7	26.5	5.1	1.7	93.2
	B2	77	41.6	41.6	14.3	2.6	83.1
	C	66	56.1	27.3	10.6	6.1	83.3
スタイル	オンラインのみ	567	59.6	29.3	6.2	4.9	88.9
	ハイブリッド計	477	66.7	24.7	4.8	3.8	91.4
	ハイブリッド (教室で参加)	254	68.1	26.4	3.5	2.0	94.5
	ハイブリッド (オンラインで参加)	223	65.0	22.9	6.3	5.8	87.9
	オンデマンド	154	74.0	24.0	1.3	0.6	98.1
	ハイフレックス計	32	59.4	37.5	3.1	-	96.9
	ハイフレックス (教室で参加)	26	53.8	42.3	3.8	-	96.2
	ハイフレックス (オンラインで参加)	6	83.3	16.7	-	-	100.0
目的	進学	821	62.0	28.9	5.1	4.0	90.9
	就職	151	78.1	15.9	4.6	1.3	94.0
	一般	258	62.8	27.9	4.7	4.7	90.7

【日本事情・日本理解】

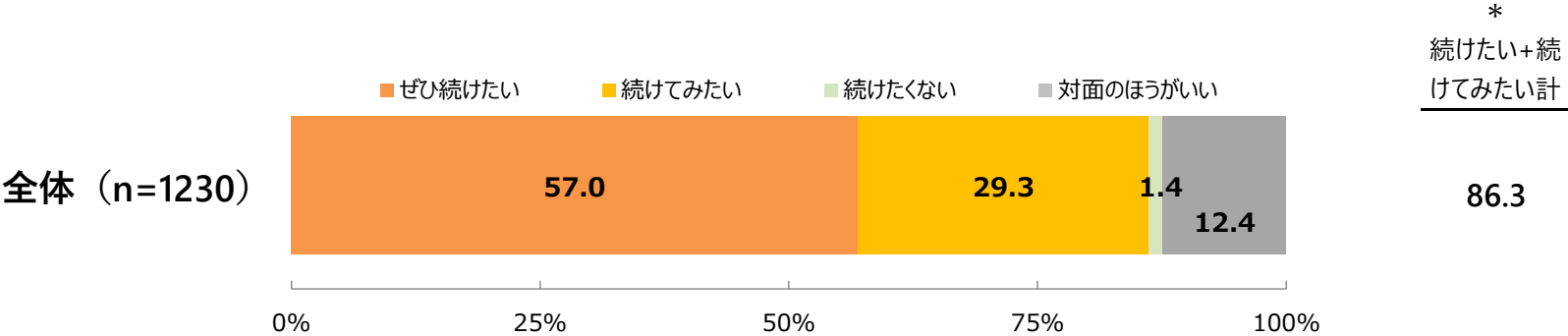
全 体		1230	45.4	19.5	1.5	33.6	65.0
レベル	A1	578	40.8	20.1	1.0	38.1	60.9
	A2	392	42.1	16.8	2.0	39.0	58.9
	B1	117	58.1	23.1	1.7	17.1	81.2
	B2	77	64.9	24.7	2.6	7.8	89.6
	C	66	60.6	18.2	-	21.2	78.8
スタイル	オンラインのみ	567	55.0	24.7	1.2	19.0	79.7
	ハイブリッド計	477	37.1	14.7	1.9	46.3	51.8
	ハイブリッド (教室で参加)	254	28.0	15.7	1.6	54.7	43.7
	ハイブリッド (オンラインで参加)	223	47.5	13.5	2.2	36.8	61.0
	オンデマンド	154	38.3	11.7	1.3	48.7	50.0
	ハイフレックス計	32	34.4	37.5	-	28.1	71.9
	ハイフレックス (教室で参加)	26	34.6	38.5	-	26.9	73.1
	ハイフレックス (オンラインで参加)	6	33.3	33.3	-	33.3	66.7
目的	進学	821	41.0	20.6	1.6	36.8	61.6
	就職	151	61.6	10.6	0.7	27.2	72.2
	一般	258	50.0	21.3	1.6	27.1	71.3

n=30以上について、全体より +10ポイント、+5ポイント、-5ポイント、-10ポイント

1. 学習者へのアンケート ② アンケート結果 3

継続してオンライン日本語教育プログラムを受講してみたいか。

- オンライン日本語教育プログラムの継続受講意向は「ぜひ続けたい」が57.0%、「続けてみたい」を加えると86.3%と90%近い。
 - ・レベルではB1で「ぜひ続けたい」が全体比較して高い。
 - ・スタイルではハイブリッド（教室で参加）が「ぜひ続けたい」が全体より低く「続けてみたい」が高い。ハイフレックス計で「対面のほうがいい」が全体より高い。
 - ・目的では就職で「ぜひ続けたい」が全体と比較して高くなっている。



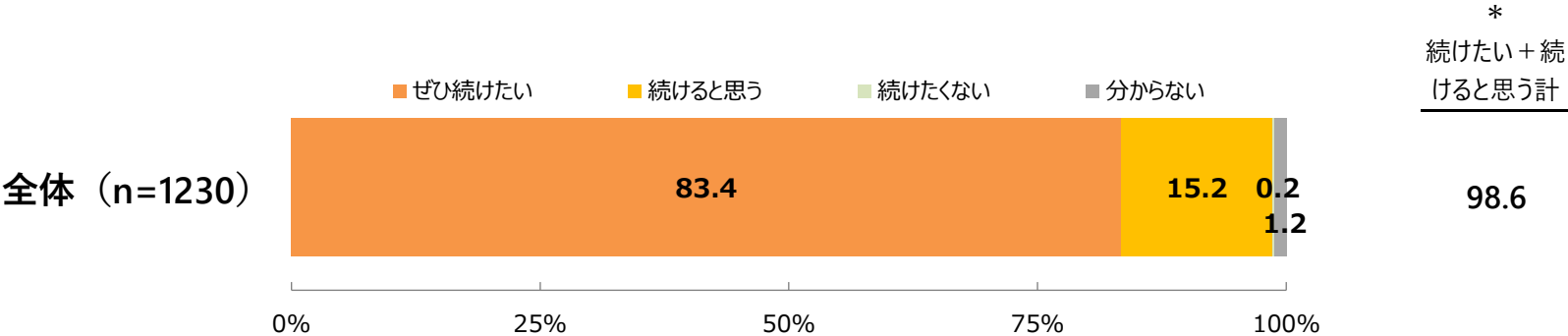
		n	ぜひ続けたい	続けてみたい	続けたくない	対面のほうがいい	* 続けたい+続けてみたい計
全 体		1230	57.0	29.3	1.4	12.4	86.3
レベル	A1	578	55.7	31.3	1.4	11.6	87.0
	A2	392	57.1	27.8	0.5	14.5	84.9
	B1	117	68.4	24.8	0.9	6.0	93.2
	B2	77	51.9	24.7	5.2	18.2	76.6
	C	66	53.0	33.3	3.0	10.6	86.4
スタイル	オンラインのみ	567	62.8	26.3	1.4	9.5	89.1
	ハイブリッド計	477	49.3	34.8	1.7	14.3	84.1
	ハイブリッド（教室で参加）	254	36.6	46.9	1.2	15.4	83.5
	ハイブリッド（オンラインで参加）	223	63.7	21.1	2.2	13.0	84.8
	オンデマンド	154	61.7	24.0	-	14.3	85.7
	ハイフレックス計	32	46.9	25.0	3.1	25.0	71.9
	ハイフレックス（教室で参加）	26	46.2	19.2	3.8	30.8	65.4
	ハイフレックス（オンラインで参加）	6	50.0	50.0	-	-	100.0
目的	進学	821	51.9	33.9	1.5	12.8	85.7
	就職	151	79.5	13.9	-	6.6	93.4
	一般	258	60.1	23.6	1.9	14.3	83.7

n=30以上について、全体より +10ポイント、+5ポイント、-5ポイント、-10ポイント

1. 学習者へのアンケート ② アンケート結果 4

継続して日本語を勉強したいと思うか。

- 継続した日本語の勉強意向は「ぜひ続けたい」が83.4%、「続けると思う」を加えると98.6%と100%近い。
 - ・レベルではCで「ぜひ続けたい」が全体比較して低い。
 - ・目的では就職で「ぜひ続けたい」が全体と比較して高くなっている。



		n	ぜひ続けたい	続けると思う	続けたくない	分からない	* 続けたい + 続けると思う計
全 体		1230	83.4	15.2	0.2	1.2	98.6
レベル	A1	578	84.4	14.2	0.2	1.2	98.6
	A2	392	83.7	15.6	-	0.8	99.2
	B1	117	86.3	13.7	-	-	100.0
	B2	77	80.5	19.5	-	-	100.0
	C	66	71.2	19.7	1.5	7.6	90.9
スタイル	オンラインのみ	567	83.6	15.9	0.2	0.4	99.5
	ハイブリッド計	477	82.2	15.5	0.2	2.1	97.7
	ハイブリッド (教室で参加)	254	80.3	17.7	-	2.0	98.0
	ハイブリッド (オンラインで参加)	223	84.3	13.0	0.4	2.2	97.3
	オンデマンド	154	85.7	13.6	-	0.6	99.4
	ハイフレックス計	32	87.5	6.3	-	6.3	93.8
	ハイフレックス (教室で参加)	26	84.6	7.7	-	7.7	92.3
	ハイフレックス (オンラインで参加)	6	100.0	-	-	-	100.0
目的	進学	821	82.2	17.1	0.1	0.6	99.3
	就職	151	93.4	5.3	-	1.3	98.7
	一般	258	81.4	15.1	0.4	3.1	96.5

n=30以上について、全体より + 10ポイント、+5ポイント、-5ポイント、-10ポイント

2. 日本語教師へのアンケート ① アンケート票

21. あなたは、本事業を通じて、日本語の教授能力・スキルは向上しましたか。(あてはまるものに☑)
「オンライン」での指導に限らず、日本語教師としての教授能力・スキルについてお答えください。

- ☐ 非常に向上した
- ☐ やや向上した
- ☐ 向上しなかった
- ☐ 分からない

22. あなたは、今後もオンラインを活用した日本語教育に取り組んでいきたいですか。(あてはまるものに☑)

- ☐ ぜひ取り組みたい
- ☐ まあ取り組みたい
- ☐ 取り組みたくない

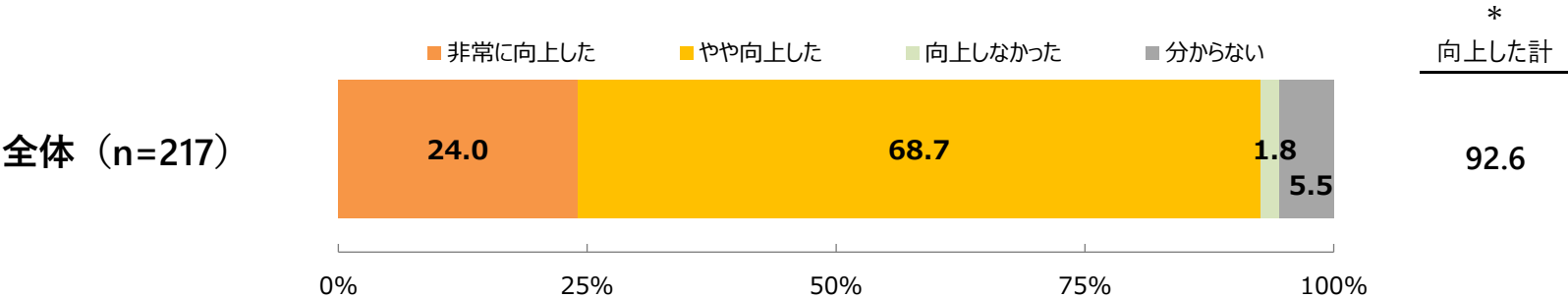
23. 日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思いますか。
(あてはまるものに☑)

- ☐ ぜひ取り組むべき
- ☐ 課題はあるが取り組むべき
- ☐ 慎重にすべき
- ☐ 必要性を感じない

2. 日本語教師へのアンケート ② アンケート結果 1

本事業を通じて、日本語の教授能力・スキルが向上したか。

- 日本語の教授能力・スキル向上度は、全体で「非常に向上した」が24.0%、「やや向上した」68.7%。
 - ・スタイルではオンラインのみ、オンデマンドで「非常に向上した」が全体と比較して高く、ハイブリッドで「やや向上した」が高い。
 - ・レベルではB1で「非常に向上した」が全体比較して高く、A1で「やや向上した」が高めとなっている。
 - ・目的では進学で「非常に向上した」が全体比較して高めとなっており、一般で「やや向上した」が高くなっている。



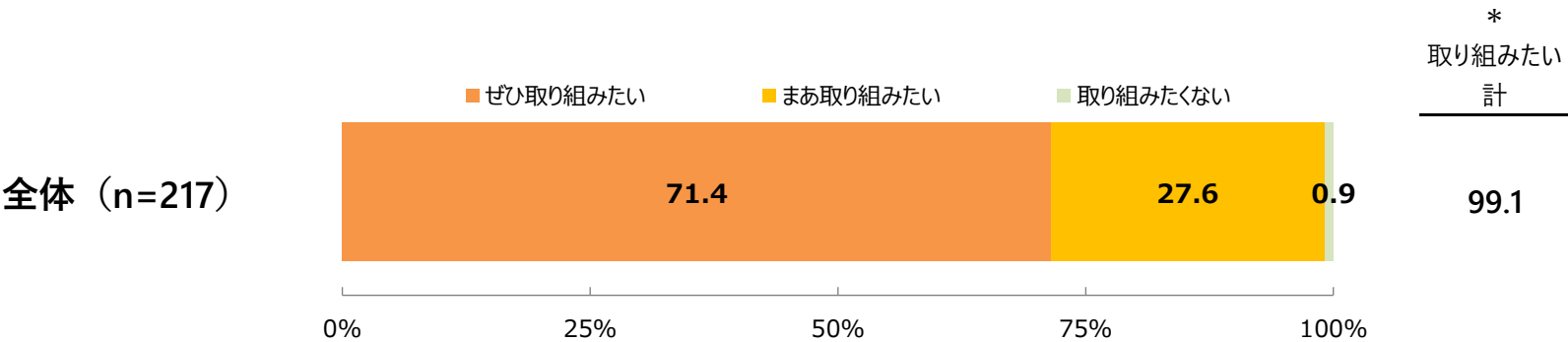
		n	非常に向上した	やや向上した	向上しなかった	分からない	* 向上した計
全 体		217	24.0	68.7	1.8	5.5	92.6
スタイル	オンラインのみ	123	29.3	61.0	1.6	8.1	90.2
	ハイブリッド	52	7.7	84.6	3.8	3.8	92.3
	オンデマンド	38	31.6	68.4	-	-	100.0
	ハイフレックス	4	-	100.0	-	-	100.0
レベル	A1	86	16.3	76.7	2.3	4.7	93.0
	A2	61	27.9	62.3	1.6	8.2	90.2
	B1	32	43.8	50.0	-	6.3	93.8
	B2	23	21.7	73.9	-	4.3	95.7
	C	15	13.3	80.0	6.7	-	93.3
目的	進学	124	29.8	62.1	0.8	7.3	91.9
	就職	24	16.7	70.8	8.3	4.2	87.5
	一般	69	15.9	79.7	1.4	2.9	95.7

n=30以上について、全体より +10ポイント、+5ポイント、-5ポイント、-10ポイント

2. 日本語教師へのアンケート ② アンケート結果 2

今後もオンライン教育に取り組んでいきたいか。

- 今後のオンライン教育の取り組み意向は、全体で「ぜひ取り組みたい」が71.4%、「まあ取り組みたい」を加えると99.1%で、100%近い。
 - ・スタイルではオンデマンドで「ぜひ取り組みたい」が全体と比較して高く、ハイブリッドで「まあ取り組みたい」が高い。
 - ・レベルではB1で「ぜひ取り組みたい」が全体比較してやや高く、A1で「まあ取り組みたい」がやや高い。
 - ・目的では一般で「ぜひ取り組みたい」が全体と比較してやや高い。



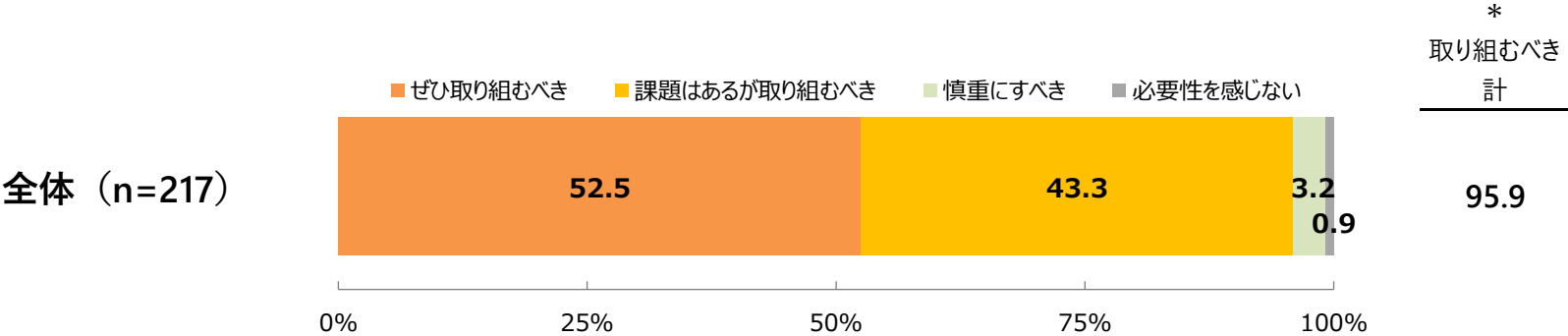
		n	ぜひ取り組みたい	まあ取り組みたい	取り組みたくない	* 取り組みたい計
全 体		217	71.4	27.6	0.9	99.1
スタイル	オンラインのみ	123	74.0	25.2	0.8	99.2
	ハイブリッド	52	59.6	38.5	1.9	98.1
	オンデマンド	38	81.6	18.4	-	100.0
	ハイフレックス	4	50.0	50.0	-	100.0
レベル	A1	86	66.3	32.6	1.2	98.8
	A2	61	68.9	29.5	1.6	98.4
	B1	32	78.1	21.9	-	100.0
	B2	23	87.0	13.0	-	100.0
	C	15	73.3	26.7	-	100.0
目的	進学	124	69.4	29.0	1.6	98.4
	就職	24	62.5	37.5	-	100.0
	一般	69	78.3	21.7	-	100.0

n=30以上について、全体より +10ポイント、+5ポイント、-5ポイント、-10ポイント

2. 日本語教師へのアンケート ② アンケート結果 3

日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語教育機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思うか。

- 日本語教育機関が渡日前の日本語教育の取り組みについて、全体で「ぜひ取り組むべき」が52.5%、「課題はあるが取り組むべき」（43.3%）を加えると、95%を超える。
 - ・スタイルではオンデマンドで「ぜひ取り組むべき」が全体と比較して高く、ハイブリッドで「課題はあるが取り組むべき」が高くなっている。



		n	ぜひ取り組むべき	課題はあるが取り組むべき	慎重にすべき	必要性を感じない	* 取り組むべき計
全 体		217	52.5	43.3	3.2	0.9	95.9
スタイル	オンラインのみ	123	53.7	42.3	2.4	1.6	95.9
	ハイブリッド	52	32.7	59.6	7.7	-	92.3
	オンデマンド	38	76.3	23.7	-	-	100.0
	ハイフレックス	4	50.0	50.0	-	-	100.0
レベル	A1	86	53.5	39.5	4.7	2.3	93.0
	A2	61	52.5	44.3	3.3	-	96.7
	B1	32	50.0	46.9	3.1	-	96.9
	B2	23	52.2	47.8	-	-	100.0
	C	15	53.3	46.7	-	-	100.0
目的	進学	124	52.4	42.7	3.2	1.6	95.2
	就職	24	41.7	50.0	8.3	-	91.7
	一般	69	56.5	42.0	1.4	-	98.6

n=30以上について、全体より +10ポイント、+5ポイント、-5ポイント、-10ポイント

3. 日本語教育機関へのアンケート ① アンケート票

* Q5. 本事業を通じて、日本語教師の教授能力・スキルが向上しましたか。

- ☐ 非常に向上した
- ☐ やや向上した
- ☐ 向上しなかった
- ☐ 分からない

* Q7. 今後もオンライン教育に取り組んでいきたいですか。

- ☐ ぜひ取り組みたい
- ☐ まあ取り組みたい
- ☐ 取り組みたくない

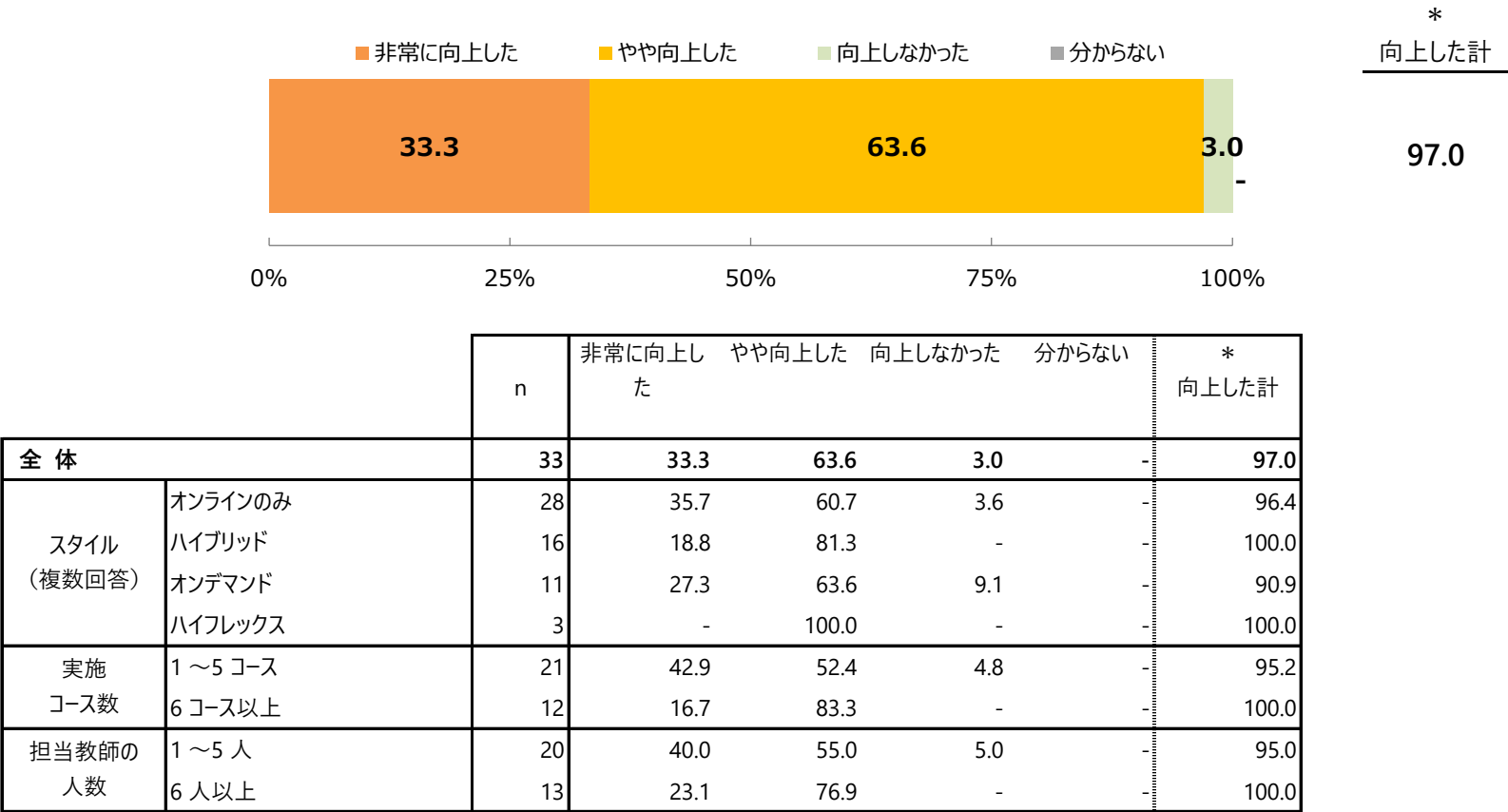
* Q8. 日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組んでいきたいと思いませんか。

- ☐ ぜひ取り組んでいきたい
- ☐ 課題はあるが取り組んでいきたい
- ☐ 取り組む予定はない

3. 日本語教育機関へのアンケート ② アンケート結果 1

本事業を通じて、日本語教師の教授能力・スキルが向上したか。

- 日本語教師の教授能力・スキルについて、全体で「非常に向上した」が33.3%、「やや向上した」（63.6%）を加えると、97%となる。
 - ・実施コース数や担当教師の人数が少ないほど、「非常に向上した」が全体と比較して高くなる。（サンプル数が少ないので留意）

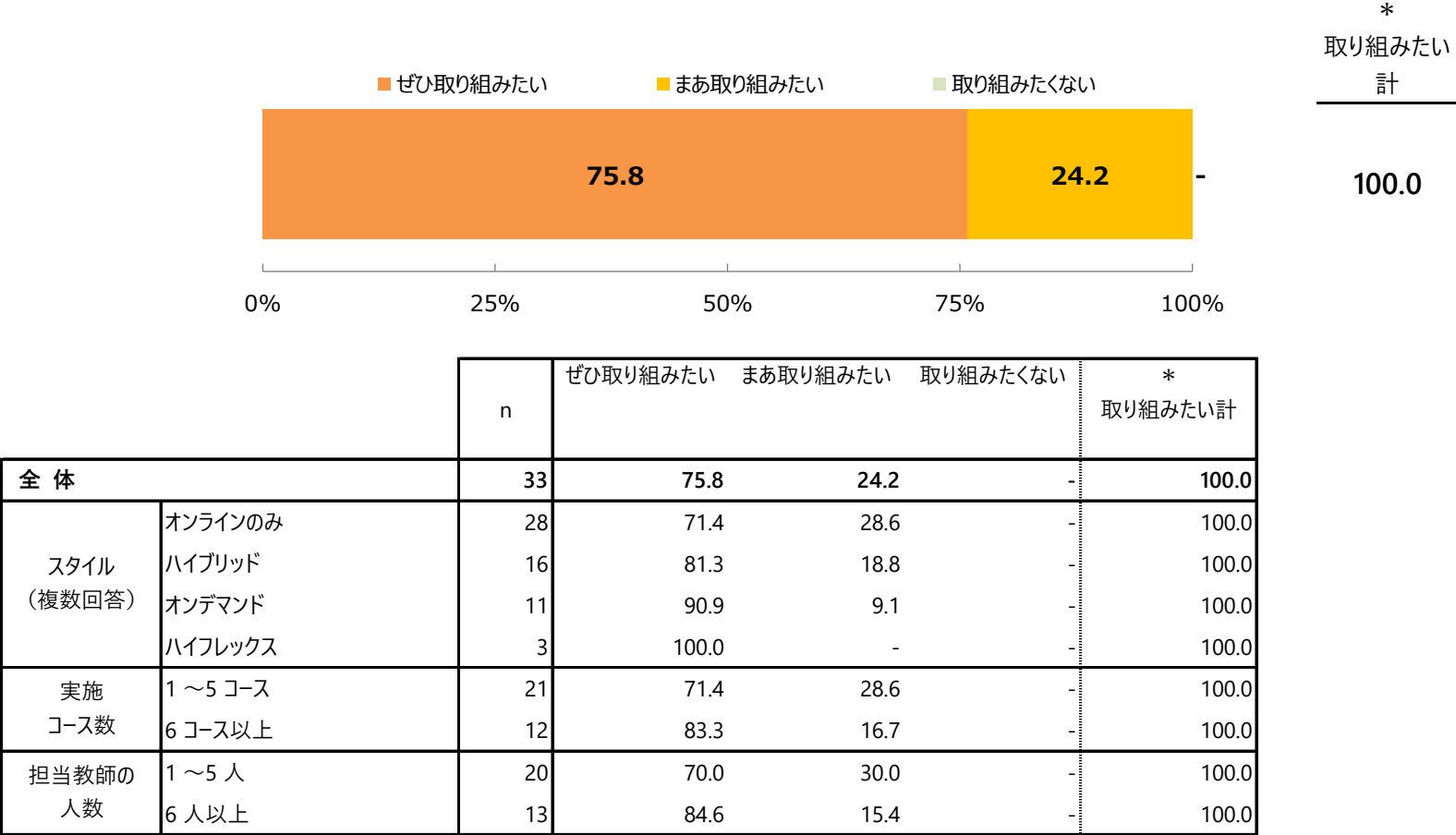


スタイル、実施コース数、担当教師の人数別はn数が少ないため、参考値とする。

3. 日本語教育機関へのアンケート ② アンケート結果 2

今後もオンライン教育に取り組んでいきたいか。

- 今後のオンライン教育への取り組み意向は、全体で「ぜひ取り組みたい」が75.8%、「まあ取り組みたい」(24.2%)を加えると、100%。
 - ・実施コース数や担当教師の人数が多いほど、「ぜひ取り組みたい」が全体と比較して高くなる。(サンプル数が少ないので留意)

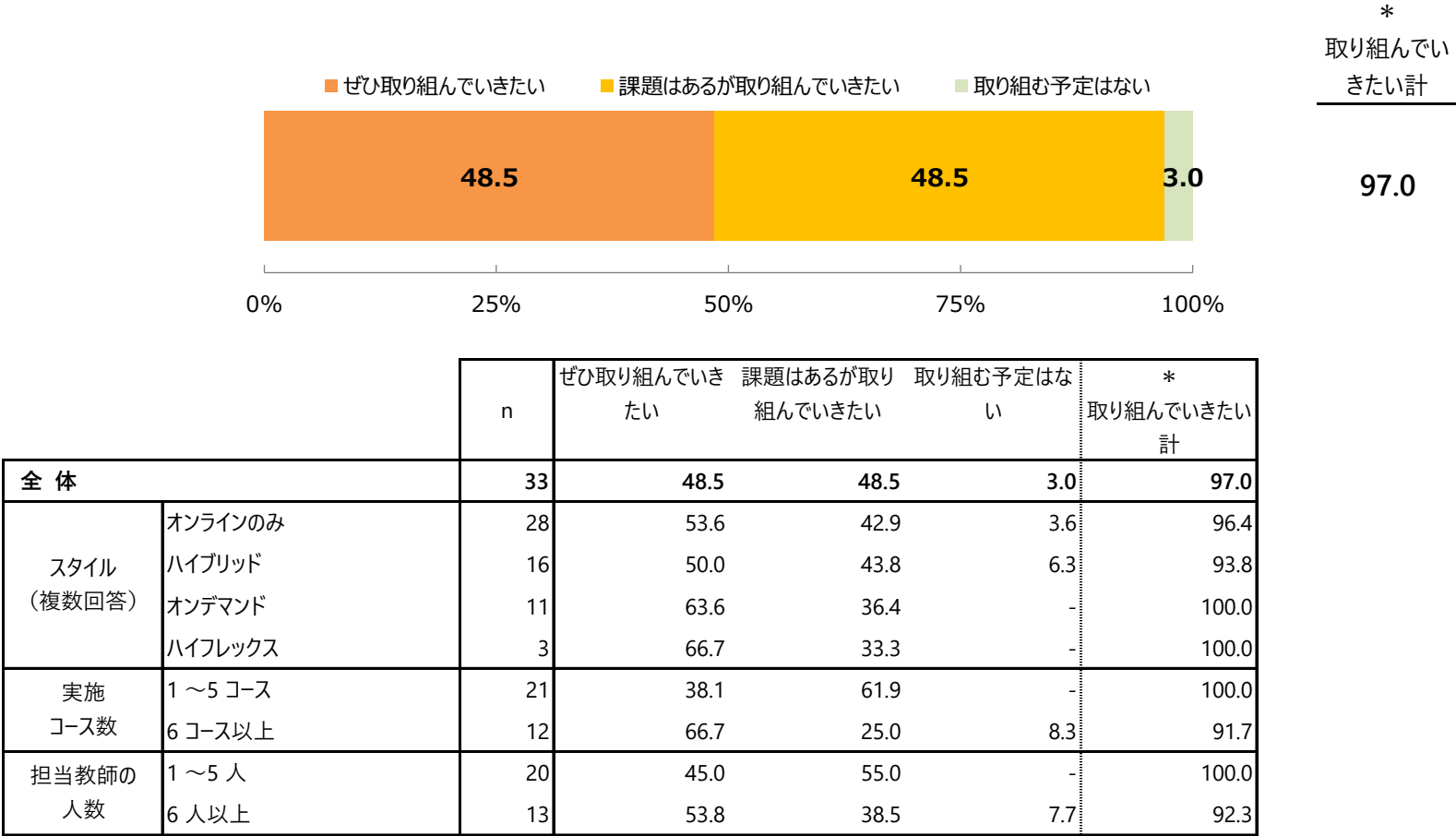


スタイル、実施コース数、担当教師の人数別はn数が少ないため、参考値とする。

3. 日本語教育機関へのアンケート ② アンケート結果 3

日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語教育機会の提供を今後積極的に取り組んでいきたいと思うか。

- 日本語教育機関の渡日前の今後の取り組み意向は、全体で「ぜひ取り組んでいきたい」が48.5%、「課題はあるが取り組んでいきたい」（48.5%）を加えると、97%となる。
 - ・実施コース数や担当教師の人数が多いほど、「ぜひ取り組んでいきたい」が全体と比較して高くなる。（サンプル数が少ないので留意）



スタイル、実施コース数、担当教師の人数別はn数が少ないため、参考値とする。

■ オンライン日本語教育プログラムは、学習者の日本留学の動機付けに有効である

- オンライン日本語教育プログラムを受けて、日本留学の動機が「高まった」「少し高まった」の高まった計は94.3%と非常に高く、来日前に日本語学習と触れる機会を作れたことは、留学検討層に対する動機付けと意思決定の後押しに繋がったと考えられる。

■ オンライン日本語教育プログラムにより、学習者の日本語能力と日本語教師の教授能力の向上に繋がった。

- オンライン日本語教育プログラムを通じ、学習者・日本語教師共に自身の日本語能力と教授能力の向上を実感されており、「非常に向上した」「向上した」の向上した計は90%以上という高い回答結果が出ている。
本事業に参画した各日本語教育機関に試行錯誤しながら多種多様なオンライン授業を計画・実施していただけたことで、両者ともに新たな学びの機会を得ることができ、能力の向上に繋がったと考えられる。

■ 学習者、日本語教師、日本語教育機関責任者と3者とも、オンライン日本語教育の普及に前向きである。

- 学習者、日本語教師、日本語教育機関責任者の3者共に総じて今後もオンラインでの日本語教育に積極的に取り組むべきという前向きな回答であった。ただ、アンケートからも学習者側と日本語教育機関側のオンライン授業に求めるもの（目的・スタイル等）の若干の相違や課題も見受けられたため、オンライン授業のメリットとデメリットを改めて整理し、双方にとって最適なオンライン授業の形を考えていくことが、オンライン日本語教育の更なる普及に繋がっていくと考える。

④課題と分析

課題	●通信状態が良くない（会話のタイムラグ） / ●コーラスが合わない						
具体的内容	■ 一番大きな問題はインターネット回線によるタイムラグだった。時間差が生まれることにより、うまくコミュニケーションできない場面があった。 ■ 動画やwebページ表示、パワーポイントなど複数の機能を使用すると教師のPCの性能によっては画面がフリーズすることがあった。学習者もそれぞれのネット環境によって音が聞こえにくかったり、フリーズしたりすることがあったが、これは仕方がない問題だと考える。 ■ 1人ずつがオンラインで参加する形でスタートしましたが、Wi-Fi環境が悪く、全員でつながると落ちてしまう、画面が止まってしまう、音が聞こえなくなるなども問題が発生。 ■ 音声などを流した際に微妙な時差が発生してしまったことです。ハイブリッドで授業で行っていましたので、コーラスの際にどうしてもズレが生じる。 ■ また、口頭ドリルでは、コーラスをした際、誰が発話していないか分かりにくかったため、一人一人を丁寧に見ることが出来なかった。						
考察 (分析)	■ インターネット環境の問題から、通信状態が良くないケースが散見されており、課題として最も多く挙げられている。 ■ 動画やWebページの表示、パワーポイントなどツールを多用し、より受講生の理解促進に役立つ授業展開を実施されようとする、インターネット回線に負荷がかかり不具合が発生している。教師の思い通りの授業ができない障壁となっていると考えられる。 ■ また、音声で教師とタイムラグ発生することも、教師・受講生にとってストレスとなっている。						
レベル	-	スタイル	-	目的	-	言語活動	-

課題	●生徒の理解度・定着度がわからない／生徒の細かい表情がわからない						
具体的内容	■ 対面授業であれば、ひとりひとりの顔が見えて、学生の反応もよくわかり、それによって、こちらの指導を変えたりすることができるが、オンラインでは表情も読み取りにくいため、難しいと感じた。 ■ 対面授業では、同じ空間にいと相手の気持ち（例えば、「あまり理解できていないのではないか」とか「今の説明に納得していないのではないか」など）が言葉以外からも感じるができるが、オンラインはそこが難しい。 ■ 一番の違いは対面していたら分かる、相手の細かい表情が「オンライン授業」では分からず、どのくらい理解できているかを把握しづらい点である。担当教師自身の今までの経験から特に初級の授業では、オンライン授業にいかに対面授業の要素を取り入れていくかがポイントだと考えるので、今回の授業でも出来るだけ画面でお互いの顔を見て話す練習ができるようにした。場面の絵も文型を書いたカードも画面に写しながら説明をしたので分かりやすかったようで、ノートにメモをしている学習者もいた。						
考察 (分析)	■ オンラインでは、受講生一人一人の表情や反応が教師にとって読み取りづらく、より受講生一人一人の理解度にあわせた指導が実践しにくい状況になっていることが窺える。 ■ オンライン授業にいかに対面授業の要素を取り入れていくかがポイントと考えられている。もしそのように授業をデザインするのであれば、①画面でお互いの顔を見て話す練習、②場面の絵や文型を書いた画面を映しての説明、などは一定の効果があると考えられる。						
レベル	-	スタイル	-	目的	-	言語活動	-

課題	●個別指導やフォロー、細かい指導がむずかしい						
具体的内容	■ 対面とオンラインの違いは、かゆいところに手がとどかない違いだと思う。今後オンライン授業が期待されるが、オンラインツールが学習者側にも完璧でない限り、かゆいところに届かない状態かと個人的に思う。日本の講師側はPC,タブレット2つ準備し、授業を進めているが、学習者側は、小さなスマホの画面で授業を受けているのがほとんど。日本の政府や教育期間が学習者側のオンライン環境を整えていくことから優先的に行ったほうがよいと思う。 ■ できない学生や理解が遅い学生がいたときに個別の指導が難しいということが大きい気がした。 ■ 対面であれば学生との距離感を物理的に縮めることができるし、礼儀やマナーなどもその場で指導できるが、オンラインだとそれに気づきにくく指導することができない。						
考察 (分析)	■ オンラインでは、受講生側のオンライン環境が小さいスマホ画面といったケースも多く、対面に比べると伝わる情報量がどうしても少なくなり、受講生一人一人に対する細かい指導が難しいことが課題となっている。						
レベル	-	スタイル	-	目的	-	言語活動	-

課題	●使用機器で学習の幅が制限される（スマホでは教材が見にくい）						
具体的内容	■ 学生のデバイス状況によって、提出物のチェックができるレベルがかわってしまうため、同じクラスを受けていても到達できるレベルが違ってしまるのが残念。また、学生自身にその差があることが分からないのも仕方ないことだと済ませずに、何か解決方法が見出せないか考えていきたい。 ■ 改善すべきことは、やはり相手の使用機器による差を、どのように縮めるかだと思う。音割れや、小さいスマホを使って授業を受ける学習者も多く、こちらがPowerPointなどで作った教材でも、見づらい場面もあった。						
考察 (分析)	■ 受講生のデバイス環境によって、提出物での指導に差が出てしまい、受講生の理解度にも差が生じてしまうケースがある。 ■ 受講生のデバイス環境による差を改善できる方策が必要だと考えられる。						
レベル	-	スタイル	-	目的	-	言語活動	-

課題	●「書く」指導がむずかしい（文字の指導がしにくい）						
具体的内容	■ 「自分でノートに書く」という作業ができない学生に対し、書くことを促したり、フォローしたりするのがむずかしい。 ■ ひらがな・カタカナの授業では学習者がどんな文字を書いているのかを見ながら指導していく必要があるが、今回のコースではオンライン参加者が30人を超えそれをする術がなく、書くことに関してはかなり一方的な授業になってしまった。オンラインでは学習者が書いたものを授業後に提出させて教師がチェックする必要がある。ひらがな・カタカナを学ぶのが初めてというレベルの学習者にはオンラインで成果を出すのはかなり難しく、オンラインだけでなくハイブリッド授業となるとさらに難しさが増す。						
考察 (分析)	■ 「書く」指導では、オンラインという授業形態や受講人数の多さなどが障壁となり、実際に受講生が書いた「字」や「文章」についての確認が難しいケースがある。そういった場合は、一方的な授業になってしまいがちだが、どう相互に確認・指導できる環境を作れるかが改善のポイントとなる。						
レベル	-	スタイル	-	目的	-	言語活動	書く

課題	●継続しない/授業の入退出がおこる
具体的内容	■ 学生のオンライン環境により、授業途中での入退出が頻繁になることもある。それがだんだんオンライン環境によるものだけでなく、学生自身も入退出に抵抗がなくなり、教師が気づくといなくなっていることがある。 ■ 参加申し込みをしたものの、授業参加が出来なかった学習者がいた。理由は様々だと思うが、オンライン授業参加者が、意欲、実力ともに高まったのに対して、収穫が無かったのではないかと思う。「対面授業」というより、学校へ通い学ぶ環境があれば、参加せざるを得ない（登校せざるを得ない）ので、嫌々ながら実力が上がるのだと思う。オンライン授業は、拘束力が弱いかもしれない。だから、本気で学ぼうとする学生には良いが、興味本位の学生は、長続きしないのだと思う。参加しようとする意志が弱かった学生達も、次回、上手に参加できれば良いと思う。
考察 (分析)	■ 受講生のオンライン環境も助長している可能性や習熟意欲の低さなどから、受講生の入退出が頻繁になったり授業参加が疎かになるケースがみられ、今後の改善点だと考えられる。

レベル	A1 A2	スタイル	オンデマンド	目的	一般	言語活動	-
-----	-------	------	--------	----	----	------	---

課題	●机間巡視できない/何をしてるかわからない
具体的内容	■ やはり机間巡視ができなかったので、学習者一人一人のフォローがなかなかできないことである。近くに言って足場かけをすることも難しく、クラス全体の底上げになかなかつながらなかった。 ■ 机間巡視などができないことによる視界の狭さ ■ 本当の実力かどうか、手元が見えないため調べて答えているのか、判断が難しい。 ■ 学習者の手元が見えないので、学習と関係ないことをしていてもわかりにくい。 ■ 学生の顔だけしか見えないので、手元で何をしているかわからない
考察 (分析)	■ オンラインで、机間巡視ができなかったり受講生の手元が見えないといった状況など、一人一人への丁寧な指導がしづらい実態があり、課題と考えられる。

レベル	A1 A2 B1 B2	スタイル	オンラインのみ	目的	進学/就職	言語活動	-
-----	-------------	------	---------	----	-------	------	---

課題	●動きが伝わりにくい（介護の場面）
具体的内容	■ やはり、介護の場면을再現してロールプレイなどをやる場合は、動いてやりたい。それがオンラインでできなかったのは、残念だった。 ■ 説明することが多いと感じる。歩行介助、食事介助等動いてやりたい。それがオンラインでできなかったのは、残念だった。 ■ 介護用品の現物が母国の教室にないこと
考察 (分析)	■ 実際の職業場면을再現してロールプレイするケースなど、「動き」で伝える方が受講生にとってはより理解が進むと考えられるが、オンラインでは言葉で説明することが多くなり、情報量が多くなり過ぎその割には理解促進に繋がらないなど、が課題と考えられる。

レベル	A2 B1	スタイル	オンラインのみ	目的	就職	言語活動	-
-----	-------	------	---------	----	----	------	---

抽出の観点	●指導側のICT機器の環境整備や人員の確保
具体的内容	■ インターネット環境によって学習効率が大きく左右される点である。教師のICTへの知識の理解、またそれに合ったICT機器の準備等がまず必要である。また対面でのクラス内では黒板やWBをすぐに使え、対面では直接身振り手振りも交えながら、伝えられた物が、オンライン環境ではほぼまず不可能である。つまり教師として使えた当然の物理的な授業道具がオンラインでは使用できない。教室内では約50平方メートルで学習者の顔が見えつつWBも使え授業を行えたものを、パソコン一台で行うのは不可能である。現時点でICT機器に関する補助等はなく、教師自身が個別に準備して対応している状況であり、オンライン事業をする上では、環境整備は必須である。また逆に学習者の環境整備も必須であり、これによって学習効率が下がることが非常に多かった。 ■ 今回、ハイブリッドの授業だったため講師を2人配置し、オンライン・対面ともに配慮し、授業を行った。他のクラスがない時期の授業だったのでそれができたが、クラスが重なった場合は二人の講師を配置するのは難しいと思う
考察 (分析)	■ 教師側のICT（情報通信技術）の知識や理解が不足していたり、ICT機器の準備が整っていなかったりする場合など、インターネット環境によって学習指導効率が大きく左右されるといった課題があると考えられる。 ■ このような、教師側のICTの知識や理解促進やICT機器の準備などのサポートが、改善へ向けての重要な要素となる。

レベル	A2	スタイル	ハイブリッド	目的	進学/一般	言語活動	-
-----	----	------	--------	----	-------	------	---

3.本事業における成果・課題と オンライン日本語教育普及に向けた提言

JaLSA及び日本語教育有識者で構成される外部評価委員会において、本事業の事業評価を行い、「成果」「課題」をとりまとめた。

成果① 「授業のオンライン化」促進に繋がった

本事業による費用面（人件費）と設備面（機材、教材等）の支援により、これまでオンライン授業自体に取り組めなかった学校にとっては、オンライン授業を始める機会の創出になった。また、これまでオンライン授業に取り組んできた学校にとっては、オンライン授業促進の支援（さらなる後押し）にもなり、多種多様なコースを計画・実施していくことで新しい授業方法などを考えるきっかけにもなった。

さらに、チームで一つの目標に向かって取り組むといった体制をとることにより、教師間でオンライン化について共通の認識を持つことができ、同時に個々の教師の実践力の向上にもつながった。

アンケートにおいても、「継続してオンライン授業に取り組みたい」という回答が日本語教師で99.1%、日本語教育機関責任者で100%と、極めて高い割合で見られ、今後の継続した取り組みが見込まれる。

成果② 来日前指導の可能性を広げた

本事業を通じて、学習者が来日前から日本語を学習する新たな機会を創出することができ、来日前の学習者との関係構築、来日後も含めた学習者の学びの連続性の確認という点からも、学習者と日本語教師双方にとって新たな学びの機会となった。

また、教務にとっても学習者の募集段階から携れたことは、教務と事務との情報共有といった連携の面でも良い効果を生んだ。

日本語教師と日本語教育機関責任者を対象としたアンケートでも、来日前のオンラインによる日本語教育の機会提供の取り組み意向についても、「ぜひ取り組むべき」「課題はあるが取り組むべき」合わせると95%を超え、オンライン化促進の必要性が窺える。

成果③ 授業の内容や方法の可能性を広げた

本事業は、教材選択やコースデザインなどについて比較的自由度が高かったため、日本語教育機関では、それぞれの現状を踏まえ、自由に授業をデザインすることができた。

自主事業として用意した「オンライン教材」「動画教材」に限らず、個人作成の教材も活用しながら、授業内容に即してうまく教材を活用しようとする取り組みがアンケート回答からも窺えた。また、アンケートから本事業で制作した動画教材も「日本語学習」「日本理解」における役立ち度として95%を超える高い評価を得ていることが分かり、効果的な授業のデザインに貢献できたと考える。

以上のように様々な教材を活用し、レベルや言語活動を整理し、オンライン授業のメリット・デメリットを体験したことで、教師自身も授業デザインを再考する機会となり、日本語教師向けのアンケートからも教授能力・スキルの向上にも繋がったという回答は90%を超えている。

課題① オンライン授業を対面授業の代替ととらえる教育観からの脱却が必要

「対面授業をそのままオンライン上に移行して実施すること」をもってオンライン授業と考える傾向が強く見られた。例えば、報告会などでも「ネット環境の影響で時差が生じるためコースが難しい」「机間巡回が出来ないことで学習者の状況がよく見えない」「漢字の書き順指導が難しい」などオンライン授業の課題が多数挙げられた。こうした課題を解決するためには、対面授業とオンライン授業の違いを本質的に理解し、それぞれの特徴を生かした授業デザインが求められる。

一方で、コースの在り方、漢字の書き順指導の在り方等、オンライン授業を実施することで出てきた教育上の課題を通して、これまで当然のこととして実施されてきた授業方法の根本的な見直しを実施する好機ともなった。

課題② 日本留学の意義についての発信と教師力の強化

日本留学を目指す人材の確保は、日本語教育業界全体の大きな課題である。その課題解決に向けては、「今なぜ日本語を学ぶことが必要なのか」「日本に行って日本語を学ぶことの意義は何か」など、日本留学の意義や魅力が十分に理解されるような発信が重要である。その解決策の一つとして、オンラインでのプレゼンテーションや授業実施が考えられる。しかし、現段階では、そうしたことが限定的に行われていることを考えると、本事業を実施したことで見えてきた課題であり、今後、情報を共有しながら進めていくことが求められる。

また、こうした状況下、オンライン授業、対面授業に関わらず、教師の資質・能力のさらなる向上が求められることから、『日本語教育人材の養成・研修の在り方』（文化庁，2019）などの内容に基づく教師研修や勉強会などの実施が望まれる。

課題③ ハード面とソフト面でのサポートが必要

現状では、オンライン授業を実施するための環境整備は教師個人や日本語教育機関ごとの努力に委されているが、学校間の差も大きく個々での対応には限界もある。アンケート結果から、日本語教師の90.7%は既にオンライン授業の経験があり、本事業を通してオンライン授業の経験値は更に蓄積されたと考えられる。今後は教師と日本語教育機関がオンライン授業に積極的取り組んでいくためにもハード（通信環境などのインフラ整備）とソフト面（著作権やICTなどの研修）の両方において、個人や機関を越えたサポート体制の構築が急務である。

成果・課題を踏まえ、オンライン日本語教育の更なる普及のためには、オンライン授業を前提とした授業デザインを検討し実施していくことが必要である。そのための提言は以下の通りである。

提言① 実証事例や成果物および知見の共有

本事業で6団体が実証した事例や取り組み内容を、文化庁のホームページ等でオープンにみられるような仕組みを具体化していく必要がある。色々と制限等はあると思うが、できるだけ広くかつ速やかに周知し、共有することにより今後のオンライン日本語教育の普及に役立つと考えられる。また、本事業で実施した日本語教育機関協働のオンライン教育に関する研修会といった事例は、学校同士、ひいては日本語教育業界全体での知見の共有化と、オンライン日本語教育の更なる普及促進にも繋がり、日本語学校の存在意義も増すと考えられる。

提言② 社会の現状に即した人材活用と人材育成プログラムの実施

現職日本語教師のオンライン日本語教育のスキル向上は勿論のこと、オンラインへの対応能力に優れたデジタルネイティブ世代の積極的な採用と育成といった次の世代を育てていくことに業界全体として取り組んでいく必要があると考える。

タブレットやデジタルツールのさらなる活用等を考えると、教師の新たな発想や可能性が生かせる土壌を醸成していくことが重要である。そのためには、さまざまな教師の特性を生かした教育実践が求められることから、更にきめ細やかな教師教育、教師研修が求められる。

さらに、教師力の向上という観点から、『日本語教育の参照枠』を適切に理解し実践できる教師の育成をめざした研修プログラムの開発と実行が重要である。

提言③ 日本語学校業界全体の連携と他業種との協働

オンラインの普及により場所と時間による制限が緩和され、様々な課題もあるが日本語教育の可能性は大きく広がった。

今後はオンラインの特性とメリットを活かし、知見や技術、また改善への取り組みを学校の垣根を越えて、団結・連携して取り組んでいくことが重要である。更に本事業のように他業種の知見・技術の支援が加わることで、更なる普及と定着が目指せるのではないかと考えられる。

（日本語学校によっては、教師個人で通信機材を負担している場合もある。このような現状は、決して好ましいものではない。）